

創立50周年記念誌

八戸鉄工の歩み



八戸鉄工連合会

創立50周年記念誌

八戸鉄工の歩み

八戸鉄工連合会



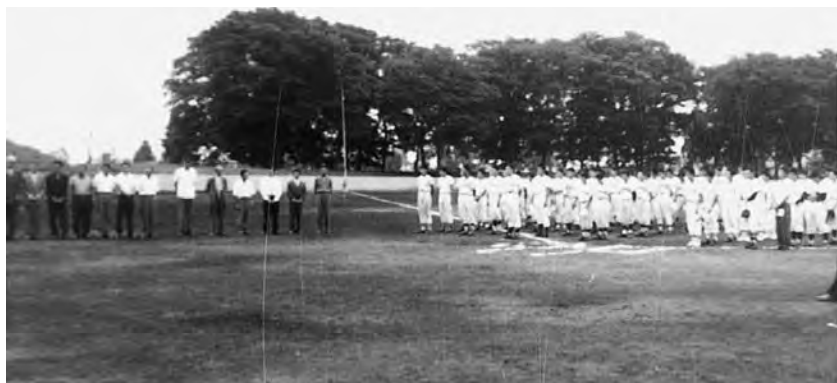
平成22年 現在の八戸港

ますます発展する八戸市工業地帯

鉄工業界は鉄の輪を広げ、豊かなまちづくりに向けて貢献して参ります。



昭和36年 50年前の八戸港



昭和38年 第1回野球大会開会式



昭和40年に行われた運動会



昭和41年 鉄工連共同宿舎落成祝賀会



昭和41年 従業員及び家族慰安会



昭和51年 創立15周年記念式典及び従業員家族慰安会



平成4年 第30回野球大会



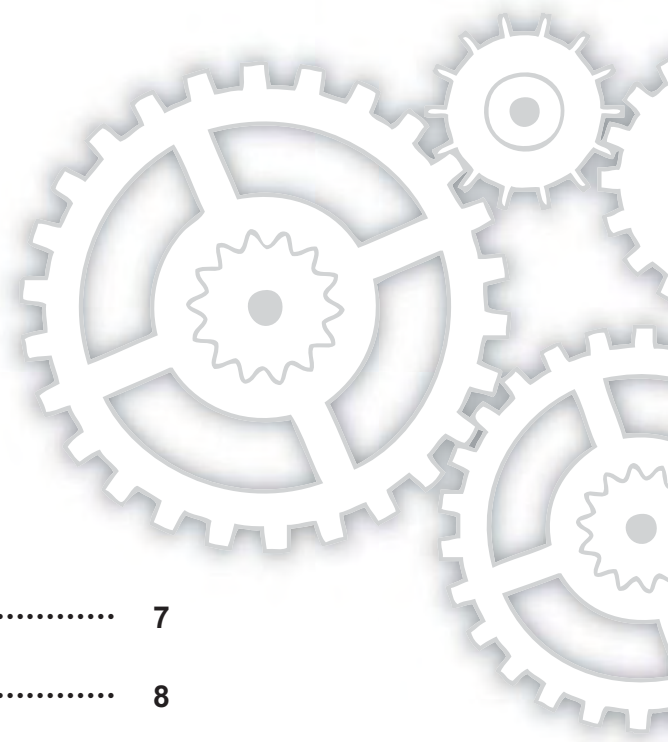
平成14年 第40回野球大会表彰式



平成16年 第1回パークゴルフ大会



平成22年 ボウリング大会始球式



目 次

発刊のご挨拶	7
祝 辞	8
歴代役員・現役員紹介	11
回想録	17
50年の歩み	21
座談会	55
創立50周年記念事業	73
東日本大震災被害状況	77
年 表	81
会員事業所名簿	99
編集後記	115



八戸鉄工連合会 会長

田 中 健 二

ご挨拶

八戸鉄工連合会の創立50周年にあたり一言ご挨拶申し上げます。

まずもって、先の東日本大震災で犠牲になられた多くの方々に深い哀悼の意を捧げます。また被災地の皆様が一日も早く日常の生活に戻れますよう、心よりお祈り申し上げます。

さて、当連合会は昭和36年3月に八戸市、八戸商工会議所の働きかけにより、市内の鋳物、内燃機、鉄工の各協議会が一本化され発足を致しました。以来八戸鉄工業界のまとめ役として福利厚生、安全労務対策、教育訓練、集団化事業などを実施し、ここに50周年を迎えることができました。これも偏に八戸市、青森県、八戸商工会議所等関係各方面及び金融機関の皆様のご指導、ご鞭撻によるものと心より深く感謝とお礼を申し上げます。また当連合会の発展のために尽力されてこられました歴代の役員、諸先輩、そして会員事業所の皆様のためみないご努力に対しても、心より敬意を表し感謝申し上げます。

この間高度成長に支えられ、また新産業都市八戸に進出してきた多くの企業の建設と操業に携わりながら、当連合会会員事業所は顧客のご要望に応えるため、技術の習得と設備の充実に努力して参りました。その結果、東北地方でも有数の工業都市となった八戸を支える重要な業種に成長してきたものと自負しております。またオイルショック、バブルの崩壊、リーマンショックなど幾多の経済危機にも、関係各位の絶大なるご支援と、会員事業所個々の熱意と努力によって乗り越えることができました。

さらに当連合会会員事業所にて構成される業界関連組織では、青森県、八戸市の支援によりむつ小川原油国国家備蓄基地、原子燃料サイクル施設などのエネルギー関連プロジェクトをはじめ、橋梁・鉄骨などの公共事業の共同受注にも取り組み、その時々々のいろいろな課題を克服しながらも、全国的にも例を見ない共同受注による大きな成果をあげることができました。このことは、当連合会会員事業所同士の長年にわたる活動の中から生まれた、相互信頼と結束の強さによるものと存じております。これからは青森県内では原子力をはじめとし、風力など再生エネルギーの事業化計画、また八戸市内においてもLNG基地の建設が開始され、会員事業所もその経済波及効果に大きな期待をもっているところであります。

日本経済はこの先も一段とグローバル化が進み、国内の製造拠点の海外移転が加速する厳しい経済環境が続くことが予想されます。しかしながら当連合会及び会員事業所は、これまでの活動によって確立された確固たる基盤の上に立ち、今まで以上の相互信頼と結束の強さを発揮し、会員事業所のレベルアップにより八戸鉄工業界への信頼性向上を図り、微力ではありますが地域経済の発展に少しでも貢献して参りたいと考えております。

最後になりますが八戸市、青森県はじめ関係各位におかれましては、これまでにも増して八戸鉄工連合会への絶大なるご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。挨拶の言葉とさせていただきます。



八戸鉄工連合会 創立50周年を祝して

青森県知事

三 村 申 吾

八戸鉄工連合会の創立50周年を心からお祝い申し上げます。

貴連合会は、高度経済成長に伴う産業構造の近代化が進む昭和36年、八戸地域の鉄工業全体の高度な成長を促進することを目的に鋳物、船用内燃機、鉄骨製缶の鉄工三業種の連合組織として発足いたしました。

以来、今日まで50年の長きにわたり、会員相互の緊密な連携の下、八戸地域の鉄工業界の要として、福利厚生事業、労務管理・教育訓練事業、集団化事業等時代の変化に対応した事業活動を展開し、業界発展に多大の貢献をしてこられました。田中会長をはじめ、歴代の役員並びに会員の皆様のこれまでの御尽力に深く敬意を表します。

さて、この度の東日本大震災では、甚大な被害が広範囲に及び、本県においても、多くの方々が被害を受けられました。貴連合会の会員の企業も被害を受けられたと伺っております。

県としては、被災された方々の一刻も早い生活再建や産業復興に向け、また、県民の皆様が互いに支え合い、総力を結集して、青森の元気、東北の元気回復に繋げていくため、皆さまと共に全力で取り組んでいきたいと考えていますので、今後とも一層の御理解と御協力をお願いいたします。

また、県では、産業・雇用分野を県政の最重要課題と位置づけ、地域中小企業の活性化や、本県の特性を活かした「あおり型産業」の創造・育成、国の基金事業を最大限に活用した緊急雇用対策などを積極的に進めているところです。

八戸地域は北東北を代表する産業拠点であり、地域産業の発展に向け、「三八地域ものづくりプログラム」に基づき、産業人材育成や地域企業の受発注拡大など地域が一体となった取組を進めていきます。

貴連合会は、これまで生産施設の近代化を積極的に推し進めるとともに、生産性の向上、従業員の福祉の向上などを進められてきましたが、引き続き時代の要請に対応しつつ、さらなる飛躍を目指して邁進されることを願っております。

最後に、八戸鉄工連合会のますますの御発展と会員の皆様の御活躍をお祈りし、お祝いの言葉といたします。



八戸市長

小林 眞

祝 辞

八戸鉄工連合会の創立50周年、誠におめでとうございます。心からお祝い申し上げます。

貴連合会は、昭和36年3月4日、八戸地域における鉄工業界の高度化等を目指し、鋳物・船舶用内燃機・鉄骨製缶関連の3団体70事業所が集まり設立されました。

爾来、半世紀にわたり、時代の変遷に対応しながら様々な活動に取り組み、鉄工業界の高度化並びに地域産業の振興に多大な御貢献をされてこられました。これも偏に歴代会長を始め、役員・会員事業所の皆様のたゆまざる御努力の賜物と深く敬意を表す次第であります。

貴連合会が設立された頃は、折しも、我が国経済は戦後復興を成し遂げ、高度経済成長期を迎えていた時代であり、全国各地において工業振興・産業の高度化が進められていた時期でもありました。

昭和39年3月に、当市を含む8市町村が「八戸地区新産業都市」の地域指定を受けたことにより、全国トップクラスの水揚げを誇る水産都市であった当市も工業集積が急速に進み、八戸第二臨海工業地帯、桔梗野工業団地、八戸グリーンハイテクランドが整備され、重厚長大型産業から金属・機械加工、更には精密部品加工や情報通信関連産業等、さまざまな分野の産業が集積する都市として発展してまいりました。

こうした当市の産業集積が進む過程において、貴連合会の会員事業所が中心となって取り組まれてきた生産施設高度化事業や八戸鉄工団地の集団化事業、求人キャラバン運動等は、当市における企業体質の向上に先鞭を着ける取組になったところであり、また、地域一体の取組により、北日本造船株式会社の前身である鉄鋼造船所や北日本鍍金株式会社が設立されるなど、当市の工業振興の礎を築く大きな原動力となったものと思っております。

ここに改めて、これまでの貴連合会の取組に、心より深く感謝申し上げる次第であります。

この3月の東日本大震災では、当市も大津波によって未曾有の人的・物的被害に見舞われ、生活インフラや地域産業への直接的被害に加え、サプライチェーンの混乱に伴う地域経済への影響など、間接的な被害も大きなものとなったところではありますが、あれから半年余りが経過し、被災工場の相次ぐ操業再開、東北新幹線全面復旧に伴う通常ダイヤでの運転再開など、復興は着実に進んでおります。これからも皆様と手を携え、心を一つにして復旧・復興を進めていくことにより、単なる復旧に留まらない、より強い、より元気な、より美しい八戸を創造してまいりたいと考えておりますので、皆様におかれましては、より一層の御支援と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

八戸鉄工連合会の今後ますますの御発展と会員事業所皆様の御隆昌を祈念し、お祝いの言葉といたします。



祝 辞

八戸商工会議所 会頭

福 島 哲 男

八戸鉄工連合会が昭和36年に創立され、今年で50周年を迎えられますことを、心からお慶び申し上げます。

さて、八戸鉄工連合会は昭和30年代の日本経済の発展に呼応するように、臨海工業地帯への大手工場の進出と設備の増強に伴い、業界が一致団結して生産性の向上と企業体質の改善を目的に、鉄工機械工業、船用内燃機工業、鋳物工業の3つの地場鉄工関連業種が母体となって発足されました。

八戸鉄工連合会が最も力を入れて取り組んだのは、遅れている経営、技術、労務対策事業等の諸問題の克服のための、生産設備の近代化と経営の合理化、従業員の福利厚生の上昇でありました。

昭和44年3月には、鉄工関連企業に従事する従業員の定着対策として、八戸で最初の厚生施設である従業員共同宿舎の建設をはじめ、八戸鉄工連労働災害防止対策協議会を設立し、労働災害の撲滅を目指し、事業所の巡回、教育訓練などの各種啓発活動を自主的に実施されました。昭和45年には鉄工業界初の集団化・高度化事業を活用した八戸鉄工団地が完成し、鉄工会館の建設、更には、北日本造船(株)の前身である「鉄鋼造船所」を設立するなど、地場鉄工業界の体質強化を図るため並々ならぬご尽力をされました。

その後の激変する経済環境の中で、さらなる集団化事業、共同事業の推進、関連会社の設立、むつ小川原国家石油備蓄基地や核燃サイクル施設建設工事の共同受注など、八戸鉄工連合会の中心母体である八戸鉄工協同組合、八戸鉄工団地協同組合、協同組合八戸金属工業センターをはじめとした関係団体が原動力となって経営基盤の強化を図ってこられました。

一方、従業員の福利厚生事業では、野球大会、釣り大会、ボウリング大会、パークゴルフ大会、そして従業員家族慰安会等の諸事業を通じて、福利厚生の上昇にも大きな成果をあげられました。

以来50年、将来を見据え、多岐にわたる先駆的な事業に取り組んだ結果、現在では八戸の地場産業として、確固たる地歩を築き、地域開発の重要な一翼を担い発展しておられ、その意欲的活動は八戸産業界の模範として内外からも高く評価されております。

これもひとえに歴代会長のもと役員、関係各位が一体となって地場鉄工業界の近代化に心血を注いだ賜物であり、その先見性に深く敬意を表する所でございます。

商工会議所としても経済界の立場からその必要性を認識し、事務局をお預かりし、労務改善、福利厚生事業を中心にその運営に参画し、微力ではございますが地場鉄工業界の振興・発展に寄与できたものと存じております。

八戸鉄工連合会は地域社会への貢献も含めその活動も多岐にわたっておりますが、経済をめぐる環境変化を踏まえて機動的・実務的な活動が一層求められており、50年の記念すべき大きな節目を契機として、その果たすべき役割は一層重要性を増しております。

去る3月11日に発生した東日本大震災により、被害を受けられました八戸鉄工連合会会員の皆様に謹んでお見舞い申し上げますと共に、この震災を乗り越え、更に一致団結した力を結集され、これまで蓄積された諸事業の実績と先人達が築き上げてこられた歴史・成果を活かし、企業や地域社会の大きな期待に応える活動と、産業都市八戸市発展の牽引役として更なる飛躍を祈念申し上げ、創立50周年の祝辞と致します。



歴代役員・現役員紹介

歴代会長



田畑 一
初代
(昭和36年4月～39年3月)



田村義三郎
二代
(昭和39年4月～40年3月)



小森卯之助
三代
(昭和40年4月～5月)



中里 信男
四代
(昭和40年6月～62年3月)



田村 幸男
五代
(昭和62年4月～平成16年3月)



古戸 良一
六代
(平成16年4月～22年3月)



田中 健二
七代
(平成22年4月～現在)

歴代副会長

初代：田畑一会長時代

田 中 喜 一
牛 田 雄 也
船 木 仁三郎



田中 喜一

(昭和36年4月～40年3月)



牛田 雄也

(昭和36年4月～39年3月)



船木仁三郎

(昭和38年4月～46年3月)

二代：田村義三郎会長時代

田 中 喜 一
船 木 仁三郎
田 畑 一



田畑 一

(昭和39年4月～46年3月)



高砂 善男

(昭和40年4月～46年3月)



安ヶ平重吉

(昭和46年4月～48年3月)

四代：中里信男会長時代

船 木 仁三郎
田 畑 一
高 砂 善 男
安ヶ平 重 吉
祐 川 実
小野寺 圀 夫
田 村 幸 男
田 島 幸 明



祐川 実

(昭和46年4月～平成7年3月)



小野寺圀夫

(昭和46年4月～平成7年3月)



田村 幸男

(昭和48年4月～62年3月)

五代：田村幸男会長時代

祐川 実
小野寺 罔 夫
田 島 幸 明
三 浦 賢 策
越 村 幸 男
古 戸 良 一
小野寺 泰 博
田 島 幹 二
田 中 勝 行



田島 幸明

(昭和60年4月～平成10年3月)



三浦 賢策

(平成4年4月～10年3月)



越村 幸男

(平成7年4月～13年3月)

六代：古戸良一会長時代

小野寺 泰 博
田 島 幹 二
田 中 勝 行



古戸 良一

(平成7年4月～13年3月)



小野寺泰博

(平成10年4月～現在)



田島 幹二

(平成13年4月～現在)

七代：田中健二会長時代

小野寺 泰 博
田 島 幹 二
田 中 勝 行



田中 勝行

(平成13年4月～現在)

現 役 員



田中 健二
会 長



小野寺泰博
副会長



田島 幹二
副会長



田中 勝行
副会長



三浦 隆宏
理 事



安ヶ平征司
理 事



菅原 章夫
理 事



稲塚 良一
理 事



田村 嘉章
理 事



上柿富久夫
理 事



久能木健二
理 事



小川 洋成
理 事



押田 進武
監 事



船木 康行
監 事



中里 信男
顧 問



田村 幸男
顧 問



古戸 良一
顧 問

八戸鉄工連労働災害防止対策協議会 歴代会長



榎本 勝美
初代
(昭和44年4月～56年3月)



田島 幸明
二代
(昭和56年4月～平成10年3月)



吉田 誠一
三代
(平成10年4月～16年3月)



小野寺泰博
四代
(平成16年4月～現在)



回想録

寄稿

鉄工連50周年を顧みて

顧問 中里 信 男

(八戸鉄工連合会 四代会長)



昭和20年4月1日、太平洋戦争たけなわで、いよいよ米軍が沖縄本島に上陸した日でもありました。私は、八戸の日本砂鉄鉄鋼業株式会社八戸工場（扶桑第650工場という軍需工場）勤務のため、八戸駅（現：本八戸駅）ホームに午後3時に降りました。工場は従業員1,400名で海砂鉄からバナジウム（レアメタル）と海綿鉄生産をしており、その機械の保全管理の技術見習の辞令交付を受けたのが18歳の時。これが鉄工の仕事に従事した始まりでした。以来、戦後66年、この間に技術の道、鉄工業、そして政治の道、地域社会活動等を通じ、多くの方々との出会いをいただき、現在84歳の高齢期を迎え、八戸鉄工連合会50周年記念誌に御礼とお祝いのご挨拶を申し上げる機会を得ました事、誠に光栄に存じ、会員皆様方と共に慶びに耐えません。心よりお祝い申し上げます。

顧みますと、昭和20年8月15日の終戦を迎え、廃墟と化した国土に、国民はただ茫然自失の状態でありました。昭和25年の国土総合開発法、そして、昭和37年全国総合開発計画、新産業都市建設促進法等により、日本経済は復興から再建への道を歩んでおりました。そして高度成長期に向かった時期、昭和39年6月八戸鉄工協同組合総会に於いて、理事長田中喜一さんから図らずも私が引き継ぐ事になったのでありました。当時、私は東北建機工業を創業して僅か10年、年齢37歳の若僧であり、理事長の任など全く考えられませんが、固辞して東京出張致したのでありますが、帰八して叱られ引き受けざるを得

ない羽目になった訳でありました。引き受けました以上は、最善の努力を傾注せねばならないと覚悟致しました。

当時、中小企業経営理念は系列化・専門化・共同化の三分野と認識しておりましたが、組合運営は共同化の分野で出資金150万なのですが、事務所も事務局ありませんでしたので、先ず、事務所用地を高砂鉄工さんの用地を一部お借りし、プレハブ事務所を設置、事務局長に神達也氏を迎えて出発したのでありました。

ところが、その事務局運営の財源探しに苦勞致しました。当時、八戸鉄工業界の「酸素アセチレン」が中央に比較して高いと度々指摘されておりましたので、組合員に図り、共同の大量仕入れによって、価格低減を図り「約15万円を月当たりの組合運営に協力して欲しい」と大変申し訳なかったのですが、八戸酸溶会に無理なお願いを致したのでありました。

色々課題はあったのですが、酸溶会では協力して下さいまして、長年に渡り組合運営に寄与して頂きました。ご高配に改めて感謝申し上げます次第であります。

さて、次に日本経済も40年代に入り高度成長期になると、鉄工の仕事も多忙になり、各企業共、トラッククレーン、コンプレッサー、ブルドーザー、ダンプカーや各々工作機械等、数々の設備投資が必要性に迫られたのでありました。そこで、個々の企業では対応しきれませんでしたので、共同リース会

社設立の声が高まり、第1段階として松尾鉦業出身の阿部甚一氏（業務責任者、後の代表取締役）を招聘し、共同出資会社の八戸鉄工建設株式会社を設立したのであります。

その後、業界内のリース業を手掛ける企業より「組合と組合員事業の競合が出るので、組合はクレーン事業に限定して欲しい」との要望があり、昭和41年8月、クレーンリース事業の八戸鉄工建設株式会社及び八戸鉄工協同組合の新社屋、鉄工会館の建設に踏み切ったのであります。

以来、鉄工会館は業界情報交換やコミュニケーションの場として有効活用され、業界発展の基盤的役割を果たして来たものと認識いたしております。

その主なる業績を振り返りますと、

- (1) 鉄工連職業訓練所（事務局：押田進武氏）
- (2) 八戸鉄工団地建設
- (3) 鉄工みどり寮（従業員共同宿舎）建設（昭和44年4月）及び廃止
- (4) 八戸鑄鉄管協会（昭和44年5月）
- (5) 労働災害防止対策協議会発足決定
- (6) 北日本造船株式会社設立運動
- (7) 県立八戸工業高校定時制過程設置運動
- (8) 青森県鉄工連協同組合設立運動
- (9) 八戸金属株式会社（後に青森金属に名称変更）設立運動
- (10) 八戸内燃機工業協業組合設立運動
- (11) 八戸下請振興協会設立（昭和48年）



ポートアイランドに架かるシーガルブリッジの竣工

- (12) 北日本シャーリング株式会社設立
- (13) 八戸鉄工協同組合官公需適格組合（昭和50年）認可取得運動
- (14) 八戸鉄工協同組合は中小企業雇用管理近代化モデル集団化に指定され体育館建設運動（昭和50年）～共同福祉センター完成（昭和54年）
- (15) 八戸金属工業センター設立運動（昭和55年6月）
- (16) 桔梗野金属工業協業組合設立（昭和55年10月）
- (17) むつ小川原石油国家備蓄基地建設工事共同受注
- (18) 北日本鍍金株式会社（共同出資会社）設立運動（昭和57年）
- (19) 八戸鉄工協同組合による福井県敦賀原子力発電所視察（昭和58年）
- (20) 核燃料サイクル施設建設への取り組み決議（昭和61年）
- (21) フランス ラ・アーグ再処理工場他視察
- (22) 中小企業倒産防止共済制度制定運動

等々、八戸商工会議所の佐川達夫事務局長さんを始め、ご関係皆様方の指導助言を頂きながら、鉄工会館を基点とする数多くの事業の展開が回顧されるところです。その運営にあたって来られた田村幸男元理事長始め歴代役員並びに会員の皆様方の弛まざるご尽力に対し、改めて感謝申し上げます次第であります。

以上申し上げた如く、着実に鉄工業界の進展も見られたのでありますが、今日の我が国の政治経済、社会情勢を見ます時、まさにその変化は著しく混迷の時代であり「日本の将来は？」「経済・雇用・社会はどうなるのか？」多くの国民は不安を持ち、希望を求め、私共、鉄工業界も厳しさを思案しておると思われます。

私は皆様方のご推薦をいただいておりますお蔭様で昭和42年以降、市議、県議、市長職等、地方自治32年そして、全国市長会の新産都市協議会長をも経験し、働かせて頂きました。その間、世界の37ヶ国・51都市を見て参りましたが、今日、長年の知見、体験談を



通じ、少しでも参考になればと未来指向のご提案を申し上げ、お役に立ちたいと願っております。

顧みますと、平成6年8月の市長現職時代、八戸港に東北初のコンテナ航路開設を致しまして、11月にはインドネシア・ジャカルタの工業団地（日本の丸紅と現地資本）に八戸港利用のポートセールスに参りました。その規模は350ヘクタールを開発中で、既に23社が操業。最終的に100社程度で総従業員60,000名、ソニー、ロッテ、松下電器等、大手企業と日本の中小企業の進出が目立ち、日系企業の割合は7割に達すると言う説明でした。更に一般女子工員の日給は平均200円と極端に低額であると言うこと。工場で、女子工員は日本製の機械を使用し、日本人技術者指導の下、日本から運んで来た人口水晶を加工して電話部品等、高度技術製品を作っており、製品は日本にも輸出すると言うことです。私はショックでした。将来、東南アジア諸国、中国、韓国、台湾と考える時、恐るべきコスト競争時代が来る予感がし、気が重くなったことを今でも忘れることが出来ません。

以来、17年の歳月を経ましたが、日本の自動車産業を始め各種産業の現地生産指向が高まり、国内産業の空洞化傾向が、日本経済社会の混迷に拍車をかけておるのではないのでしょうか。良く先輩方から「不景気には我慢と勇気」と教わりましたが、今日、そのみではなく、過去の鉄工業界変遷の歴史を省

みて各課題の見直しと先人に学び、厳しい変化への対応が求められておる時代と思われてなりません。

かつて、明治維新時代に「白河以北一山百文」と言われ、中央との格差を侮られた時代もありましたが、地域住民の長年の願いが実りまして、平成22年12月東北新幹線全線開通を見ることが出来ました。高速道、国際貿易港の機能等、各インフラも整って参りました。幸いにして、私共の八戸は恵まれた自然、歴史、文化、人情豊かな都市形成資源を数々有し、長期展望に立てば、大きな発展可能性を持った有難い街であると信じております。我が国は今日まで、資源小国“日本”の国是としての技術立国の道を希求して参りましたが、国際社会に生きる基軸は今後も相当の厳しさが想定されますけれども、変わりなく、それだけに国・地方を問わず道を拓くには、機械金属加工業の存在、そして果たす役割は不可欠であると申し上げて過言ではないと存じます。

どうぞ業界の皆様方、この度の50周年の記念すべき年を契機と致しまして、幾多の困難を乗り越えて一層のご活躍、ご発展をなさいますよう切に祈念いたしまして御礼と御祝いのご挨拶と致します。

中里信男氏の主な経歴

公 職 歴

- 昭和42年5月～昭和46年3月 八戸市議会議員（1期）
- 昭和46年4月～昭和60年10月 青森県議会議員（4期）
- 昭和58年5月～昭和59年10月 青森県議会副議長
- 平成元年11月～平成13年11月 八戸市長（3期）

主な職歴並びに団体歴

- 昭和39年6月 八戸鉄工協同組合 理事長に就任（昭和42年5月退任）
- 昭和40年6月 八戸鉄工連合会 会長に就任（平成元年11月退任）
- 昭和41年12月 八戸鉄工団地協同組合 理事長に就任（平成元年11月退任）
- 昭和44年12月 青森県鉄工連協同組合 理事長に就任（平成元年11月退任）
- 昭和47年5月 (社)日本溶接協会 青森県支部長に就任（平成元年11月退任）
- 昭和54年6月 (社)青森県中小企業診断協会 会長に就任（平成11年6月退任）
- 平成元年11月 八戸鉄工連合会 顧問に就任し、現在に至る
- 平成8年3月 全国市長会新産業都市協議会 会長に就任（平成13年11月退任）

受 賞 歴

- 平成14年10月 八戸市特別功労者
- 平成14年11月 勲三等瑞宝章
- 平成19年11月 八戸市名誉市民



50年の歩み

八戸地方の鉄(てつ)工業の発祥

八戸地方の鉄の歴史はこれといった明確な資料はないが、奥羽地方に製鉄技術が入って製鉄を始めたのは中世末期、慶長時代頃とみられている。慶長年間には野田(岩手県)で釘(くぎ)が作られ八戸にも鍛冶がいたとされている。

製鉄は中国地方(出雲、備後)流の技術を基にした木炭で砂鉄を溶かす「たたら吹き」によっていた。たたら吹きは原料鉱石の倍の木炭を必要としたとされるため、木炭原料の森林資源も当時の鉄生産では産地を形成する要因でもあった。たたら吹きは明治30年代まで続いたとされる。八戸では嘉永年間の1850年頃に大砲を鑄造したという神代嘉右衛門という鑄物師の存在があった。八戸の鑄物関係者の中で登場する一番古い人物となっている。

嘉右衛門氏は軽米の出身で長者山下の山伏小路に本店、軽米に支店を出し日用品鑄物を鑄造していた。この嘉右衛門に坂下、工藤の両氏が安政6年(1859年)、ともに15歳で弟子入りしている。坂下氏は一足先に独立し、工藤(嘉次太郎)氏は明治2年(1869年)に独立、吹上で日用品鑄物の鑄造を始める。この頃、藩おかかえの鑄物師で苗字帯刀を許された上村氏がいたが、廃藩後の明治10年頃、吹上仲町に移り住み、同地で鑄物をつくった。



新産指定後工業用地造成をまえに八戸第2臨海工業地帯での砂鉄採掘の様子

八戸地方の鉄(てつ)工業は慶長年間に発祥し、1800年代後半から鑄造技術の発展と幾人かの先人達の尽力が明治・大正・昭和の時代の流れを技術革新と共に現在の鉄工産業の形成に結びついていった。

八戸鉄工機械工業組合の設立

昭和11年8月に八戸鉄工機械工業組合の発起人に牛田盛重(雄也)、高橋治作、田村練太郎、加藤富三郎の4氏を選び、組合事業などを決め、12月26日付で商工省から認可を得ている。



八戸鉄工機械工業組合の組合事務所と組合員

当時の八戸市の鉄工業は、ほとんどが家内工業で漁船の発動機、漁器具類、その他の部品の修理加工を行う機械設備がととのっていないため関東や関西方面から部品を買わなければならなかった。業者のなかには小規模の工作機械を入れて小型船舶用発電機や部品の製造をしているところもあったが、遠洋漁業、漁業用発電機のディーゼル化に対応するためには機械設備の増強が必要になってきた。合わせて軍需品の受注もしようということで組織化による共同工場を計画し、昭和13年5月には軍需品を大量受注した。国庫補助や戦時工業転換施設補助金交付を受けて、昭和14年12月に共同工場が完成した。

しかし、この間の昭和13年1月には組合幹部の独断運営を不満として、会員8名が組合を脱退してい

る。脱退理由は「組合幹部は組合定款を無視して独断で事業を行い、建設中の共同工場も当初計画を大きく上回る大規模なもの。組合資金では維持できない。臨時総会開催の要求にも各種理由づけをして応じないばかりか脱退すれば営業停止、工場機械の差押えなどを行う」というものであった。昭和13年7月現在の資料によると組合員数はこの脱退組を含め45名となっている。

八戸鉄工機械工業組合では技術員養成も行い、昭和14年12月から15年2月までの3カ月間に第1期機械養成工として51名を送り出している。

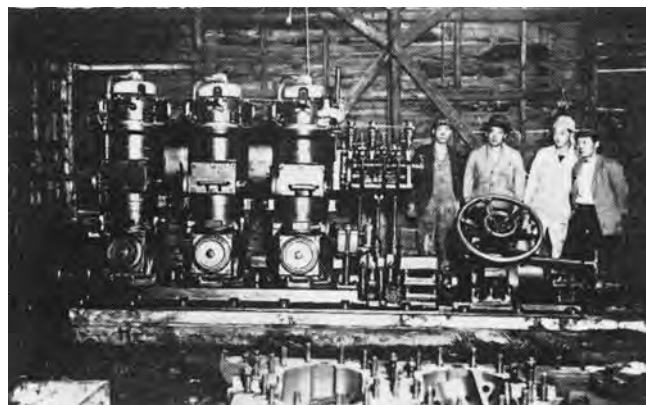
企業合同で大東機械製作所を設立

通称「大東内燃機」と呼ばれた会社は、牛田盛重(雄也)氏の記録によると有限会社八戸航空機製作所が大東機械有限会社となり、それが株式会社大東機械製作所となって、戦後まで続いている。

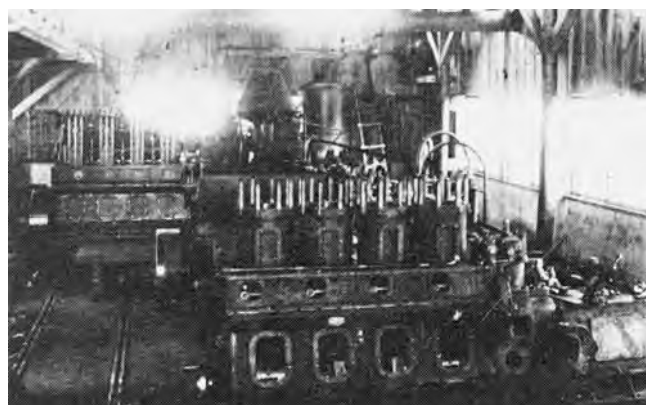
戦時色が強くなると自然と鉄関連の工業資材などの入手が難しくなり、供給ルートも組合一本化の傾向が強くなっていった。昭和10年設立の八戸造船鉄工組合、昭和11年設立の八戸鉄工機械工業組合など組合の組織化が必要となってきた。

八戸鉄工機械工業組合は、内燃機関の製造修理、鉄骨、製缶、機械加工、鋳物業者らが参加していたが、八戸造船鉄工組合は八戸魚市場の系列機関として設立した組合であり、暫くして経営が行詰り、後には同社漁船船渠(きよ)部となるが、戦時色がさらに色濃くなると企業合同が進められることになっていった。八戸鉄工機械工業組合は昭和15年に組織変更し、有限会社の大東機械を設立(牛田盛重社長)しているが、八戸魚市場漁船船渠部もこの大東機械製作所に企業合同の形で参加していたと思われる。

八戸鉄工機械工業組合は共同工場を建設していたが、これらの生産設備全部を新会社へ移管(田畑一氏は移管業務を担当した1人)しており、古川寅蔵と田村練太郎の両氏はこの移管を違法とし裁判所へ



昭和18年頃製作の漁船用2気筒エンジン



昭和22年頃三晶鉄工所で生産した漁船用20型4気筒エンジン

訴えている。また、昭和16~17年頃、鋳物工場は、馬淵川の切り替え工事中に水害に遭ったり火災にあうなど、かなりの被害を出している。

大東機械製作所では蒸気エンジン、砲弾、手りゅう弾などを生産したが、戦争が激しくなると出川留蔵氏(三晶鉄工場経営)のように南方開発参加を決意する人も出た。同氏は機械設備を集め、鮫港から南方に向けて積み出すが、船は宮城県沖で攻撃を受けて沈み、また、出征で工員のいなくなった工場から機械を集めるが終戦となる。

戦後は資材不足でエンジンなどの製造ができず、修理に転換するが、昭和21年に池貝鉄工が資本参加するものの、参加した各工場らが再び独立を始め技術者は不足、機械設備は遊休化し、機械等を希望者に売却するに至っている。昭和24年から26年の八戸商工会議所役員に大東機械製作所代表が就任しているが、昭和25年頃には自然解体していたと思われる。

産地診断から八戸鉄工連設立

昭和32年、青森県による八戸地区鋳物工業産地診断が実施され、10月に診断勧告書が出された。その内容は品質は劣悪、設備は東南アジア一円の鋳物工場以下と手厳しいもので、物議をかもしたが、逆にこれが刺激となり、業界にも前向きに取り組もうという動きが出てきた。

その勧告書が刺激となって昭和33年2月、八戸鋳物工業振興協議会（田畑一会長）が設立され、さらに、同年11月八戸鋳物協同組合（田畑一理事長）の設立に至った。翌34年には八戸内燃機工業産地診断が実施され、同年11月、八戸船用内燃機工業振興協議会（牛田雄也会長）を設立。さらに35年には八戸地区機械工業産地診断が実施され、同年8月、59事業所が参加し、八戸鉄工業振興協議会（田中喜一会長）が設立されている。

鋳物、船用内燃機、鉄骨製缶の鉄工3業種の連合組織として、昭和35年12月、市と商工会議所は各代表を招き業界の大同団結による近代化を呼びかけた。翌36年2月22日青森県金属材料試験所が36～38年度事業として開設することが決定されたため、その受益者代表会議が市庁で開かれた。その席で鋳物、内燃機、鉄工の各協議会の一本化について再度協議し、八戸鉄工連合会の発足を正式決定した。同年3月4日設立総会を開催し、鋳物16社、内燃機14社、鉄骨製缶40社の70事業所、従業員数1,550名をもって八戸鉄工連合会が結成された。初代会長は田畑一氏、副会長に田中喜一氏、牛田雄也氏を選任した。

昭和30年代の産業構造の近代化が進む中で共存共栄という目的の下に結集した八戸鉄工連合会は、当時地場中核産業であった砂鉄製錬において、現地生産されるインゴット（砂鉄銑）を、より付加価値の高い製品の生産に結びつけられないかという、林俊夫氏（当時市商工課長、後に助役）の発想から出発したもので、市、商工会議所が一体となり業界を牽

引した結果が大きな実を結ぶこととなる。

主な活動のあらまし

新たな可能性を求め昭和36年3月4日に誕生した八戸鉄工連合会は、鉄工業界全体の要として、会員事業所の福利厚生事業、労務対策事業（集団求人・求人キャラバン活動）、教育訓練事業、後の八戸鉄工団地をはじめとする集団化事業の推進、また、特筆すべき事項として、従業員の採用確保と定着のため八戸で初の従業員共同宿舍の建設、さらには現在の北日本造船株式会社の前身である鉄鋼造船所の設立等生産施設の近代化を積極的に推し進めるとともに、併せて生産性の向上・従業員の福祉の向上など企業体質の改善に乗り出していくことになった。

福利厚生事業では、鉄工連合会設立以来続いた伝統行事の野球大会、魚釣り大会は、レジャーの多様化とともに、それぞれ平成14年の第40回大会、昭和



八戸鉄工連合会共同職業訓練所修了式



職業訓練所第1回製図講座修了記念

59年の19回大会をもって中止され、誰でも手軽に楽しめるボウリング大会、パークゴルフ大会にシフトしていくこととなる。

この間、歴代会長は初代会長 田畑一氏（昭和36年～38年）、二代会長 田村義三郎氏（昭和39年）、三代会長 小森卯之助氏（昭和40年就任後1ヶ月で退任）、四代会長 中里信男氏（昭和40年～61年まで22年間）、五代会長 田村幸男氏（昭和62年～平成15年まで17年間）、六代会長 古戸良一氏（平成16年～21年まで6年間）、そして七代会長に田中健二氏（平成22年～現在）が就任した。

半世紀を振り返る時、昭和30年代の高度成長期を経て現在に至るまで、幾多の変遷を乗り越え、企業間交流や各種スポーツ大会などの様々なイベントを通し、ともに発展する仲間としての相互理解や信頼関係を深める活動を展開するとともに、北東北の産業拠点都市として八戸市の工業近代化の一翼を担い、地域振興に重要な役割を果たして現代を迎えた。

八戸鉄工連労働災害防止対策協議会の設立

昭和39年、新産業都市指定により産業基盤の整備が進み、三菱製紙、八戸製錬など大型工場が建設されると、業界の仕事は大型化し機械化されるようになった。建設される工場も新鋭設備でしばらく工場



八戸鉄工連合会の安全パトロール



八戸鉄工連合会労働災害防止対策協議会の安全祈願祭
(工業会館にて)

の進出がなかった八戸の業界にとって、規模とともに工事内容で初体験の仕事が多く、不慣れによる事故も起きやすくなった。

このため、昭和44年7月3日の八戸鉄工連合会臨時総会において、労働災害防止対策協議会の発足を決定し、同年7月31日八戸鉄工会館で労働災害を自主的に防止するため、八戸鉄工連労働災害防止対策協議会の設立総会が開かれた。

初代会長には梶本勝美氏（常陸鉄工所支配人）、副会長に川村務氏（高橋製作所）、小野寺守雄氏（小野寺内燃機工業所）を選任した。

協議会の運営については八戸労働基準監督署の指導を受けながら安全教育、労基署との合同の会員事業所安全パトロール、会員事業所への安全のしおり・ポスターの配付、安全標語の募集などの各種啓発活動等を実施し、労働災害撲滅を目指して活動を展開している。

昭和44年には八戸鉄工団地協同組合にも安全委員会が発足した。毎月2回組合事業所の安全パトロールを実施し、必要に応じての改善勧告を実施した。昭和55年1月、梶本会長の辞任にともない、二代目会長に田島重雄氏（北辰工業社長）を選任する。

昭和56年3月には災害ゼロを目標に危険予知訓練、経営者、安全管理者向けの災害防止訓練を実施

した。平成10年からは毎年12月に「年末年始無災害総決起大会」を実施し、積極的な活動を展開している。

平成19年度には3カ年にわたり、中央労働災害防止協会から「団体安全衛生活動援助事業（愛称：たんぼぼ計画）」を受託し、専門家のアドバイスをもとにフォークリフト運転技能講習、会員の安全衛生診断、特定自主検査、従業員の特殊健康診断、作業環境測定等の安全衛生サービスを提供した。

この間、平成10年から三代会長に吉田誠一氏（高橋製作所常務）、平成16年から四代会長 小野寺泰博氏（北日本機械金属社長）が会長に就任し現在に至っている。

八戸鉄工連合会の各種事業

1. 労務対策事業

集団求人・求人キャラバン活動

（活動期間：昭和36年～昭和60年頃）

昭和30年代から40年代にかけて日本が高度経済成長期を迎えた。設立当初の活動としては昭和36年12月に第1回集団求人（中学卒）を実施。翌37年9月には二中校庭で第1回運動会が開かれている。昭和39年には新産業都市に指定され、地場鉄工業界は活況を呈し、昭和39年8月には10万円で鉄工八戸のPR映画（モノクロ）を作成する。同9月には鉄工業界の現状と会員企業のPR用パンフレット「鉄工はち



八戸鉄工連合会の集団求人での学校まわり



建設中のみどり寮

のへ」を昭和49年まで刊行し、求人開拓が進められた。さらには、昭和44年3月鉄工従業員共同宿舎「みどり寮」を建設し従業員の定着対策が進められた。建物は鉄筋コンクリート造り3階建て、部屋数39室、収容人員150名の規模であった。完成当初は利用率も高かったが、1室3～4人の相部屋であったためしだいに利用率が低下し、昭和58年当時から赤字経営となり「みどり寮」は平成2年にアンデス電気グループに売却された。

昭和44年春学卒の八戸鉄工連合会求人初任給をみると、中卒16,500円（前年比増3,500円）、職業訓練校卒18,000円（同3,000円）、高卒21,000円（同4,000円）、工業高校卒22,000円（同4,000円）であった。

新規学卒者は賃金の高い県外への就職が増加し、地元の人手不足が深刻となったため、市、職業安定所、八戸雇用主懇談会（現八戸地区雇用対策協議会）の三者で青森県南、岩手県北の高校を直接訪問し、地元就職を訴える求人キャラバンを実施した。

昭和48年の新規学卒者の初任給は中卒19,500円（前年比増2,000円）、職業訓練校卒33,000円（同2,200円）、高卒36,500円（同2,500円）と年々上昇してきた。

集団求人事業では、賃金、勤務時間、職種などを統一化した労働条件のもとで採用する方法であったが、企業間の賃金格差が生じる傾向が顕著となり、しだいに集団求人から個別採用に切り替わっていった。

2. 教育訓練事業

八戸鉄工連合会共同職業訓練所

(活動期間：昭和40年～昭和45年)

中卒者が“金の卵”と呼ばれた昭和40年代、従業員の技術力向上が急務だったことから、八戸商工会議所、八戸市教育委員会の協力を得て、八戸小学校校舎（現在の八戸市公会堂）に入居し、昭和40年8月に開設された。所長は井畑信明氏（元八戸小学校校長）。

授業は、毎週火曜日から金曜日までの午後5時35分から同8時55分までで、一般教養、専門科目、製図などを学習するもの。講師は八戸工業高等学校、青森県金属材料試験所（現地方独立行政法人青森県産業技術センター八戸地域研究所）などの学校の先生、職員22名が当たった。

訓練職種は、機械工、鋳物工、仕上工、鍛造工、製缶工、配管工、溶接工の7業種で、年間の訓練時間は普通学科240時間、専門学科240時間、実技1,360時間の合計1,840時間。訓練の修了年限は、3カ年で、その修了者には県知事から修了証が与えられ、さらに実務経験2カ年を経過すると2級技能検定試験資格が与えられた。

生徒のなかには「学校が嫌で就職したのにまた勉強とは」と登校を嫌う者もあり、出席率は低下する一方であった。昭和42年7月の在籍者数は147名で、40年入所1期生69名、41年入所2期生39名、42年入所3期生は39名であった。1期生の修了生は43年3月7日付で60名、2期生の修了生は32名、3期生は35名となっている。

昭和43年に八戸鉄工会館完成後は、事務局を移行し活動したが、昭和45年6月現在で在校生70名と減少したため、八戸工業高等学校に夜間の定時制課程を設置してもらうよう運動し、昭和44年4月に同校が開設された。希望者は同校へ編入することになり、昭和45年8月発展的に閉校となった。

3. 福利厚生事業

運動会、野球大会、魚釣り大会、ボウリング大会、そして従業員家族慰安会、永年勤続者表彰・卓越技能者等受賞祝賀会等を実施した。さらに集団求人・求人キャラバンとともに展開した。時代の変遷とともに事業の見直しが図られ、レクリエーションではボウリング大会とパークゴルフ大会を残すのみである。

(1) 野球大会

(開催期間：昭和38年～平成14年まで。40回大会をもって終了)

昭和38年9月に第1回野球大会が開かれた。第1回大会は西浦工業所が11対2で高砂鉄工所を破り優勝する。第20回記念大会を昭和57年8月28日に開き、途中雨で順延となり9月3日長根運動公園野球場で決勝戦を行う。優勝は八戸鉄工所チームで、この第20回大会を記念して優勝旗、優勝カップが新しく更新されたため、長年活躍した選手たちの汗と油がにじみ、伝統と歴史を刻んだ優勝旗とカップが贈呈された。

また、野球大会は第40回大会をもって長い歴史に幕を閉じることになるが、その間、平成8年10月の第34回大会から平成14年10月の第40回大会まで松本鐵工所が7連覇を達成した。21回大会から持ち回りとなった優勝旗、優勝カップは贈呈され、今は同チームに保管されている。なお、通算優勝回数は日本文明シャッターの8回をはじめ東北建機工業と松本鐵工所の7回が続く。この野球大会の優勝チームは次頁のとおりである。



八戸鉄工連合会野球大会始球式

八戸鉄工連合会 野球大会優勝チーム

年度	会期	チーム事業所名
昭和38年	第1回	西浦工業(株)
昭和39年	第2回	東洋重工業(株)
昭和40年	第3回	(株)三浦鉄工
昭和41年	第4回	日本文明シャッター(株)
昭和42年	第5回	日本文明シャッター(株)
昭和43年	第6回	東北建機工業(株)
昭和44年	第7回	東北建機工業(株)
昭和45年	第8回	八戸専修職業訓練校
昭和46年	第9回	八戸鉄工団地協同組合
昭和47年	第10回	東北建機工業(株)
昭和48年	第11回	三浦鉄工建設(株)
昭和49年	第12回	三浦鉄工建設(株)
昭和50年	第13回	北東機械興業(株)
昭和51年	第14回	(株)八戸鉄工所
昭和52年	第15回	東北建機工業(株)
昭和53年	第16回	(有)岩館鉄工
昭和54年	第17回	(株)八戸鉄工所
昭和55年	第18回	日本文明シャッター(株)
昭和56年	第19回	日本文明シャッター(株)
昭和57年	第20回	(株)八戸鉄工所
昭和58年	第21回	(株)八戸鉄工所
昭和59年	第22回	(株)八戸鉄工所
昭和60年	第23回	東北建機工業(株)
昭和61年	第24回	東北建機工業(株)
昭和62年	第25回	船越エンジニアリング工業(株)
昭和63年	第26回	東北建機工業(株)
平成元年	第27回	八戸高等技術専門学校
平成2年	第28回	日本文明シャッター(株)
平成3年	第29回	日本文明シャッター(株)
平成4年	第30回	東北真空技術(株)
平成5年	第31回	日本文明シャッター(株)
平成6年	第32回	日本文明シャッター(株)
平成7年	第33回	東北真空技術(株)
平成8年	第34回	(株)松本鐵工所
平成9年	第35回	(株)松本鐵工所
平成10年	第36回	(株)松本鐵工所
平成11年	第37回	(株)松本鐵工所
平成12年	第38回	(株)松本鐵工所
平成13年	第39回	(株)松本鐵工所
平成14年	第40回	(株)松本鐵工所



第20回八戸鉄工連野球大会優勝の八戸鉄工所チーム

また、鉄工連野球大会を語るとき、祐川実副会長(当時)の野球大会に寄せるそこはかとない情熱と八戸野球協会審判部の3名の審判団の温かくも厳しい指導があればこそ、40年の長きにわたり継続できたと言っても過言ではない。

この大会は鉄工連ファミリー、言わば身内同士での試合であり、勝っても負けても和気あいあいとした一種独特の雰囲気醸し出した大会であった。

表彰式にはいつも祐川実副会長が駆けつけ、一緒に記念写真に収まり、審判団の慰労会にも駆けつけてくれるなど、心から野球大会に愛着を持っていた。

スタートした初期のころは、ユニフォームを着用しない、安全靴のままバッターボックスに入って審判から注意を受けていたようであるが、ウグイス嬢の登場もあってか、マナーとともにレベルも年々向

コメント

八戸鉄工連野球大会を顧みて

八戸鉄工連野球大会を振り返って見ますと、40回大会のうち前半の大会は参加チームが多く、長根公園野球場と桜木町グラウンドの2会場での大会で、当時は各チームの応援団も大勢詰め掛け好プレー珍プレーに一喜一憂し、選手と職場が一体となって大会を盛り上げ、鉄工連という内輪の大会でしたが素晴らしい大会でした。

最初の頃は、ルールを分からない人もおり、「ストライク・スリー」とコールしても、バッターボックスを動かない人もいるなど面喰ったこともありましたが、大会の後半には、選手のレベルも向上し、拮抗した好ゲームになっていきまし

た。初めてユニフォームを着てプレーした選手の方々が、沢山の思い出を作った素晴らしい鉄工連野球大会であったと懐かしく思っています。

また、長い間、鉄工連野球大会に関わる機会を頂き、多くの知己と思い出を得られましたことに感謝致しております。

結びに、鉄工連野球大会の運営を長年にわたり支えてこられました役員並びに事務局職員の皆様方には大変お世話になりました。

八戸鉄工連野球大会審判員 川崎光丕、三浦昭雄

上していった。審判団は飛鳥五郎氏（当時青森県水産加工研究所）、三浦昭雄氏（当時八戸市職員、現シルバー人材センター理事長）、川崎光丕（みつもと）氏（当時八戸市職員）である。彼らも家族的な鉄工連野球大会を愛し、公私ともに多忙にもかかわらず、駆けつけてくれた方々であった。

また、招待チームであった事務局の八戸商工会議所は弱小チームながら、ユニフォームを新調したとたん、悲願の1勝を勝ち取ったエピソードも存在する。

(2) 魚釣り大会

（開催期間：昭和41年～昭和59年まで。19回大会をもって終了）

昭和41年8月第1回魚釣大会を種差海岸で開催し、以来昭和59年まで続いた伝統行事である。

釣りえさであるエラコの確保が難しくなったことや、年々釣果が薄くなったこと等を理由に昭和59年19回大会をもって事業を終了した。

日曜日の早朝5時近くなると参加者が種差の宝台旅館玄関前に続々と集合し、えさを受け取り、種差海岸一帯で一斉に磯釣りを始めた。正午ののろしを合図に終了し、事務局で用意した昼食の弁当を食べながら、釣り談義に花を咲かせている間に大急ぎで審査が行われた。



八戸鉄工連合会魚釣大会（審査にも熱気）

審査の対象は、アイナメ、ソイ、タナゴ、カレイの種類ごとのサイズを競う大物賞、釣果の重さを競う重量賞のほか珍魚賞など部門別を実施された。

審査委員長は共催であった日刊工業新聞社の竹下豊美八戸支局長らを中心に秤にかけたり、物差しで長さを測って優劣を審査し、表彰式では実行委員長の小野寺國夫副会長（当時）から上位入賞者に記念の盾やトロフィーが贈呈された。

当時、船釣りは禁止されていたが大型のアイナメ等を釣り上げて優勝すると疑われるケースもままあったようである。残念ながら優勝者の記録は残っていないが、夏のひと時の楽しい大会であった。

(3) 従業員家族慰安会

（開催期間：昭和41年～平成9年まで。不定期で18回開催）

昭和41年1月に初めて従業員及び家族慰安芸能大会を八戸市民会館ホールで開催した。芸能大会ではたくさんの景品が用意され、歌、踊り、かくし芸が披露され、熱気にあふれ盛大に盛り上がったようである。

昭和50年3月には鉄工連創立15周年を記念して八戸市体育館で開催。54年2月には八戸グランドパレスで八戸鉄工連20周年記念式典を開催、58年2月には公会堂で八戸鉄工協同組合20周年記念式典を挙行するとともに「角川博ショー」を開催した。この時のプロモーターは鉄工連と日頃からつきあいの深い損保代理店の興産商事（太田正孝社長）が担当し、大成功に導いた。その後、昭和60年には「海老一染之助・染太郎」、平成元年の第15回では鉄工連30周年を祝い、漫才の「おぼんこぼんショー」、平成2年の16回は漫才コンビ「星セント・ルイスショー」、平成5年3月の第17回の従業員家族慰安会は、八戸鉄工協同組合30周年を記念し、「新沼謙治」「玉川カルテット」の豪華キャストによる慰安会を開催した。平成9年7月には八戸プラザホテルを会場に「コント山口君と武田君」の出演で第18回従業員家族慰安会を開催、また同月、八戸グランドホテルにおいて鉄工団地の30周年式典を盛大に挙行了した。

このように従業員・家族慰安会は、日頃お世話になっている企業を招待し、会員企業の経営者をはじめ、従業員家族が一堂に会する鉄工業界の最大の行事として節目ごとに約1千名の参加により開催された。

過去18回の従業員・家族慰安会の歴史を振り返るとき、地場鉄工業界の進展とともに、出演する芸能人が豪華になり、業界の力強さとまとまりを内外に示した事業であった。記念品として紅白の餅などが配られ、楽しい一日を過ごした慰安会は娯楽の多様化とともに平成9年を最後にその役割を終えることとなった。

(4) ボウリング大会

(開催期間：昭和46年～、昭和63年～平成22年現在継続で18回開催)

1億総レジャー時代に入った昭和40年代、アメリカ生まれのレジャースポーツとしてボウリングが日本中で大ブームとなった。とくに、中山律子のミニスカート姿と美貌が「さわやか律子さん」と呼ばれ人気の火付け役となった。

ボウリングブームピーク時の昭和46年12月、鉄工連合会第1回ボウリング大会が開催された。その後の記録は残っていないが、人々の熱狂は48年のオイルショックを境に一気に終息したが、手軽なレクリエーションとして日本中に広く定着した。

鉄工連合会ボウリング大会は、昭和59年をもって終了した魚釣り大会に代わる親睦事業として昭和63年に13年ぶりに復活し今日まで続いている。

なお、歴代優勝チームの記録は平成13年からの第10回大会以降しか残っていないが、平成16年八戸鉄工所チームが3連覇を達成するなど、楽しいレクリエーション事業として定着している。

平成23年3月11日に創立50周年記念大会として30チームが参加し、盛大に催される予定であったが、同日午後2時46分に東日本大震災が発生し延期となった。

しかしながら、熱心に練習を重ねた参加者らの声に応える形で6月17日に行われた記念大会では東北

三吉工業チームが見事に優勝した。

八戸鉄工連合会 ボウリング大会優勝チーム

年度	会期	チーム事業所名
平成13年度	第10回	三浦建設工業(株)
平成14年度	第11回	(株)八戸鉄工所
平成15年度	第12回	三浦建設工業(株)
平成16年度	第13回	(株)八戸鉄工所
平成17年度	第14回	(株)八戸鉄工所
平成18年度	第15回	(株)八戸鉄工所
平成19年度	第16回	東北三吉工業(株)
平成20年度	第17回	(株)八戸鉄工所
平成21年度	第18回	(株)共同シャワーリング
平成22年度	第19回	3月11日開催予定だったが東日本大震災により中止。延期された6月の大会では、東北三吉工業(株)が優勝

(5) パークゴルフ大会

(開催期間：平成16年～平成22年現在継続で7回開催)

パークゴルフ大会は、平成14年に第40回大会をもって終了した野球大会に代わる事業として、平成16年11月に第1回大会を開催した。

誰でも手軽に参加できるスポーツであるため、歴史は浅いが秋の恒例行事として定着している。第7回大会は50周年記念行事の一環として平成22年10月17日に美保野パークゴルフクラブで開催され、さわやかな秋晴れのもと男女、子供の部の3部門でスコアを競ったほか、プレー終了後は恒例のジンギスカン料理で親睦を深めた。



第7回パークゴルフ大会

(6) 永年勤続者表彰、叙勲、青森県褒章、青森県卓越技能者等受賞祝賀会

鉄工連合会では各種スポーツ大会等のほかに、会員事業所に勤務する優秀な従業員の永年の功労に報いるため、定時総会時に永年勤続者表彰式を開催している。

昭和42年4月第1回永年勤続従業員表彰式から平成23年度までの50年間で1,045名が表彰を受けている。表彰区分は勤続10年、20年、30年、35年、40年である。優良勤続者表彰は平成14年から新設されたが、これまで12名が表彰を受けている。

また、技能研鑽を目的とした青森県並びに八戸市卓越技能者・技術奨励賞には鉄工業界から多くの匠を輩出し優れた技を通して地域振興に寄与してきた。鉄工連合会から推薦された方々は次の通り。

[青森県卓越技能者]

年度	氏名	事業所名
平成元年	工藤清一	(株)東北鋳鋼
平成4年	岩館昭雄	(有)岩館鉄工
平成5年	田中忠夫	東北建機工業(株)
平成17年	速水茂	(株)有馬動熱工業所
平成19年	中里一秋	(有)中里機械
平成20年	松川隆雄	(有)サンニサン

[八戸市卓越技能者・技能奨励賞]

年度	氏名	事業所名
平成12年	祐川要	(株)祐川鋳造工業所
平成13年	山崎伊左夫	東北建機工業(株)
平成14年	田中重雄	東北建機工業(株)
平成15年	速水茂	(株)有馬動熱工業所
	下田英夫	三浦建設工業(株)
平成16年	田畑寿朗	北日本鍍金(株)
平成17年	中里一秋	(有)中里機械
	大野巖	東北建機工業(株)
	風張明義	北日本鍍金(株)
平成18年	稲塚馨	やまと鋳造工業(株)
平成19年	長谷川弘志	(株)田中铁工所
平成20年	藤森昌彦	北日本鍍金(株)

※平成17年 大野巖氏、風張明義氏、平成18年 稲塚馨氏、平成20年 藤森昌彦氏は技能奨励賞

また、他団体の推薦により、昭和55年山下数雄氏、56年安ヶ平重吉、祐川実の両氏、昭和59年田中五郎氏、昭和63年田畑三郎氏、平成2年工藤清一氏、平成5年岩館昭雄氏、平成17年速水茂、種市莊三の両氏、平成19年中里一秋氏、平成20年松川隆雄氏が、青森県卓越技能者を受賞し、それぞれの表彰に合わせて盛大に祝賀会を開催した。とりわけ、昭和57年11月には山下数雄氏が溶接部門の第一人者である「卓越した技能者（現代の名工）」として労働大臣表彰を受ける。さらに平成21年には田中忠夫氏が厚生労働省より「卓越した技能者（現代の名工）」表彰を受けるとともに、平成22年には黄綬褒章を受章した。

さらに、鉄工業界の振興発展に顕著な功績を残し叙勲等の栄に浴したのには、昭和43年田村義三郎氏が勲六等瑞宝章、昭和49年小森卯之助氏、昭和61年小野寺國男氏が海事功労で運輸大臣表彰、平成12年田中五郎氏、平成3年若松寿治氏、平成5年田畑三郎氏、原田慶一氏が勲七等青色桐葉章、平成8年工藤清一氏の黄綬褒章、田島幸明氏の労働大臣表彰、田村幸男顧問は平成3年青森県褒章、平成18年には旭日双光章を受章した。中里信男顧問は平成14年に勲三等瑞宝章、平成19年11月には八戸市より名誉市民称号を贈呈され、翌年2月900名の参加を得て盛大に祝賀会を開催した。古戸良一顧問は平成17年青森県褒章、平成22年に八戸市功労者表彰を受け、新年祝賀会の席で祝賀の会を開催した。



八戸鉄工協同組合

八戸鉄工協同組合は、経営基盤の弱い地場の鉄工業者が昭和30年代、大手工場の相次ぐ八戸進出に当たり団結の必要性を感じ、昭和37年7月10日に設立総会を開き、同年11月1日に設立した。出資金151万円、組合員32名で発足し、初代理事長に田中喜一氏が就任した。組合設立の主な目的は

- ① 経済力の向上と対外信用の確立
- ② 共同施設など設備の合理化と資金調達
- ③ 共同受注と価格維持

として事業計画を次のように決めている。

- ① 組合員の行う機械器具の製作、修理、各種金物、容器製造、修理、鉄骨組立などの共同受注、共同販売
- ② 資材及び機械器具の共同購入
- ③ 共同加工場の設置と製品検査の実施
- ④ 商工中金や取引金融機関に対する債務保証とこれら金融機関の委任による組合員に対する債権の取り立て
- ⑤ 販売価格の調整とその他協定
- ⑥ 手形割引を含む資金の貸付
- ⑦ 組合員の経済的地位向上のための団体協約の締結
- ⑧ 経営改善・技術向上などのための情報提供
- ⑨ 福利厚生に関する事業など

を行うこととした。

設立発起人は代表の田中喜一のほか、工藤良生、西浦卓、高橋勘治郎、田村義三郎、高砂善男、三浦栄次郎、坪井政留、中里信男、橋本巖の9氏となっている。

当初、組合事務所は高橋製作所に置き、事業は出発する。

八戸鉄工協同組合の前身である八戸鉄工業振興協議会（会長 田中喜一氏）で昭和35年に最初の集団求人を行い、36年には八戸鉄工連合会が設立されたため同連合会として集団求人を行っているが、当初目

的とした集団求人が同連合会に移り、せっかくの金融事業も利用者が2社程度と少なく、39年春には組合の存廃のアンケート調査を実施するほどであった。

出足はかならずしも好調ではなかったが、39年6月の総会で中里信男氏が理事長に選任されると、同月末には事務局担当者として神達也氏が採用され、事務局も東北建機工業に移転した。新体制は組合独自の財源確保と事務局独立を当面課題として取り組み、まず酸素、アセチレン販売業者の任意組織である八戸酸溶会と酸素など共同購入による手数料納入交渉に入る。数度の交渉の結果、紆余曲折があったが、1カ月67,500円の手数料を受け取ることで妥結し、酸素共同購入事業がスタートすることになる。この共同購入事業は平成21年まで45年間継続することとなったが、組合員の購入窓口の広がりなどから、組合員の半数が八戸酸溶会以外からの購入になるなどがあり、同年5月末日をもって終了した。

この財源確保により念願の独立した組合事務所を建設することになり、江陽5丁目の当時の高砂鉄工所の敷地に2階建て延べ39.6㎡の事務所を60万円で建設することとなった。

一方、女子事務員を採用、商工中金を窓口とした資金転貸事業も再スタート、当初予想した限度額3,000万円もまたたく間に1億円を越し、組合の利用枠拡大と緊急な場合の融資窓口として東北銀行湊支店との取引を開始した。

昭和40年7月には組合員のうち36名が共同出資した八戸鉄工建設株が事務所2階に入居、業務を始めるが、翌41年1月には5トン・トラッククレーンを高度化資金の融資を受けて購入するなど、共同事業活動も活発化してくる。

同年暮れには八戸鉄工建設が建設した鉄工会館に移転、翌42年1月から業務を開始した。

尚、その他の共同事業活動としては、組合共同出資会社として、昭和59年4月むつ小川原石油備蓄タンクの清掃・定期整備等の業務を行うためのむつ小川原メンテナンス株が設立され、26年が経過してい



巨大タンク完成。むつ小川原石油国家備蓄基地A工区

る。

設立当初は共同購買事業、金融事業を中心として活動しつつ業界設備の近代化、技術レベルの向上に努めるとともに、昭和50年頃からは受注量の確保並びに安定を目指し共同受注事業をスタートさせている。官公庁工事を受注する場合には、特定建設業の許可、そして官公需適格組合の認可が有利であるため、一級建築士、技術者等を採用するなどその体制を整えて、それらの許認可を申請し、昭和51年3月に官公需適格組合の証明を受けることが出来た。

又、鉄工協同組合内部に、共同受注委員会（委員長 祐川実氏）と青森県内全体で組織される大型工事受注対策本部（本部長 田村幸男氏）を設置し共同受注活動を開始した。

共同受注事業では、国等からの官公需の物件、さらには青森県内の大型プロジェクト施設の建設工事

等に組合組織全体として取り組み当初は年間3,000万円程度の受注でスタートしたが、昭和55年から58年にかけてのむつ小川原石油国家備蓄基地の建設工事では、青森県関係機関支援の下、当業界トップ主導による営業活動により、石油備蓄タンク付属品製作の大型受注に成功した。

工事への取り組みでは青森県内鉄工業者全体での受注組織を結成するとともに、組合自体の受注40億円強、組合員の直接受注10億円強を含めて4年間で約52億円を受注、客先各社より高い評価を得た。

また、官公庁が発注する工事についても専門の営業担当者を配備して本格的に取り組み、主な受注物件では、風張橋、開運橋、八戸市総合福祉会館、地場産業振興センター鉄骨工事、八戸市庁舎別館、八戸市民病院、新幹線八戸駅舎、市内小中学校体育館等の鉄骨工事を受注、橋梁工事でも50件を超える実績を残し、受注事業は当組合の中心事業となった。

平成に入ると、六ヶ所村の核燃料サイクル施設の建設工事が本格的に始まり、当組合では、むつ小川原石油備蓄基地の建設工事で培った共同受注体制を生かして巨大な施設工事への営業活動に業界一丸となって取り組んだ。その結果、最近までに受注した原燃工事の受注金額は、組合員が直接請け負った工事も含めると約140億円に達している。

主な受注工事では、ウラン濃縮工場、原燃試験棟、原燃事務棟、六ヶ所原燃PRセンター、環境科学研究棟等の鉄骨工事が上げられ、日本原燃再処理施設の



新井田川 招運橋



国道104号 田子町 スノー・シェルター



六ヶ所ウラン濃縮工場RE-2工水タンク（平成8年度竣工）

多くの工事に携わっている。さらには同様の組織体制を組み、東通原子力発電所（現在まで組合員の直接受注を含め約10億円）、大間原子力発電所、RFS中間貯蔵施設にも取り組んでいる。

一方、平成12年から14年にかけて、受注工事等をめぐっての三つの大きな問題も発生している。

一つ目は、平成12年4月に発生した、日本原燃の工事で当組合が受注、組合員（下斗米鉄工建設）が担当した工事のトラブルである。

担当した組合員は、客先（太平工業）の要求する品質レベル等に応えることが出来なかった為、当組合では担当組合員から担当工事を全て引き上げ、その一部を客先へ返却し、残りの工事は他の組合員に分割施工して貰ったという事件である。

しかし、この工事は難航したが、他の組合員の協力によって何とか完了して客先への納期は守れたものの、多額の超過費用が発生することになった。その費用負担をめぐっては客先との間で折半をベースとした交渉を何度となく重ねたものの、当組合側の被害額はおよそ3,000万円にも達した。

二つ目は、工事を担当した組合員の物品購入代金の不払いに関する裁判問題である。

平成12年11月、当組合が国から受注した工事を担当した組合員の青森メンテナンスの社長が、日本航空に対する3億円の恐喝で逮捕されるという事件が発生した。この工事にかかわる物品を同社に販売し

た丸山銃砲火薬店は、信用不安から関係工事の元請である当組合に対し、その販売代金約2,700万円の内未収分約1,400万円の支払いを求めて提訴してきた事件である。一審の青森地方裁判所では当組合が敗れたものの、二審の仙台高等裁判所では、当組合に逆転勝訴の判決が下りて終了し、終結するまでおよそ2年を要した事件であった。

三つ目は、八戸市の談合事件である。平成13年12月当組合を含む市内の建設業者182社が摘発され、公正取引委員会から排除勧告を受けることとなった。この後、官公庁からの入札指名停止、官公需適格組合の証明も失効して、官公庁工事の受注が難しくなると共に、一般の工事においても激減を続けたことから、当組合ではそれまでの建設業の体制が維持できない状況にまで追い込まれ、受注活動の見直し撤退を余儀なくされた。

現在の当組合の共同受注活動としては、組合員企業が工場設備等の充実並びに技術レベルの向上、努力によって営業力をつけたことも有り、当組合は受注契約の窓口とはならず、青森県内の鉄工業界及び組合員の紹介、斡旋等をベースとする活動に切り替えての活動を行っている。

新商品開発・活路開拓・補助事業等については、以下のとおり事業を行っているが、その後の受注活動、技術の向上に大きく貢献することとなり、また、雇用確保事業、安全衛生活動に資するものとなっ

た。

- 昭和52年 機械部品洗浄機（パーツクリーナー）の製品開発
- 昭和52年 散水による融雪装置の製品開発
- 昭和53年 橋梁分野への進出、調査研究事業（活路開拓）
- 昭和56年 鍍金分野への進出、調査研究・実現化事業（活路開拓）
- 昭和59年 特定地域総合振興事業（イワシの魚体整列機の開発・講習等）
- 平成2年 中小企業人材確保推進事業（雇用ガイドブックの製作等）
- 平成8年 中小企業安全衛生活動推進事業（安全衛生活動への助成等）

金融事業については昭和40年代の日本経済は、高度成長のもとで企業活動は活発さを増大させると共に、資金需要も増加の一途を続けた。

八戸鉄工協同組合の金融事業は、組合員に対する金融機関からの転貸融資であるが、組合員の増加に伴って貸出額は増大を続ける中、昭和41年に土屋鉄

工所が行詰まり、組合として最初の不良債権を経験することとなった。昭和52年には、組合員3社（東北製缶工業、三興機械、橋本（十）鉄工）の倒産が出て多額の焦げ付きが発生するという事件が起きた。加えて組合事務局職員による資金の不正流用事件が発覚した。通常貸付金のほか不正貸付、使い込み、使途不明金など組合が背負い込んだ被害額は7千万にのぼった。明らかな使い込みと判明した額については本人と身内で返済して貰ったが、当組合では、約2,000万円の負債を抱えることで設立以来の大きな危機を迎え、連日その対応に追われた。11月には組合再建のための特別委員会を設置し、組合員に対する特別賦課金（2,360万円。昭和58年3月還付済）及び青森県に対する利子補給の要請、担保の処分、受注事業の拡大等再建対策を構築し、推し進めることになった。しかし、この特別賦課金負担を不満として11組合員が組合を脱退するなど大きく混乱することとなった。

一方、このような危機的状況の中、昭和55年にはむつ小川原石油国家備蓄基地の建設工事が始まり、上述のように、鉄工業界が一丸となつての営業活動



ユートリー／鉄骨工事
（平成3年度竣工／助八戸地域地場産業振興センター）



八戸市庁舎別館／鉄骨工事（平成9年度竣工）

を展開、大型工事の受注に次々と成功した。

そして、この大型受注は、工事が進むにつれ組合に大きな収入をもたらすことにつながり、焦げ付き問題はこの受注の大成功によって徐々に解決へと向い、組合は大きな危機を脱した。

ところが、石油備蓄基地の大型工事が完成する頃になると、青森県内の景気は徐々に冷え込み、昭和60年には組合員3社（八戸鋼板加工センター、前田鉄工営設、青森金属）の大型の倒産が発生し、当組合では、再び大きな不良債権を抱えることになった。

組合では、担保の処分あるいは組合費や受注手数料の引き上げ、事業の拡大等で再建対策を講じたが即効性に乏しく、その負債の処理にはおよそ5年もの歳月を要すると共に、金融事業については、貸出枠の大幅な縮小、そして事業からの撤退へと転換せざるを得ない状況に至った。

金融事業で組合が設立以来、今日までに貸倒償却として処理した総金額は、おおよそ1億円を超えている。

組合設立当初の主要な事業であった購買事業についても、経済環境や組合員の購買スタイルの変化に伴い徐々に減少を続け、現在では各組合員毎の直接取引がほとんどになっており、事業は大幅に縮小されており休止の状況にある。

共済事業については、中小企業基盤整備機構、中小企業倒産防止共済の業務委託団体事務取扱業務を

中心として昭和53年6月から取り扱っており、昭和56年8月には中小企業事業団より加入促進貢献団体として感謝状を受けている。又、平成18年2月からは青森県火災共済協同組合との代理所契約を取交し火災共済事業を始めている等、組合員の共済事業に一定の貢献をしている。

教育・情報提供事業、福利厚生事業については、八戸鉄工連合会との共催を合わせ、各種の講習会・説明会、安全パトロール、ゴルフ大会、ボウリング大会等を積極的に展開している。



コメント

八戸鉄工連の50周年を共に祝う

八戸鉄工協同組合は、設立以来、多くの先人達が業界の発展を願って生産設備の高度化、技術レベルの向上等に奮闘、さらには、仕事の受注拡大を図る為に官公需工事や国家石油備蓄建設工事、原子力施設関係の大規模プロジェクト建設工事にも鉄工業界が一丸となつての積極的な事業活動を展開してきた。

途中、金融の焦げ付き問題や工事トラブルの発生等紆余曲折はあったものの、大きな成果を上げることができたと言える。

今、日本経済が低成長を続ける中で、組合員の事業活動を底上げさせる為の何らかの方策が求められていると認識しており、今後は、組合員間の情報交換等交流を深めながら、鉄工業界の発展に尽くして参りたい。

八戸鉄工連の50周年は、大きな節目であり大変慶しく大きく躍進する鉄工業界の歴史であり皆さんと共に祝いたい。

八戸鉄工協同組合 田島 幹二 理事長

八戸鉄工団地協同組合

八戸鉄工団地協同組合は、八戸商工会議所が八戸自動車整備団地協同組合に次いで手掛けた集団化事業の第2号であり、青森県内の鉄工業者の集団化としても弘前金属工業センターについて2番目のものである。



先進団地視察後のフリータイムのーコマ
(昭和42年7月18日岐阜県長良川河畔にて)

昭和39年3月に八戸市が「新産業都市」の指定を受け、同年10月に三菱製紙の八戸進出が決定し、昭和40年9月には八戸火力発電所3号機の建設が開始した。

更に、同年10月には八戸自動車整備団地の一部が操業開始となるなど、地域経済は大きく拡大し鉄工関連の仕事も急速に増加することとなった。

当時の鉄工関連業者には、仕事の増加に伴う工場

の拡張の必要性あるいは近隣の住宅化による騒音の問題等が発生し、それらの問題解決策として、工場の集団化構想が浮上した。八戸鉄工連合会は、昭和40年12月に集団化への参加者を募集したところ33社の応募があり、昭和41年1月に、八戸市に集団化用地として三菱製紙以南に132,000㎡、鉄鋼造船用地66,000㎡、その他共同宿舍用地・共同職業訓練所用地の確保について陳情した。

昭和41年11月7日に原始加入組合員17社で八戸鉄工団地協同組合の設立総会を開き、理事長に中里信男氏、副理事長に高砂善男氏、工藤良生氏を選任した他、併せて集団化の研究と共同宿舍の建設などを決めた。

同年12月8日に、正式に八戸鉄工団地協同組合の設立認可を得て、同月19日に組合の登記が完了となった。

用地の問題については、三菱製紙隣接の北側、あるいは旧東北砂鉄跡地を斡旋される等紆余曲折があり、更に、買収価格についても組合側の要望と県側の主張とでは大きな隔たりがあったが、翌年42年2月末に現在地に内定することとなった。

昭和42年1月から2月にかけて集団化計画本診断が実施され、対象企業が15社になったが、その後の建設診断により13社となり、更に同年9月に1社が脱退して組合員12社でスタートとなった。

昭和43年1月16日に、新産業都市建設事業団と現



八戸鉄工団地建設用地



八戸鉄工団地の用地が決定（建設用地を背に向って左から中里信男、神達也、高砂善男の各氏）



建設工事中の八戸鉄工団地



八戸鉄工団地協同組合共同加工工場

在地の土地62,519㎡を1億7千万円で売買契約した。組合事務所を始め、共同施設として共同浴場と食堂、共同加工場、共同倉庫と鉄道引込み線等の建設を含め、団地建設は総事業費6億2千万円となった。

また、従業員の採用確保と定着のため、市所有地2,259㎡の払い下げを受け共同宿舎「鉄工みどり寮」を建設、鉄筋3階建・延べ1,775㎡、部屋数39室、収容能力150名の規模で総工費6千万円であった。当初は八戸鉄工連合会の計画であったが、当連合会は任意団体であることから制度融資が受けられない為、事業主体を当八戸鉄工団地協同組合が行なった。

昭和43年12月には軽米鉄工所が組合員工場第1号として完成、翌44年3月に当八戸鉄工団地協同組合事務所も完成、その後順次各組合員の工場等が建設され、計画から6年を経過した昭和45年7月6日に

落成式が執り行われた。

八戸鉄工団地協同組合の集団化事業としての共同事業は、建設当初より団地内の各事業所を配管で結んでのLPガスの共同購入、ボンベ対応の酸素の共同購入（平成22年11月廃止）、共同受電等を行っていた。昭和45年3月には鋼材の共同購入事業を計画、鋼材の購入及び加工企業として別会社組織、八戸金属（株）（資本金1千万円、社長三浦賢策氏）を設立した。これは鉄工団地組合員をはじめ業界から株主を募集し八戸鉄工連合会会員等30社が出資することとなった。後に青森金属（株）に改称し、社長は祐川実氏に交代した。尚、同社は昭和60年12月に業績不振により破綻している。

昭和47年7月に青森労働基準局長より安全優良団体として表彰を受けている。組合設立時より安全委員会を中心に、毎年2回の安全パトロールを行う等、各事業所と連携した安全管理についての取り組みが評価されたものである。安全パトロールを初め安全管理についての啓蒙活動は現在も活発に行われている。

昭和49年11月福祉施設の運営が高く評価され労働大臣表彰の栄誉を受ける。八戸鉄工団地協同組合には組合従業員を対象とした福祉施設として共同浴場・共同食堂が団地完成とともにスタートしており、従業員の福利厚生に大きく貢献している。尚、共同浴場は平成5年に移転・新築され運営されているが、共同食堂については運営を委託していた事業者の撤



八戸鉄工団地の共同食堂

退により廃止されている。

昭和50年頃より、従業員のスポーツ施設の必要性が叫ばれ、又、組合事務所は手狭であり会議をする場所にも事欠く有り様から、組合員の会議・集会施設、研修会の会場等を併せ持った施設の建設が望まれていた。昭和51年1月労働省より中小企業雇用管理近代化対策モデル集団指定を受け各種の調査研究の末、雇用促進事業団の共同福祉センター建設構想が浮かび上がり、昭和54年1月、総工事費7,540万円 で完成することとなった。この勤労者体育センターと共同福祉施設、組合事務所を併設したセンターの正式名称は「八戸共同福祉センター」で、愛称として「八戸工業会館」と名付けられた。組合事務局、80名収容可能な会議室等があるだけでなく、400名が収容可能な多目的ホールがあり体育館としても利用が出来、団地組合事業者だけではなく市内事業所、地域住民等に広く開放されている。



完成した八戸市共同福祉センター（通称八戸工業会館）



八戸鉄工団地青年部の例会

昭和56年1月、若手次世代後継者の相互研鑽を目的として、青年部が設立された。各種研修会の開催を含め、先進地域・企業の視察等の活動を行っている。

昭和56年度には、活路開拓事業として、精密な金型加工とメッキ工業について検討し、メッキ工業の必要性から、テーマ「溶融亜鉛メッキの事業化」に取り組み、八戸鉄工団地協同組合と八戸鉄工協同組合が主体となり北日本鍍金(株)を設立した（資本金5,000万円、昭和57年3月15日登記完了、社長は阿部甚一八戸鉄工建設(株)専務取締役が就任した）。北日本鍍金(株)の工場運営は、当初から八戸製錬(株)より排水処理等の協力を得て行われている。

昭和57年2月から3月にかけて上記の青森金属(株)、北日本鍍金(株)の2社が団地加入し組合員となった。

昭和60年5月、前年度より調査研究していた、活路開拓事業 テーマ「金型加工分野の実現化」に取り組んだが、金型加工に対する関心は薄く残念ながら共同事業化するにはいたらなかった。しかしながら、各組合員の機械加工に対する設備の近代化に大きな影響を与えることとなった。

平成元年11月に、当組合の設立時より理事長として、組合及び業界発展に貢献された中里信男氏が八戸市長当選に伴い、後任の理事長に田村幸男氏が就任した。

平成4年度及び5年度において、三浦建設工業(株)の移転・脱退に伴いその跡地活用の一環として団地整備事業を行った。当組合としては、共同工場の取得・改築（平成18年、北日本造船(株)に売却）、共同浴場の移転・新築、共同受電設備の更新等を行っている。ほかに各組合員個々に、(株)高橋製作所（共用用地取得・事務所新築）、(株)八戸鉄工所（第3工場及び事務所取得・改築）、(株)八戸機械製作所（工場取得により全面移転、事務所新築）、(株)安ヶ平鉄工（第2工場取得・改築）、やまと鑄造工業(株)（第2工場取得・改築）、トヨタL&F青森(株)（工場取得・改築）が実施をした。

平成7年度には、「中小企業労働力確保推進事業の実施及び報告書」を実施し、当組合CIの展開と組合員企業のCIの研究・開発の構築に取り組んだ。(CIとはCorporate Identityの略語。組合、各組合事業所のシンボルマークや色、デザイン等を統一して使用するなどし、主に視覚的手段を用いて、経営理念を訴えより良い企業のイメージ形成を目指す事。)



イメージアップシンボルの決定デザイン提案

平成9年7月5日には、八戸鉄工団地協同組合の「設立30周年記念式典」を八戸グランドホテルにて開催した。

当八戸鉄工団地協同組合が昭和41年設立し、今年45年目となるがその間に廃業や倒産も発生している。前述の青森金属(株)を始め当初からの組合員12社中8社が脱退、廃業、倒産した。特に、平成14年9

月の(株)八戸機械製作所の倒産は大型倒産であり債務整理に4年間を費やし、固定資産税や借入金金の支払い等で、当組合の経営にも大きな影響を及ぼした。その後、平成18年8月に北日本造船(株)に、(株)八戸機械製作所跡地及び組合の共同工場等を売却し当組合の大きな問題が解消された。

昭和42年9月30日に組合員12社でスタートして、その後組合員の変遷があったが、昭和57年北日本鍍金(株)、昭和60年やまと鑄造工業(株)、東北重工(株)、昭和61年太洋石油(株)、東北川重建機(株) (現(株)KCMJ)、平成5年トヨタL&F青森(株)、平成18年北日本造船(株)の各社が加入したことから、当初からの組合員4社(東北建機工業(株)、(株)八戸鉄工所、(株)高橋製作所、(株)安ヶ平鉄工)を含め現在は、11社が組合員である。

今後は設立時と異なってきた異業種組合員との集団化の意義とメリットの構築や、当組合及び組合員のリスクマネジメントの観点から、対応すべき金融事業の見直しと保証人問題のあり方などを、早急に再検討することが課題となっている。

コメント

八戸鉄工連合会50周年を祝して

八戸鉄工団地協同組合は1966年(S41)設立、今年12月で45周年を迎えます。

これまで、貴連合会ははじめ、国・県・市並びに関係各位のご支援や、諸先輩の方々のご努力によりまして、今日を迎えております事に感謝申し上げます。

組合設立当時の日本は、昭和40年から約5年間続いた「いざなぎ景気」の高度経済成長後期であり、国民総生産(GNP)が世界第2位へと飛躍した時代であり、鉄工業界が一丸となり大いなる希望を持ちスタートしました。

しかし、昭和43年5月16日の十勝沖地震により造成中の、団地建設用地が約20cm地盤沈下する自然災害の発生や、不況の時代に経営が厳しい状況もありましたが、貴連合会は

め関係各位のご支援や、組合員各位の努力により克服して現在に至っております。

現在は11社の会員により組合を運営しておりますが、今後は鉄工業界の他、異業種の会員も加入しておりますので異業種とも連携し、技術向上も図りこれからの時代に対応できるように、経営革新も推進し業界発展に貢献したい所存ですので、今後とも貴連合会のご指導を賜りますと共に、鉄工団地組合会員一同、貴連合会50周年のお祝いを申し上げます。

八戸鉄工団地協同組合 田中 健二 理事長

協同組合八戸金属工業センター

昭和41年、八戸鉄工連合会は八戸地区鉄工業界の進むべき方向として、集団化を決定し、現在の八戸鉄工団地協同組合が発足。当時、団地用地には限界があったため、団地に入ることの出来なかった同業者が増大し、市街地に取り残された企業との、格差は甚大なものであった。

昭和50年に入ると、八戸市の委託によって青森県新産業都市建設事業団が取得造成した桔梗野工業団地は、工場の拡張余地がない、騒音公害で近所からの苦情が絶えないなど、市街地（住宅混在地）に工場を持ち、不便な操業を続けている地元企業向けの移転用工場用地として造成され、昭和54年8月から分譲が開始された。

昭和54年10月23日（八戸鉄工会館に於いて）には、八戸鉄工連合会が会員を対象に分譲説明会を行い、翌55年6月27日（八戸グランドパレスに於いて）、地元鉄工業者22社が参画し、「協同組合八戸金属工業センター」設立総会を開催。出資金2,099万円、理事長に祐川 実氏（青森金属社長）を選任し組織された。しかしながら、その後、団地への移転を断念した企業が6社となり、同年8月1日には、事実上16社（組合員16名）でのスタートとなった。

昭和56年7月に組合会館及び共同受電設備が完成



建設中の八戸金属工業センター（昭和56年）

し、8月には第1号として米内鉄工、次いで(有)内山鉄工、(有)光洋鉄工の3社が移転を完了。昭和57年度は、共同受電設備の増設、(株)日昭工業、(有)中道鐵工所、(株)高砂重工、船越エンジニア工業(株)の4社が移転を完了した。昭和58年度は、共同排水溝とネットフェンス、第1共同駐車場を整備、(有)共立化工機、北辰工業(株)、八戸日アス工事(株)、(株)高橋製作所、(有)坂本工業所、斉藤商事(株)、(有)八戸鋼板加工センター、(有)下沢工業所、(株)樋口ボルトの計9社が工場等を建設し移転完了した。

昭和59年度は第2共同駐車場、緑化施設を整備、昭和56年から58年に亘る3ヶ年度計画による工場集団化事業建設工事が完成終了したことにより、5月25日に落成式典及び祝賀会（八戸グランドパレスにおいて）を開催した。用地面積51,988㎡（うち組合共有地5,421㎡、組合員占有地46,567㎡）、組合員分建物総面積14,082㎡、総投資額は19億6,388万円で、高度化資金の借入額は10億2,833万円となっていた。

【昭和61年5月、桔梗野工業団地の地盤沈下が深刻化となる】

同団地（約83ヘクタール）は、県新産事業団が約80億円を投じて造成、工場用地62ヘクタールのうち55.5%に当たる34.4ヘクタール（昭和60年度現在）が売却済となっていた。

しかし、昭和58年、同団地西側で地盤沈下が発覚、事業団は昭和60年に自動車関連会社、8社に売却した5.23ヘクタールを買い戻し、一部は団地内の他地区に移転したが、更に、団地中央部でも地盤沈下がかなりのスピードで進んでいるのが確認され当組合の周辺でも道路の一部が沈下したほか、地面から浮き上がった建物が目に付くようになった。当組合が所有する5.2ヘクタールの内、少なくとも6～7社において地盤沈下が発生していた。

組合傘下の15工場は、昭和59年5月に落成式を挙行したばかりであったが、ある企業では、工場内の床が突然1メートル以上に亘って陥没、その穴に従業員が落ち込む事故も起きた。「女子従業員が怖が



深刻化した地盤沈下



るので」という理由で社員を引き揚げた会社も出て、昭和62年度に組合員5社〔株高橋製作所、船越エンジニア工業(株)、斉藤商事(株)、(有)光洋鉄工、(有)内山鉄工〕が団地内の他地区への移転を余儀なくされた。

この地盤沈下による団地内移転費用等の確保について、二代目理事長 田島重雄氏は、自ら県庁や新産事業団へ再三に亘って出向き積極的に働き掛けた。

この働き掛けにより、移転に関する高度化資金の借入れが問題なくスムーズに運ぶことに繋がったことも事実である。

当組合は、昭和55年の設立当22社から事実上16社

でのスタート、団地集団化直後の地盤沈下、昭和60～62年に2社が倒産、平成5年に1社が事業廃止、平成12～21年に5社が脱退、新規加入は4社であった。

これらの困難を乗り越え、平成17年11月19日付けで桔梗野工業団地内・住居表示変更にて「大字市川町字長七谷地105番地4」から「桔梗野工業団地二丁目9番30号」への変更となり今日に至っている。

コメント

今後の組合のあり方・運営について

県、関係各機関等のご指導、ご支援により団地集団化以来、現在まで、一部組合員の脱退及び地盤沈下による移転など、様々な重要課題の解決や景況の浮き沈みの変遷を組合員一同力を合わせて乗り越えてまいりました。

お陰様で、平成25年度には高度化資金の償還がすべて終了する予定であり、現時点で組合員に対する転貸資金残高がない状況となっております。

今後は組合運営において、高度化資金の完済、転貸金事業

の廃止による連帯保証債務からの解除、更に、占有地・建物についてもその組合員への所有権移転登記の実施など、諸問題について組合員と共に改善・解決してまいります。

また、組合員企業の経営の合理化と財務内容の健全化を図るため、更に連携を密にして邁進してまいります。

協同組合八戸金属工業センター 小川 洋成 理事長

青森県鉄工連協同組合

青森県鉄工連協同組合は、昭和44年9月、県内の鉄工業・船用内燃工業・鋳物工業を営む事業者（同業協同組合を含む）25名により設立され、昭和47年5月に(社)全国鐵構工業協会へ昭和48年7月に東北鐵構工業連合会の前進団体に加盟、ピーク時（平成10年前後）組合員82名、認定工場53工場を経て現在に至っている。

組合理念は、「確かな技術のもと、信頼される鉄工製品の供給を通じて、業界の発展ともども地域社会に貢献する。」を目標に掲げている。

組織は、5支部（青森・十和田・八戸・弘前・むつ）、鋼橋部会、共同受注対策本部、積算業務特別委員会、青年部会（外局）を編成し活動している。

主な事業は、当初、トラッククレーンの貸付を主事業として発足したが、昭和49年6月に廃止、現在は主として次の事業を実施している。

- ①教育情報：技術・経営に関する情報の収集配布、講習会等の実施
- ②認定検査：昭和52年11月に

県自主認定工場制度発足、同56年1月に廃止し、(社)全国鐵槽工業協会認定制度に一本化した。現在は、(株)全国鉄骨驛価機構の性能評価業務を実施

- ③共済：(社)全国鐵構工業協会の共済制度の事務を中心に実施
- ④経営安定化：関係方面への陳情・PRの実施並びに東北鐵構工業連合会・(社)全国鐵構工業協会の共同積算業務への参加
- ⑤共同受注：昭和55年2月、むつ小川原開発に備え、認定工場を中心に「各社の技術・設備・特色を統合して・多様なニーズに適正品質と納期厳守で応える」体制を整備、昭和55年4月から『むつ小川原石油国家備蓄基地建設』、昭和63年7月から『原子燃料サイクル施設建設』に実績を挙げる等、県内大型プロジェクトに対する共同受注の実施に取り組んでいる。



むつ小川原石油国家備蓄基地

コメント

八戸鉄工連合会創立50周年によせて

八戸鉄工連合会の創立50周年誠におめでとうございます。心からお慶び申し上げます。

貴連合会が、昭和36年に設立されて以来、今日まで鉄工連合会の発展のために、ご尽力された会員の皆様方に深く敬意を表します。

我が青森県鉄工連協同組合は、組合理念である「確かな技術のもと、信頼される鉄工製品の供給をし、業界の振興を通して地域社会に貢献する」を目標としております。そのために地場企業の経営基盤の安定に向けて、むつ小川原石油国家備蓄基地建設工事、原子燃料サイクル施設建設工事等の共同

受注事業を行うなどの組合活動を積極的に展開しております。

このような中で貴連合会は、地元鉄工業界の要として品質向上に向けた技術指導、従業員の福利厚生事業の充実、そして、無災害に向けての労働災害防止に対する積極的な活動などを通して県内の鉄工業界を先導されてきたことに対して衷心より感謝申し上げます。

今後とも県内鉄工業界の発展に向けて貢献して頂けることを確信しております。

青森県鉄工連協同組合 三浦 隆宏 理事長

八戸内燃機工業協業組合

八戸鉄工協同組合は、昭和43年2月に鋳物、船用、鉄骨製缶、機械の4分科会を設置したが、同年8月に船用部会（部会長 菅原喜四郎氏）は組合未参加も含めた12社で集団化を決定、これまであった八戸船用工業会（14社加入）の発展的解散を決め、八戸内燃機工業協業組合（仮称）を1～2年以内に組織することにした。

昭和46年9月には集団化を前提とし八戸市内の内燃機整備業者15社を対象とした八戸地区船用内燃機工業業界診断が始まる。11月に診断報告書がまとまり、構造改善、設備の近代化等が指摘され、集約化して協業組合方式による工場共同化をすることとなった。



昭和48年に完成した八戸内燃機工業協業組合共同工場

翌47年3月八戸商工会館で八戸内燃機工業協業組合の設立総会が開かれる。理事長 古川金吾氏、専務理事 小野寺罔夫氏を選任、館鼻漁港背後地に8社が協業化する事業計画を決め、同月末に青森県に計画書を提出した。4月には水島鉄工センターなど視察、8月には参加7社（牛田鉄工所、小野寺内燃機工業、三晶鉄工所、菅原鉄工所、船木鉄工所、古川鉄工所、若松鉄工所）で、昭和48年度と49年度で工場、事務所などを建設する事業計画をまとめた。

同年10月に八戸商工会館で総会を開き理事長に小野寺罔夫氏を選任する。

昭和48年4月に、青森県と協業化用地の買収契約を結び、7月から工場及び事務所の建設に着手すると共に、横中ぐり盤、特殊旋盤等の近代的設備の導入を図っていった。事務所は10月に、工場は11月に完成、12月中に機械等の試運転を行い、昭和49年1月から本格操業を始めた。

昭和51年5月には新潟鉄工サービスステーションとなり、同年9月には機械工場を増設、昭和54年3月にはクランクシャフト加工のため円筒研削盤を導入するなど、設備の増強を進めた。



八戸内燃機工業協業組合で購入したクランクシャフト用円筒研削盤

しかし、昭和54年6月頃からの第2次オイルショックは得意先とする漁業界を直撃、得意先の倒産による回収不能、受取り手形の長期化などで経営を圧迫したが、金融機関の協力などで乗り切ると同時に、陸上部門への進出も検討し始めた。

昭和56年7月からは三菱製紙八戸工場の設備修理などの仕事を受注すると共に、産業機械の機械加工分野にも積極的に進出していくことになった。この陸上部門進出を機に、組合名称も昭和57年9月から北日本機械金属工業協業組合に変更した。

しかし、その後も漁業界を取り巻く経営環境は好転する事無く、又、組合員の廃業・倒産等もあり、昭和62年5月組合は解散することとなった。

組合の設備は北日本機械金属株式会社に引き継がれることになり、内燃機整備のみではなく精密機械加工分野への進出に力を注いでいる。

桔梗野金属工業協業組合

八戸金属工業センターの集団化計画を進めるなかで、これまで何度か計画としては検討されたものの、実現できなかった鋳物業界の体質改善計画が、この桔梗野工業団地分譲の機会を除いては将来とも実現困難と判断、結末の動きをみせ始める。昭和54年秋頃から祐川鋳造工業所社長の祐川実氏が中心となり、集団化による構造改善を模索し始める。鋳物業界内での話し合いが進められたが、結果的には祐川鋳造工業所、東北鋳鋼、大坂鋳造所の鋳造・鋳鋼業界3社と機械加工仕上げの船木鉄工所、木型製作関連の後村木型製作の5社で桔梗野への集団化を計画し、昭和55年10月に桔梗野金属工業協業組合設立に至った。



桔梗野金属工業協業組合共同工場建設予定地

高度化事業本診断は昭和56年2月に実施。この勧告を受けて最終事業計画をまとめる。桔梗野工業団地約160,084㎡に総事業費7億9,072万円を投入、鋳物工場（A棟）約3,815㎡、事務所、機械加工、木型製作工場など（B棟）1,145㎡の建設を行った。事業は工場共同化事業として進めるため、その対象設備となる80%を特定高度化資金の導入でまかなうことになった。

昭和57年4月に組合名称を桔梗野金属工業協業組合とし組織を協同組合から協業組合に変更する。こ

の組織変更は、協業化体制が整ったため行ったもので、本診断、完成後の事後指導で勧告された協業化組織の実現となった。



完成した桔梗野金属工業協業組合の共同工場

この協業化により参加5社の生産額は大幅に伸張する方向に入っていた。しかし、この後、大坂鋳造所、船木鉄工所の脱退・廃業があり、さらに平成15年4月中核企業であった祐川鋳造所が倒産することにより、組合としての存続が難しくなった。このため組合用地の一部を売却することにより高度化資金の清算を行い平成19年2月解散することとなった。

組合設備は、東北鋳鋼、後村木型製作に引き継がれている。



地方独立行政法人 青森県産業技術センター 八戸地域研究所

地方独立行政法人青森県産業技術センター八戸地域研究所は、その前身である青森県金属材料試験所が、八戸市に設立され、本地域の産業構造に対応した機械加工、溶接、金属材料、金属加工、化学等工業技術に関する試験研究、指導相談、依頼試験等の業務を展開してきた。

昭和36年10月に八戸市沼館4丁目敷地3,307㎡に管理棟建設に着工し、37年1月に小中野に仮事務所を開設する。37年7月には試験棟に着工、38年1月に庁舎が完成し、移転が完了した。建物は管理棟243.4㎡、試験棟412㎡、公舎、その他で延べ832㎡。38年4月に庶務、指導、物理試験、化学試験の4課により業務開始した。



完成した青森県機械金属試験所

昭和48年4月に青森県機械金属試験所と改称、同時に機械、金属、化学課と改める。

手狭となったため、昭和52年12月、庁舎新築敷地として7,441.57㎡を購入、昭和53年12月に、第1棟690.8㎡、第2棟669㎡の新庁舎が完成、移転完了した。

昭和55年8月には、旧庁舎に溶接技術研修室を整備し、昭和63年4月には化学課を金属課に併合した。平成4年3月には、旧庁舎に開放研究室を整備した。

平成7年には、「青森県公設試験研究機関基本構想」が、平成9年には、「青森県工業系試験研究機関整備計画」が策定され、機能強化が図られることとなった。

青森県機械金属試験所は、八戸市において機械加工・金属加工等の試験研究・技術指導等を実施してきたが、金属を中心とした材料研究及びシステムとしての機械装置の制御技術等の研究分野を付加するなどの機能強化、産業支援機関との連携強化等を目的に、平成10年12月に八戸インテリジェントプラザに入居（1,232㎡、その後の見直しにより平成22年4月現在で922㎡）するとともに、平成11年3月に八戸ハイテクパーク内に新庁舎（実験棟、土地5,956.55㎡、建物1,815.39㎡）が完成、移転した。平成11年4月から青森県機械金属技術研究所と改称、総務室、金属機能性研究部、加工生産技術研究部に組織変更が行われた。新たに研究機器を充実し、基盤的技術に係る研究開発面の支援の強化が図られた。

平成14年4月に総務普及部、研究開発部に組織変更が行われた。

このように、青森県機械金属試験所が青森県機械金属技術研究所へと再整備されるなど、時代に即した工業系試験研究機関の機能強化が順次行われてきた。

そして、平成15年4月、施策の一体的な展開と連携強化を図ることを目的に、青森県産業技術開発センター、青森県工業試験場、青森県機械金属技術研究所の再編・統合が行われ、新たに、青森県工業総合研究センターが設立された。青森県機械金属技術研究所は、青森県工業総合研究センター八戸地域技術研究所に改称。技術普及部、機械システム研究部、FPD研究部に組織変更。製造業の基盤的技術であるものづくりと液晶ディスプレイに関する技術分野を担当。

平成15年10月に、FPD関連技術の研究を推進するため隣接地にクリーンルーム（未来技術研究棟、土地3,573.79㎡、建物1,204㎡）の建設に着工、平成16年4月に竣工した。



地方独立行政法人青森県産業技術センター八戸地域研究所実験棟

平成20年4月にFPD研究部をエレクトロニクス研究部に改称。

平成21年4月、青森県は県内の研究機関である工業総合研究センター、農林総合研究センター、水産総合研究センター、ふるさと食品研究センターの4センターを統合し、地方独立行政法人青森県産業技術センターを設立。この地方独立行政法人は、運営の自律性・自主性を高め、弾力的・効率的で透明性の高い運営を確保し、工業、農林畜産業、水産業及び食品加工に関する試験研究及び調査並びにそれらの成果の普及を行うとともに、これらの産業に関する技術支援を行うことにより、地域産業の活性化を図り、もって青森県における産業の振興及び経済の発展に寄与することを目的とする。青森県工業総合研究センター八戸地域技術研究所は地方独立行政法人青森県産業技術センター八戸地域研究所に改称した。

平成22年4月に分析技術部、機械システム部、エレクトロニクス部に組織変更した。

一方、昭和54年5月に、青森県機械金属試験所落成式協賛会から発展して青森県機械金属試験所協議会が結成された。研究所の積極的な活用を図るとともに、研究指導體制整備に協力、関係業界の発展に寄与することを目的に、23の企業・団体が参加し、

初代会長に中里信男氏（青森県鉄工連協同組合理事長）を選任した。協議会には次の6つの研究会が組織され、講習会等を開催することとなった。

切削加工技術研究会（委員長 小野寺罔夫氏）・溶接技術研究会（委員長 田村幸男氏）・分析研究会（委員長 中口武治氏）・鋳物研究会（委員長 祐川実氏）・熱処理研究会（委員長 二唐俊氏）・メッキ工業開発指導研究会（委員長 阿部甚一氏）。

研究会設立当初は年に10回を超える講習会等を実施し、会員の技術力向上に寄与してきたが次第に役割を終えて全体での講習会開催等の事業に集約されていった。

平成2年3月に、会長中里信男氏の八戸市長就任に伴い、臨時総会により新会長に小野寺罔夫氏（北日本機械金属株式会社代表取締役）が選任された。八戸市長中里信男氏は顧問に就任された。

平成7年6月には、古戸良一氏（東北建機工業株式会社代表取締役）が、平成23年7月には小野寺泰博氏（北日本機械金属株式会社代表取締役）が新会長に就任し、現在に至っている。協議会は、研究所の名称変更に合わせて3度の名称変更を行い、平成21年4月に地方独立行政法人青森県産業技術センター八戸地域研究所協議会に改称、平成22年6月現在、57の企業・団体が会員となり、各種講習会、研究会、工場見学等の事業を行っている。



八戸鉄工建設株式会社

八戸鉄工建設株式会社は、事業の目的を八戸鉄工連合会の共同事業の一部として鉄工連合会会員事業所の出資により共同受注体勢確立の為に設立された。個々の事業所での営業活動には限界があるばかりでなく、限られた経済圏の中で一つの仕事を数社で競争すると、互いに採算を割った仕事の繰り返しとなり、また1社では対応できない大型工事数社が共同で行えば消化できることから構想が浮かび、昭和40年5月25日発起人の中里信男氏他9名で設立を計画、6月25日に小中野北五丁目の鉄工協同組合の2階を借り、事務所として開設した。

業務責任者は、松尾鉦山退社の阿部甚一氏（後に代表取締役となる）を採用し、資本金250万円、株主36名で発足することとなった。同年6月20日小中野「あけぼの」に於いて設立総会を開催し、代表取締役に中里信男氏を選任、7月1日より業務を開始した。8月には事業の中に鋼材共同購入販売を決めた。

また同時に建設業登録も許可され、第1号は中里養鶏場鉄骨工事を受注、9月には大林組より石膏ボード倉庫鉄骨工事を受注した。10月には共同施設として8トン吊りトラッククレーン、翌年1月には5トン吊りトラッククレーンを購入し共同受注工事



保有するホイールクレーン

も順調に滑り出した。

昭和41年5月「あけぼの」で第1回定期株主総会を開き倍額増資と鉄工会館の建設を決議し、沼館一丁目の現在地に建設用地を購入し、豪雨の中9月7日地鎮祭を行った。11月には鮫の土屋鉄工が行き詰まり、そして12月には支払いが滞っている上村鉄工所に対する鋼材の販売の売掛金の処理について会議を重ね対応に苦慮した。

年が明け、昭和42年3月に沼館一丁目に社屋（鉄工会館）を新築移転し、4月3日に鉄工会館落成式典を来賓200名を招待して市民会館で挙行了。完成と同時に鉄工連共同職業訓練所を、鉄工会館3階会議室と一部空部屋を利用して授業を行った。

4月25日、代表取締役の中里信男氏が市議会議員出馬の為に辞任、5月の第2回定時株主総会で代表取締役に田畑一氏、常務取締役に阿部甚一氏が選任された。しかし、鋼材の共同購入販売はリスクが多く撤退することとした。同年、八戸製錬所工場建設が始まり、三井建設(株)より八戸製錬所(株)事務所及び倉庫鉄骨工事やコークス鉄骨工事、精鉦貯鉦舎鉄骨工事など大型鉄骨を受注した。昭和42年10月資本金を1,000万円に増資する。

当時の株主は次頁の顔ぶれを見ると、鉄工・内燃機・鋳物の各専門工事業者で構成されていたことが分かる。

昭和43年5月16日、十勝沖地震に見舞われ会館も若干の被害を受けたが、県南地域あちこちでも地震



本社社屋（八戸鉄工会館）

株主名簿（昭和42年10月現在）

No.	株主名	持株数	所在地	摘要	No.	株主名	持株数	所在地	摘要	
1	東北建機工業(株)	中里信男	1,360	八戸市沼館一丁目14	会長	27	(株)古川鉄工所	古川寅蔵	70	八戸市小中野北横町
2	(株)高砂鉄工所	高砂善男	860	〃 小中野北五丁目	取締役	28	小野寺鉄工所	小野寺 関夫	60	〃 鮫町字日の出町
3	青森金物(株)	工藤良生	760	〃 小中野北四丁目	〃	29	八戸鉄工協同組合	神 達也	60	〃 沼館一丁目11の9
4	(株)菅原鉄工所	菅原 勇一郎	760	〃 沼館四丁目	〃	30	(株)三晶鉄工所	出川 留蔵	55	〃 小中野北横町
5	東洋重工業(株)	田 畑 一	530	〃 小中野墓館9	代表取締役	31	坪井機械工業(株)	坪井 政留	50	〃 小中野左比代
6	(株)高橋製作所	田中喜一	490	〃 沼館一丁目16	取締役	32	筑後機電工業	筑後 協式	50	〃 吹上字館越
7	(株)八戸鉄工所	田村幸男	430	〃 十一日町2	〃	33	(株)松本鉄工所	松田 武男	50	〃 沼館四丁目
8	(株)安ヶ平鉄工	安ヶ平 重吉	430	〃 荒町21	監査役	34	(株)時田商店	小山 松男	50	〃 河原木字左比代
9	(株)三浦鉄工	三浦賢策	395	〃 沼館三丁目	取締役	35	(株)八戸機械製作所	芳賀 千代太	45	〃 小中野北四丁目
10	北星工業所	小坂熊蔵	330	〃 沼館一丁目19	監査役	36	遠藤鉄工所	遠藤 与一	40	〃 小中野北横町
11	(株)上村鉄工所	上村 長五郎	300	〃 沼館一丁目12		37	柳町熔接所	柳町 七太郎	40	〃 小中野北横町
12	(株)船木鉄工所	船木 仁三郎	270	〃 湊町下条9	取締役	38	(株)葛西鉄工所	葛西 美武	40	〃 小中野諏訪通り
13	橋本巖鉄工所	橋本 巖	230	〃 小中野北四丁目	〃	39	倉田鉄工所	倉田 春治	40	〃 小中野北横町
14	磐城産業(株)	林崎 芳助	200	〃 小中野北二丁目		40	常陸鉄工所	石塚 顕吉	40	〃 小中野字諏訪
15	(株)溝口工業所	溝口 源一	200	〃 小中野北三丁目		41	牛田鉄工所	牛田 雄也	40	〃 小中野町南横町
16	(株)東北鉄工所	高橋 勘治郎	200	〃 小中野大町一丁目		42	八戸鋳物工業所	近藤 順市	40	〃 白銀町字砂森
17	日本文明シャッター	三浦賢策	170	〃 河原木字北沼		43	大久保鉄工所	大久保 哲郎	40	〃 上組町
18	(株)北辰建設工業	田島 重雄	150	〃 河原木字浜名谷地		44	鈴木鉄工所	鈴木 勝弘	30	〃 小中野北四丁目
19	坂本工業所	坂本 三郎	150	〃 小中野北三丁目		45	丸善鋳物	加藤 清衛	30	〃 小中野墓館
20	西浦工業(株)	西浦 卓	145	〃 城下四丁目		46	田畑鋳物工業(株)	田畑 三郎	20	〃 小中野北四丁目
21	石橋鉄工所	石橋 健一	120	〃 中居林字彦五郎		47	玉樹鉄工所	玉樹 勝蔵	20	〃 石手洗上石手洗
22	菅原喜四郎鉄工所	菅原 喜四郎	120	〃 小中野町南横町		48	大野熔接工業所	大野 勝弥	20	〃 沼館二丁目
23	(株)河村鉄工所	河村 正亀	120	〃 小中野北四丁目		49	土屋鉄工所	土屋 勇	20	〃 鮫町字上鮫
24	八戸鉄工建設(株)	阿部 甚一	110	〃 沼館一丁目11の9	常務取締役	50	大坂鋳造所	大坂 長一	10	〃 小中野北四丁目
25	橋本鉄工所	橋本 友吉	100	〃 白銀町字三島下		51	西村鉄工所	西村 保夫	10	〃 小中野北横町
26	(株)大塚商店	大村 武治	100	〃 沼館一丁目11の9			合 計	10,000		

のつめ跡は生々しく、復旧作業の為トラッククレーンはフル稼働した。工事の方も昭和43年11月から昭和44年にかけて、鉄工団地建設も始まり、東北建機工業(株)、(株)高橋製作所、鉄工団地組合事務所など特命工事も多く、売上げが急伸したのに併せて2台のクレーン車を購入した。同時に、建設関連機器（コンプレッサー、油圧ブレーカー、ブルドーザー、バックホー、タイヤショベル）等の建設機械リースを手掛けようと検討するが、業界企業でリース業に進出したいところがあるとのことで熟慮するも断念することとなった。

昭和45年の秋口から業界も深刻な様相を呈し、昭和46年に入ると金融引締めとドルショックが重なり、市内の大手工場も減産体制が続き、行詰り倒産も多かった。この頃から新規事業への進出検討を始め、洗車事業の調査を開始した。6月には資本金を1,200万円に増資した。この年初めて八戸市発注の

市立第二中学校プール及び附帯工事を落札する。そして11月の役員会にて新規に洗車事業を行うことを決定した。

昭和47年1月31日洗車場地鎮祭を執り行い、3月30日オープンし、多角化への一歩を踏み出した。また3月に資本金を1,400万円に増資し、5月開催の第7回定期株主総会で定款変更と株式の譲渡制限も決めた。

この頃になると当初の会社設立の目的とした業界の共同受注窓口としての性格は殆んどなくなり、出資者である株主事業所と競合することが多くなり、この為、鉄骨建築工事主体の受注から技術者の採用と養成に努め、昭和48年1月一級建築士事務所の登録を申請許可される。昭和49年11月資本金を1,750万円に増資し、トラッククレーンの重機部門と総合建築業の工事部門、それに洗車事業が主軸となる。その後八戸鉄工協同組合が共同受注委員会を設置

し、官公需適格組合の許可を申請した。

昭和50年は日本中が不況の嵐が吹き荒れ、当八戸もどん底の経済情勢下におかれる中、株主各位の協力により、昭和51年3月に資本金2,000万円に増資するが、事業内容は完全に共同事業的色彩はうすれ、一企業として独自の道を歩むことになる。昭和53年の前半はドル高・円安、後半は再び円高と国際景気も変動し、八戸市は特定不況地域に指定され、経済の谷間にある中、八戸鉄工協同組合発注の八戸共同福祉センター建設工事を総合工事として請負った。

昭和55年に入ると、むつ小川原開発の目玉として石油国家備蓄工事並びに関連する施設利用の港湾工事にかかわった。平成4年六ヶ所村原燃再処理施設建設工事が始まりむつ小川原開発の建設工事に関連してクレーンの稼働も活気を呈す一方、洗車事業はガソリンスタンドの無料洗車の普及や設備の老朽化により昭和56年9月で廃業に至った。

その後、工事部門は桔梗野工業団地造成にともない、昭和56年(協)八戸金属工業センター事務所新築工

事や(株)高橋製作所桔梗野工場、北辰工業(株)事務所及び工場などを受注し、桔梗野工業団地(協)関連の工場建設に携わった。

また、県、市発注工事でも毎年2～3件受注しながら業務を行ってきたが、平成14年市発注工事をめぐり、談合問題が表面化し、公正取引委員会は独禁法に基づき市内建設業者128社に課徴金を命じ、当社もその1社で、その後仕事もうすく、平成14年4月25日工事部門は解雇閉鎖に至り、トラッククレーン賃貸業で生きる道を歩むこととなる。

平成18年白銀・沼館環状線、道路拡幅工事の為、現社屋用地の一部が買収され会社周辺の交通事情も変わるのではないかと考え、鉄工団地内に移転する計画を検討してみたが、諸問題があり断念した。

こうした時代の流れの中、発足当初の目的からは懸け離れたが青森県鉄工連協同組合、八戸鉄工協同組合、むつ小川原メンテナンス(株)の鉄工関係3団体が鉄工会館に入居しており、鉄工関係の拠点として各種会議、講習会の開催等に利用されている。



歩道橋工事



第二中プール工事

鋼構造物工事

北日本造船株式会社

昭和41年1月、八戸鉄工連合会では、集団化用地と鉄鋼造船所用地を確保するため、八戸市等へ陳情を行っている。この陳情から、計画が具現化される形で設立された北日本造船株式会社は、昭和44年4月に設立されたが、当時の八戸鉄工連合会長であった中里信男氏が「木造漁船を修理する造船所はあるが鋼製漁船を修理する造船所が無く、休漁時に乗組員が家族の元と一緒に生活出来ないのは何かと不便であり、幼い子供さんのいる家庭環境も好ましいものではない」との事で、各関係業界に尽力され、当時、八戸の漁船も修理に行っていた大分の臼杵鉄工所社長田中徹男氏に相談したところ、八戸に造船所を建設する事を快諾され、臼杵鉄工所50%、残りは地元鉄工業界を中心に出资日期されたものである。

造船業は装置産業であることから、関係する分野



完成した北日本造船ドック

が広く、その後も、様々な形で地元関係業界に経済効果を生んでいる。

設立当初は漁船の修理・建造を行っていたが、昭和52年の200海里漁業規制により、漁業界が不振になり修理・建造が減少、これを転機として商船建造を行なうべく、船台を940GTに拡張、内航タンカー建造を手始めに、冷蔵運搬船分野に進出し、これまでに建造した冷蔵運搬船は、小型の1500GT（貨物容積125,000CFT）から大型の14500GT（同630,000CFT）まで合計57隻に達し、世界の造船所の中でも

トップクラスの実績・性能において、冷蔵船業界から圧倒的な評価を受けている。

しかしながら、冷蔵船業界もコンテナ船の進出により、冷蔵貨物のコンテナ化が進み縮小の傾向となった。このような状況の中、中国、インド、ブラジルなどのいわゆるBRIC'sの台頭によりケミカルタンカー船の需要が増加傾向になり、ケミカルタンカーを建造すべく社内溶接工にステンレス（SUS316LN）溶接の研修・資格取得を施し、建造体制を整え、22,000載貨重量（DW）トン型ステンレスケミカルタンカーを受注・建造し、船主より高い評価を得て、その後、25,000DW、30,000DW、更には33,600DW型へ発展し、現在に至っている。

この間、本社工場での建造能力も限界となり、従来船体ブロック約40%を県外（宮城県、北海道地区）への外注に頼っていたが、遠隔地であることから、タイムリーな納入、コストダウンの観点から内製化に向けた検討を開始。

当初は、ポートアイランドでのブロック工場立地を目指し青森県、八戸市と協議したが、工場面積、インフラ等の条件面で残念ながら一致をみる事が出来なかった。そのような状況の中、岩手県、久慈市より久慈港内の工業用地への誘致があり、現地視察、種々検討協議の結果、平成17年9月に工場建設起工、翌18年5月よりブロック工場の本格稼働、翌19年4月に大組立工場増設、翌20年5月には第2ブロック工場及び研掃工場の増設を行い、更にステンレスケミカルタンカーの内部構造に使用するステンレスコルゲート（従来四国の業者に外注）を加工する為、2000Tプレス機を導入したコルゲート曲げ工場を新設、これにより船体構造に使用する部材・ブロックは100%内製化する事が可能となった。

又、更に平行して本社工場にある修繕ドックが漁船の減少により殆んど不稼働状態であり、国交省の許可を得て新造船建造ドックに転用、又、本社工場にあった艀装品製作及び配管工場を鉄工連の協力を得て、北沼の八戸鉄工団地協同組合敷地に平成18年7月に移設、翌19年9月には、北沼第2艀装工場を

建設し、現在に至っている。

[現在の主な設備]

本社工場：敷地面積約56,500㎡、建造船台20,000GT×1基（長さ162m、幅26.6m）、建造ドック15,000GT×1基（長さ153.8m、幅25.4m）、150T走行ジブクレーン3基、115T同クレーン1基、65T同クレーン1基、15T同クレーン2基、10T同クレーン1基、65Tラフタークレーン1台、高所作業車28台、3200PS、1000PS、450PS型タグボート各1隻、年間最大建造能力：33,600DW型ケミカルタンカー5隻、19,500DW型ケミカルタンカー5隻、合計10隻

久慈工場：敷地面積約116,200㎡、ブロック工場2棟、SUSコルゲート曲げ工場1棟、内業工場1棟、研掃工場4棟、150T走行ジブクレーン1基、20T同クレーン1基、200Tブロック運搬台車2台、レーザー切断機2基、プラズマ切断機5台、型鋼自動NC切断機3台、同マーキン1台、アングルベンダー2台、ロンジ溶接装置一式、T型ビルトアップ溶接装置2台、2000T、700Tプレス各1台、900PS型タグボート1隻、70Tラフタークレーン1台、ブロック最大加工量：約4000T/月

北沼工場：敷地面積約12,100㎡、プラズマ切断機1基、T型ビルトアップ用NCガスプレーナー1基、NCパイプ切断機2基(SS、SUS用)、パイプ自動溶接ロボット1基

以上の各工場の人員は、本社工場が約990名（社員・協力工）、久慈工場約220名（同）北沼工場約70名（同）、合計約1,280名の陣容となっている。

昭和44年4月に設立され、今年で創業から42年が経過した今日まで、200海里漁業規制による漁船の衰退、親会社臼杵鉄工所の倒産、昭和54年の第2次オイルショックによる燃料油高騰の船舶への影響、昭和60年のプラザ合意による2年間で50%もの急激な円高進行による輸出船の受注激減、旧臼杵鉄工

所を中心とした田中産業グループの一員で当社と資本関係にあった南日本造船の倒産による危機、平成9年のアジア通貨危機によるRORO船建造縮小、平成20年のリーマンショックの影響等、数々の激動・試練の時代を乗り越えている。

しかしながら、造船業の中心地である瀬戸内地区が苦手としている特殊船（冷蔵運搬船、ケミカルタンカー、RORO船、LPGタンカー等）を建造し、船主の満足いく要望に応え、現在では数多くのリピート船主〔東京、関西、中国、四国、九州地区及び海外（米国、欧州、アジア地区等）〕を多数顧客に持ち、東京以北において最大規模の造船所として、今日も発展を続けている。



久慈工場全景



33600DW型ケミカルタンカー

木造船から鉄船、地元での造船へ

昭和44年当時、大中小型1,500隻の八戸港船籍の船がありました。ちょうど、木造船から鉄船になる転換時でしたが、八戸漁連、八戸魚市場の役員をしておられた丸吉漁業部の吉田利八郎さんから「地元で鉄鋼船を造れないか」と要請を受け、鉄鋼船を建造可能な会社を立ち上げることになったんです。吉田さんは「回航のため乗船する乗組員さんは奥さんにもろくに会う時間がない。若い乗組員は特にかわいそう」と訴え、「船の建造が無理でも修理工場でも造れないか」とね。

ところが、地元で鉄鋼船を造る技術がなかったものから「鉄工会社では鉄鋼船を造れるわけがない」と言われたんです。「中里さんには夜の船は造れるんでしょうが、昼の船は造れるんですか？」などと良く冷やかされたものです。

そこで、熊谷義雄代議士の仲介もいただいて、当時、臼杵鉄工所(株)（大分県）田中徹男社長さんと会見し、鉄工連会員がフィフティフィフティ（それぞれ5,000万を拠出して資本金1億円）の資本・技術提携をしました。当時、お世話になっていた日東化学工業八戸工場の合理化の一環として工場敷地の有効活用を検討していると伺い、早速、山中容郎工場長と交渉し、工場用地8,000坪と岸壁を譲り受けたんです。

私は6年間、社長の職にりましたが、設立時は、漁船建造が中心でした。当時は多額の不渡手形を食って、危なく倒産という場面も経験しました。

北日本造船株式会社 中里 信男 初代社長

コメント

北日本鍍金株式会社

①溶融亜鉛めっき分野への進出

昭和56年度から昭和57年度にかけ、活路開拓調査・ビジョン実現化事業を実施、溶融亜鉛めっきの事業化を図るため、昭和57年3月15日、八戸鉄工協同組合や八戸鉄工団地協同組合等の鉄工業界の共同出資会社として北日本鍍金(株)を設立した(資本金:5,000万円、代表取締役:阿部甚一氏)。設立当初から、隣接する八戸製錬(株)より原料となる亜鉛の供給や人材の派遣を受け、事業化のネックとなっていた排水処理も委託することとなった。また、営業・技術面では三井金属エンジニアリング(株)より多大なるご協力を頂いた。その後、採算ベースにのるまでに数年間を要し、昭和61年3月期決算で一億円に近い欠損状況となったが、営業努力による売上増加や増資(資本金:5,000万円→9,000万円)により昭和63年度末までには累積欠損も解消された。平成に入り、溶融亜鉛めっき工場については、平成6年度にカバー工法による増改築・溶融亜鉛めっき槽の拡張やインバータ制御式天井クレーンの設置など215,000千円の設備投資を実施した。平成8年度には青森労働局より「快適職場事業場」の認定を受け、同計画に基づき中央労働災害防止協会から中小企業職場環境用機器整備助成を受け、サイロ型除じん装置も設置した(投資額:45,629千円、助成額:10,918千円)。平成16年1月には懸案事項であったJIS表示認定を取得した。また、平成16年度から平成17年度にかけて八戸市長より卓越技能者と技能奨励賞の表彰を受けた(平成16年度卓越技能者:田畑寿朗、平成17年度技能奨励賞:風張明義)。最近では、平成21年1月に溶融亜鉛めっき槽更新工事の際に、槽の側板に割れが生じ亜鉛が流出する事故が発生、復旧まで約3ヶ月の期間を要し、多額の損失を発生させた。

②電気めっき分野への事業展開

平成元年7月、溶融亜鉛めっき工場向い側の県有

地(715㎡)の払い下げを受け、電気めっき工場建設に着手した。青森県より特定構造改善高度化資金(135,970千円、無利息)の貸付を受け、亜鉛めっき・ニッケルめっき・装飾クロムめっき・半田めっき等の電気めっきを県内で初めて事業化した(総投資額:166,400千円)。平成13年度には、青森県知事より「塗装及びめっきに係る技術」分野で増沢透があおもりマイスターの認定を受けた。その後は、顧客のニーズに応えるため、無電解ニッケルめっき・アルマイト処理・黒染や化学研磨など表面処理の範囲を拡大してきたが、現在は部門設立20年を経過し設備更新の時期を迎えており、顧客の動向をみながら今後の方向性を探っている状況にある。

③電解研磨分野への事業展開

平成12年11月、中小企業経営革新支援法に基づく経営革新計画「電解研磨分野への新規事業展開」の承認を青森県知事から受け、電解研磨事業に着手した。電気めっき工場の隣接地(1,428㎡)を新規に取得し、技術面・設備面の指導をマルイ鍍金工業(株)(本社:兵庫県姫路市、代表取締役:井田義明氏)より受け、資金面では役職員持株会への第三者割当増資(資本金:9,000万円→9,600万円)や青森県工場整備促進資金・経営革新資金等の導入により、平成13年3月に工場竣工、操業を開始した(総投資額:197,962千円)。また、平成15年度には顧客であるアルバック東北(株)の製品大型化に伴い、電解研磨処理槽の拡張や10トン天井クレーンの新設など設備強化も実施した。



溶融亜鉛めっき工場

八戸機械工業会

昭和61年、県・市並びに商工会議所により鋳物や鍛冶を母体として成長してきた「船舶機関」・「鋳物」・「鉄骨製缶」・「機械加工・組立」の四つの機械加工部門において八戸地区機械加工業構造改善診断が実施されたところ、高付加価値・高生産性工場や研究・開発型関連企業の進出が相次ぐ八戸地区の機械加工業に対し、「新機構の創出」あるいは「技術革新への対応」などの重要性が提言された。

これを受け、平成4年3月、八戸市を中心とした県南地区の金属・電気・機械器具等製造加工業者の任意組織として「八戸地区機械工業振興懇談会」（小野寺罔夫座長）を発足。

同懇談会において、技術革新の進展、受注競争の激化、労働力確保に対処するとともに、地域産業構造の付加価値化に対応するため協議を重ねた結果、情報収集力、技術力、製品企画力の向上には組織化が不可欠との機運が高まり、平成4年11月「八戸機

械工業会」（小野寺罔夫会長）が設立された。

八戸機械工業会では、地区機械工業界の経営基盤の強化と技術水準の向上や業界の健全な振興発展を推進し、地区産業構造の高付加価値化を図ることを目的に、八戸・十和田・三沢市、三戸・上北郡の機械器具・精密金属製品の製造業等27社（平成23年度現在）により構成され、事業を展開している。

[主な活動内容と事業]

1. 調査研究事業

- ①地域機械工業界における課題抽出に向けた情報収集・検討並びにその解決への方策研究
- ②先進企業・工場見学会の開催
- ③会員企業見学会・研修会の開催
- ④関係諸機関・団体との連携強化による情報交換と交流
- ⑤会員企業間における受発注情報交換の研究
- ⑥地域業界団体としての受発注確保対策の研究

2. 教育・広報活動

- ①経営・製造技術等の講演会・研修会の開催
- ②受注情報の収集及び提供
- ③会員企業の情報提供（ホームページの運営）

3. 組織拡充事業

- ①懇談会・情報交換等の開催による相互交流の促進
- ②レクリエーション事業の展開 等

平成24年度は、八戸機械工業会設立から20周年を迎えることから、小野寺泰博会長を中心に、更なる飛躍の年と位置づけ積極的な活動が行われている。



【八戸商工ニュース】平成4年3月20日発行



研修会開催の様子



座談会



テーマ 「八戸鉄工連合会と鉄工業界の歩み」

日時：平成22年11月16日(火) 15:00～17:00

場所：八戸商工会館 2F 応接室

出席者

中里 信男 顧問
 田村 幸男 顧問
 古戸 良一 顧問
 田中 健二 会長

進行

小野寺泰博 編集委員長

Q1 司会

テーマは八戸鉄工連合会と鉄工業界の歩みです。皆様から当時のエピソードなどをお話しいただければと思います。

参加者は中里信男顧問、田村幸男顧問、古戸良一顧問、田中健二会長です。最初に、八戸鉄工連合会の設立についてお話を伺いたいと思います。

中里顧問

八戸の鉄工の歴史は藩政時代より砂鉄が軽米方面から取れるという事で、それを農機具に加工する。その後、魚が捕れたので、船と内燃機、鋳物機械と鉄工業界が自然発生的に発展して来た歴史があります。

戦後の日本は高度成長期。しかし、八戸の鉄工業界は多くの課題がありました。八戸は復興しなければならない。その時、県と八戸市と一緒にになって鋳物工業、内燃機、鉄工（鉄骨・製缶）の産地診断をやったんです。中心人物は、蝦名博之さん（後の青森県出納長）という県の商工労働部職員さんがおりましたが、この人達が厳しい勧告を出したんです。

当時、八戸には「三羽ガラス」あるいは「御三家」とも言われた東北鉄工所、大原鋳造工業所、東洋鋳造所が存在していました。

ところが、この御三家に対して「井の中のカワズ大海を知らず」「設備

は前時代」「労務管理しかり」などと勧告したもんですから、東北鉄工所の高橋勘治郎社長さんが「我々、鉄工鋳物業界を侮辱した」ということでえらい憤慨し、蝦名博之さんら関係者を叱りつけた、と聞いたことがあります。

しかし、このことが一つの奮起のきっかけで、鉄工業界発展に繋がった。それを指導したのは、八戸市はもとより八戸商工会議所の佐川達夫事務局長さんでした。律儀で信念の人柄で、業界のために大変なご配慮ご指導を下さった。思い出しながら感謝申し上げます。

鉄工連設立当時の事業所数は、鋳物が16、内燃機が14、合わせて30社、鉄工が40、合計70事業所、従業員1,550名でスタートしました。鋳物、内燃機、鉄工業界とそれぞれ会長を回しましょうと申し合わせ、昭和36年の設立時の初代会長に、鋳物業界の田畑一さん（東洋鋳造所社長）が就任しました。

昭和38年、二代目会長には田村義三郎さん（八戸鉄工所社長）、次は昭和39年だったと思いますが、内燃機の順番だったので、小森卯之助さん（小森鉄工所社長）が会長に推薦されました。ところが、小森さんが会長の際、各中学校求人希望に対し、業界で対応出来ず、更に先生方との懇談で、色々注文を付けられたのですが、小森さんがそれに応えられないということで、年度途中で鉄工連会長を辞退したんです。そこで、前会長の田村義三郎さんに、再度、白羽の矢が立ちましたが、これを固辞され、私が会長を努めることになりました。



中里 信男 顧問

Q2 司会

市と商工会議所が音頭をとって、鉄工連合会が発足したお話を頂きました。設立当時の事業活動や、当時労働大臣表彰となった「みどり寮」の建設、中卒者の職業訓練法に基づく事業内職業機関であった「鉄工連共同職業訓練所」の開設についてお伺いします。

中里顧問

みどり寮の建設当時、鉄工業界への求人数が200名に対して、40名しか集まらず、それではとても足りない。先生方との懇談でも多くの注文をいただき、八戸公共職業安定所の川畑顕二さんというむつ市出身の所長さんに、相談したところ、求人活動を行うには「従業員共同宿舎が必要」とのことで、沼館一丁目の市有地600坪を払い下げてもらい、北斗建設という大工組合の皆さんから、1億1千万円を掛けて、昭和44年みどり寮を建設しました。

ところが、部屋の造りが1部屋4人の相部屋だったため、最初は定員満室だったのですが、しだいに一人一人と数が減り、採算も何も取れな



鉄工みどり寮



古戸 良一 顧問

い。寮を出て行く人が多かったんです。このようなことで、平成2年にアンデス電気の安田社長さんをお願いし、みどり寮を売却することになりました。

また、鉄工連職業訓練所は昭和40年に、商工会議所の佐川事務局長さんの指導で、現在の八戸市公会堂にあった八戸小学校校舎に入居し、所長は元八戸小学校長の井畑信明さん、事務局は小学校の先生をしておられた大場君子さんを迎えて行いました。

昭和43年3月、沼館に八戸鉄工会館完成後は、訓練校事務局を移し、事務担当職に押田進武さん（現：八戸鉄工建設社長）を迎え活動しましたが、運営経費の面と卒業資格の権威等を勘案し、昭和42年、業界の要望により、青森県立八戸工業高等学校に定時制過程の設置運動を行い、その結果、昭和44年、その実現を見て発展的に閉校となりました。

Q3 司会

八戸鉄工連合会は、求人・雇用活動の部分から始まりましたが、従業員・家族慰安事業も柱の一つとなっております。エピソードがあれば教えてください。

古戸顧問

昭和41年に市民会館で行ったのが最初で、当時は、バンドを呼んだり、歌や民謡好き、踊りの得意な従業員に芸を披露してもらい、一杯飲ませながら行いました。

私は入社4年目でしたが落語をやったんです。当時会長の中里顧問が「やれやれ」って言うんですよ。20分位かかるんですが、事務局からはそんな時間はないって言われるし。一人せいぜい5分か7分位でないとダメだってね。まだ30才そこそこ。姉の旦那から、紋付き袴を借り、みかん箱の上に大きい製図板をのせ、その上に風呂敷をかぶせて座りました。

しかし、お酒の席でもあり、誰も聞いてないし、ウケないなあと思っていたら、ちゃんと真面目に聞いてた社長がおりまして、それが、橋本鉄工所の橋本巖社長さんでした。鉛加工の仕事もやってたもんですから、鉛加工依頼の電話をしたら、電話で「この前の落語の続きもう一回やれ」と言われて困りました。

みんな、各社の従業員・家族達の慰安会で景品をもらい、一等や二等を付けました。飲みながら、料理食べながら、家族共々で。手作りでしたが……、そういう思い出があります。

のちの慰安会では、有名人の角川博や新沼謙治、殿様キングスも来たしねえ。



八戸鉄工連合会創立10周年記念従業員
家族慰安会

中里顧問

三浦洸一という歌手にも来ていただいた。そういえば、北島三郎も呼ぼうとしたけど。

田村顧問

北島三郎は600万から1,000万円かかる。お金が無いからやめた。

古戸顧問

当時は主催者が中里会長ですから、うちが従業員一人2枚ずつ、会券を割当てられたんです。一人2千円だったと思うんですけども、うちは多いとき120人ほど従業員がおりましたから、200枚とか買ってですね。鉄工連で各社にお願いして購入してもらい、経費をまかなった。



田村 幸男 顧問

Q4 司会

昭和37年に八戸鉄工協同組合が設立され、昭和41年には八戸鉄工団地協同組合が設立され、また、昭和55年には協同組合八戸金属工業センターが設立されました。

八戸鉄工協同組合は、共同受注及び金融事業を行い、景気が悪い時に、相当欠損を出しましたが、むつ小川原石油国家備蓄基地の共同受注で成功を収め、返済を行いました。当時の苦労話についてお伺いします。

中里顧問

鉄工協同組合は、初代理事長が田中喜一さん、その後、私が理事長でした。

今でも反省していますが、連帯保証での金融事業をやったんです。その時は、田村さんにも大変ご苦労をお掛けしましたが、鉄工組合の連帯保証において、かなりの波乱がありました。

当時、むつ小川原開発の取締役総務部長の高橋辰雄さんに「地元の仕事下さい」と言ったら、けんもほろろに「地元で出来る訳がない、三菱重工とか大手メーカーにやるんだ」と、全く傾聴の姿勢がなかった。

ところが偶然にも、高橋部長さんが、私の母校〔秋田鉱山専門学校：(現/秋田大学)〕の一級先輩だったことが分かり、その後は態度が180度変わったんです。

また、同じく、当時の青森県公害センター所長の原子昭さん、青森県商工労働部次長の工藤久志さん、青森県副出納長の高坂栄一さんも同窓でしたし、非常に良い友好関係を築くことが出来たんです。

「何としても青森県の発展を願ってということで地元やらせてもらいたい」と、高橋部長を説得し、同窓のよしみもあって考え直してもら



タンク底板工事に入ったむつ小川原石油国家備蓄基地建設工事A工区



田中 健二 会長

い、共同受注を受けることが出来た。

鉄工協同組合も、当時かなりの痛み（損失）はありましたが、共同受注のお蔭で利益を生み、メリットがあったと思います。

鉄工団地協同組合設立の件ですが、私は元々、反対と言ったんです。

それは当時、既に川岸（沼館・江陽地区）に鈴木鉄工さん、三晶鉄工さん、古川鉄工さん、大東内燃機さん、若松鉄工さん、磐城工業さん、八戸機械さん、祐川鑄造さん、本田鑄造さん、高橋製作所さん、上村鉄工所さん、東北建機と12社の企業が、自然団地を造っており、無駄に金をかける必要がないと思い反対したんですが、県や市の施策だということでやむなく鉄工団地設置に踏み切った経緯があります。

ところがその時、集団化法という法律もありましてね。商工会議所の佐川事務局長さんも「このままでは、地元での大型受注へは耐えられない」と言われ、確かにその通りだと。

とにもかくにも、鉄工団地はスタートしたんですが、加入脱退は自由な協同組合。出資いかに関わらず権利を常に平等にしたが、連帯保証されるこのような仕組みが問題点なんです。なんといっても運命共同体ですからね。

リスクというものが、今後なければそれにこしたことはないが、時代に合わせ、体質改善を図って行かなければなりません。

田村顧問

昭和48年に八戸鉄工協同組合の理事長に就任しましたが、全くわけも分からないまま、協同組合って何だっという話でした。当時、中里顧問と腹を割って話しましたが、そこで「全面的に任せたので、やってくれ」とね。今、振り返ると、組合事業は俺の一生の事業になった。

県の指導もあり、販路開拓として部品洗浄器や融雪装置などを作ってみたが、なかなか上手く行かないし、出来ても売れなかった。

石油備蓄の共同受注の際、青森の方々から「こっちにも仕事を回してくれ」と苦情が出たりもしました。当時、タンク屋根のマンホールの製作を担当した青森の会社が一社ありまして、それも、ものすごい取扱量なわけですけども、この会社が倒産してですね。材料なんかそこにあるわけですから、それを引き上げたり、次の業者を探したり。その時は大変な思いをしたんですが、結果としては、納期的にも品質的にも良いものが出来て、お客さんやメーカーさんから、信頼を得ることが出来た。あれは涙なしでは語れないね。若かったからでしょうが、俺も良く頑張った。すごい覚悟でしたよ。

理事長就任時からの倒産件数は5件や10件じゃないですよ。当時金融機関も見えないふりで、相手にもされませんでした。当時の八戸信



八戸鉄工協同組合技術開発委員会で開発の部品洗浄機(パーツクリーナー)

用金庫の北村四郎理事長さんは全然違った。「お金で済む話なら持って行け」なんて言うんです。結局ね、1,000万円位借りましたよね。何も無しで、裸で借りたんですよ。その中の700~800万円を営業の足代ですとか運営費用に使い、それが共同受注とかに繋がり何十億円にもなって帰って来た。

当時、石油備蓄関係だけで、貰った金利が3千何百万。金利が高かったんで、相当貰っているんですよ。お蔭で、役員にもある程度の手当を出せたんです。中里顧問が県議会におったので出来た。人的な問題で、石油備蓄の発注者に同窓生が居るなどしたので、非常に恵まれて運が良かった。

私の片腕として、事務局を任せていた藤田弘事務局長が、俺への日常業務の報告書として使っていた大学ノートが66冊もあるんです。びっしり書いています。私が使用していた決裁用のハンコのカドが擦れて丸くなっている程です。本当に良く頑張ってくれました。



小野寺泰博 編集委員長

中里顧問

几帳面な方でしたからね。

古戸顧問

11万キロタンク51基を、日本を代表する大手メーカーさんが受注したわけですが、向こうは地元では出来ないだろうと見てかかっていたようですが、最終的には見積りをしなさいということになりました。見積りを出してタンクメーカー11社との話し合いを石川島播磨の事務所で行うことになり、7~8人で押しかけて行きました。意見交換や見積りに対する話とかそういう中で「やっぱり地元では出来ないでしょう。見積りに対しても我々が考えているより倍だ。こんなにかかるわけが無い」とか、非常に脅かされましたね。製作要領書の担当はトーヨーカネツさんだったんですが、品質と精度の高い仕様書を作って来るわけですから、必然的に私たちの見積りが高くなるわけですけどね。ところが裏には同じタンクメーカーの甲陽建設さんの担当者は安く出来る方法でやらないとダメですよと裏話が出てくるんですよ。

地元では出来ないと言うものですから、2回目の打合せの時にウィンドガーターのテストピースを作って持って行ったんですよ。「このように試作しました」と言ったら、「これなら上等ですねえ」なんて言われたりしたんですよ。それぐらいに地元でも出来るんだということを、何とかぶつけて行きましたね。

加工費が倍だと言われたことについては、実際に実験したりですね、消耗品がどれ位かかるか、酸素、溶接棒をどれ位喰うか、そういう実験



八戸鉄工団地修祓式



八戸鉄工団地修祓式祝賀会

をして再見積りをしてたんです。何しろ50%切る気分なもんですから半端じゃない数字なんですよ。一基分で100万円損したら5,100万円の損、儲けてもまた逆でして、各社の担当毎にかなり慎重に頑張りましたね。最終的には、中里顧問が当時、青森県鉄工連協同組合の理事長であり、県会議員でもあって、そのお力をお借りすることが出来、共同受注に繋がった。もちろん、田村さんが先頭に立ってやったわけですが、決めるには政治力といいますか、県の力がなければ、なかなかまとまらないという風なこともその頃、痛切に感じたものでした。

工事の方は、納期的にも品質的にも良いものがちゃんと出来て、納期に納まったということで、メーカーから高い評価を頂いたと私は記憶しております。結果として3～4年、第2グループの方まで行くと6～7年かかったと思うんですが、地元として非常にメリットがあった、恩恵をこうむったと思いますね。

それと県内の共同受注の組織としてがっちりしたものが出来て、それが現在にも繋がっているし、その後、何十年も県内全体の連帯感というものが出来て非常に成功した一例であると思います。

Q5 司会

見積り段階から技術的に色々難しい、見積りが倍もするというお話があった訳ですけども、見積りに関しては技術的なものをクリアしながら、ムダを省いたということでしょうか。それとも倍は嘘だったということですか。



むつ小川原石油国家備蓄基地
タンク基礎工事

古戸顧問

嘘じゃなかったんです。メーカーさんが言うのは少し輪をかけてというか、例えば10万で見積もったのが、6万で出来るんだとかですね。最後は、当時の田村理事長と中里県会議員が東京に出向き、最終決着は、向こうの代表とこちらの代表が、もう、差しでやったというふう聞いておまして、やっぱり商売というのは、そういうものじゃないかなと思うんですけども。

田村顧問

夜中まで議論して決着させたんですよ。

どうしても協同組合では必ず高い金額を出す。もう一つは掛け算だったわけ。一つ作るのと同じものを多量に作るのと、コストが全然違うでしょ。経験を積むことによって作業が段々早くなって来た。ですから、倍高いと言われても、そうかと。やってみたら儲かりましたと。良く分かるわけですよ。本体11万キロタンクの同じものを51基ずつ作る。最終的には工期が一日もずれなかった。すごく早く出来た。六ヶ所が予定通

り、「すばあっ」と出来た。最後にはお褒めの言葉を賜ったんです。「うまくやってくれました」とね。

古戸顧問

量的にも今までやったことのないような数量でもある訳ですし、品物も初めてやる訳ですし、メーカーさんの仕様というのが、レベルの高い仕様書を出されるから、私らも安全率をかけるわけです。すると、倍近くなるものも考え方によってはありました。

私の場合は実験をした。まず切断や溶接などの実験をして見てね。我々は井勘定だったんです。消耗品はトン当たり7,000円だとか8,000円だとかですね。「そんなかかるわけない」って言うんですよ。半分で上がるはずだと。実際やってみたら、やっぱり半分ぐらいかなあと。



Q6 司会

我々の業界で未経験の多さ、加工品の数量にしても。見積もそういう大きな経験がなかった。その大きな物件をやりながら、次の六ヶ所の再処理施設とか、原燃に入っていくだろうと思うんです。その経験があったからこそ、共同受注も成功をしてるんじゃないかと考えていますが、田中会長はこのあたりは何か携わっておられましたか。

田中会長

六ヶ所の原燃さんは、今までの話のように、備蓄の経験を生かした非常に大きな事業でした。鉄骨を中心にした仕事が圧倒的に多かったことは間違いない。プラントを中心にしたメーカーさんの仕事はなかなかまとまらなかった。原子力産業の受注活動の経験不足により、比較的我々から見れば、プラントの受注実績は少なかった。

しかし、稀に見る地元の鉄工業界の団結ですかね。中里さん、田村さん達の尽力。根底には地元の鉄工業界のある意味、レベルの高さもあると思います。

備蓄さんの時も原燃さんの時も「八戸の業者に何が出来るか」という話も現実聞きました。原子力の主要部分など我々が手に負えないところもありますけれども、大半の物はある程度出来るんじゃないかなと。技術面の難しさはあるにせよ、八戸は、東北地方でも屈指の技術力がある所だと思います。恐らく八戸から関東地方に向かって行って、盛岡から仙台回りにもないし、強いて言えば、郡山、いわき、あの辺にはかなり技術力を持ったところはありますけれども、それ以外は恐らく関東まで行かないと八戸の鉄工業ほどの力を持っている所は無いんじゃないかなと思います。



むつ小川原石油備蓄タンク



高層形煙突

そういう意味で、教育から福利、厚生施設の面までも、今の鉄工連の活動からは考えられない事業まで行い、また、仕事量の多さなど想像もつかないことをして来たものだと感心させられます。その長い間の取り組みが技術的なレベルを上げていく大きな要因になったのではないかと。もちろん、日本そのものが右肩上がりの時代だったかも知れませんが、八戸地区に高度技術を定着出来た大きな要因になった気がします。

古戸顧問

日本原燃関係ですが、建設当初に田村理事長さん達が県の方に掛け合ったりして、当時の中小企業振興公社が仲を取り持って、日本原燃さんが八戸のホテルで説明会をやったんですよ。その時の説明会では、この部分は中央でやります、こっちは地元へと決めてあると言うんですね。

私は「図面も仕様書も見せず、出来るか出来ないか分からないのに、どうして中央と地元に分けるんですか」と、かなり食い下がったんですよ。その辺から「とにかく地元に来るものは何とか下さい。全部出来なかったら地元に来ることをやらせるなど、メーカーさんに条件を付けて」というような希望を出したりしました。

原燃さんも色々配慮して下さいって、建築関係は100%ではなかったと思いますが、まあまあ受注になったと思います。

プラントメーカーさんの方のプラント関係については、発注先の三菱重工、日立、東芝、石川島等へ、振興公社と一緒に何回も営業に行かせてもらいました。はっきりいって、メーカーさんには専属の子会社さんがあって、子会社は自分達の好きなようにやるというか、なかなかプラント関係は頂けなかった。自分達が期待した2割も無かったんじゃないかと思っています。

あそこで鉄骨関係を主体にして、十何年間で120億円位やらせてもらいましたが、県内全体で備蓄の時の組織としての受注体制が出来ておったから、津軽の方もむつの方も団結して受注の面では成功したと思っています。

東通の原発で一番印象に残っているのは、そんなに金額は大きくなかったんですが、東北電力さんから直に見積りが出たんですよ。2億円位だったと思うんですが、鉄工協同組合が見積りを出して、それからだんだん追求していったら東京のある大手メーカーとで、随契約の段階まで行っており、ほとんど決まりかけているという。でも組合に見積りが来て、それをひっくり返したのが当時の田村理事長さんでした。しかも、見積りから一銭も引かなかった。最初の見積りの金額で受注出来た。そ



配管工事

れぐらい先頭が力を発揮して努力したことが現在に繋がっているんですね。

それから、大間の原発については、私も何度も行ったんですが、電源開発さんが地元を非常に優先し、考えてくれているのがひしひしと感じられてありがたい会社だと思っております。お蔭で県内で大きな鉄骨関係をやらせてもらって、共同受注が何十年たっても継続出来ていると感じています。



田村顧問

鉄工連合会は政治的な立場、鉄工協同組合はいわゆる歩兵部隊だ。稼ぐ第一線部隊。実際に稼げば、全体がまとまっていくんです。今の結果を見ればその通りだ。力が無くなればダメなんだ。名前があっただって。そこへ思いを持って行ってもらわないとトップに立つ人は困る。それは関係ないんだよとなれば、そういう団体があっても、存在の意味が無いと俺は思う。

古戸顧問

原燃再処理施設等の建設が六ヶ所村でスタートした時期に、県の取り計らいによって、国及び県の補助事業により、日本溶接協会青森県支部（現：青森県溶接協会）の主催で、プラント工事関係に対する研修を6年間行いました。国が8,500万円、県が3,500万円、合計1億2,000万円の補助事業だったと記憶しております。

座学や溶接実技研修を地元八戸で何回も行いましたし、また、横浜のメーカーさんの工場に県内事業所の従業員5人～10人位を派遣して、1ヶ月研修も何回か実施しました。

その他に、原子力施設や大手メーカーさんの工場見学等も毎年行った記憶があります。

全て補助金で賄い、地元負担はゼロであった。県の関係当局が積極的に事業を進めて下さり、我々は背中を押されながら参加したものでした。

このように行政が先頭に立って、県内のプロジェクトに向けて努力されていることに対し、いつも感謝しています。



Q7 司 会

今後の共同受注のあり方はどうですか。今まで大型プロジェクトが二つあったわけですが、今後、大型プロジェクトがあるか分からない中、なかなか大型受注が発生するのは厳しい状況かと思いますが。



中里顧問

今、まさに青森県にとって石油備蓄に続いて、六ヶ所の原燃核燃は将来に続くプロジェクトですが、昭和62年には、青森県商工会議所連合会でフランス原子力調査団を結成して、私を団長に、副団長は田村幸男さん、商工会議所の上村信一常務理事さんや東北電力の原子力懇談会の常務さんら総勢20名でヨーロッパへ行き、ラ・アーグやロンドン、スイスにも視察に行きました。

そう、青森県商工労働部の前田課長さんも行ってるんですよ。そういう実績を出して、原燃産業であれ電力発電所であれ、結び付きを深めて行って、地元として努力するとともに、県も引っ張り込んで、鉄工業界と結び付けないと。

こういったことが無くなった場合は、また、かつての鉄工になり仕事が減り、共同受注ということも無くなり、みんなえらい辛い思いしなきゃならなくなる。ということをお慮しております。発展的未来志向に、みんなの力を結集した方が強い面に働く。

反面、連帯保証等はどうしても優劣が出ると、それを被るとなると将棋倒しになって、だんだん弱くなって来ますから、そういう点を反省し、自助努力を求めることと、同時に業界として出来る共同の力、これを活かして行かなければならないでしょう。鉄工業界全体として、このように思っています。未来志向で考えていかなければならない。



めざましい発展を続ける臨海工業地帯

Q8 司会

昭和39年、八戸地区が新産業都市の指定を受け、三菱製紙さん、八戸製錬さん、俗にいう重厚長大産業が沿岸部に誘致されました。それに伴い、地元企業のメンテナンス業務の需要が増えました。

最近アルバックグループさん、多摩川精機さんといった先端産業の企業が誘致されてきた経緯がありますが。

中里顧問

八戸は地理的に、新井田川、馬淵川、奥入瀬川、五戸川と非常に自然条件、河川、太平洋と水資源に恵まれている。

工業化の歴史は大正10年の、日の出産業（現：八戸セメント）でございます。新井田川の側に張り付いていましたが、それから昭和12年、日東化学八戸工場、それから日本砂鉄八戸工場が馬淵川の流域に、昭和16年には合同酒精（当時は東北アルコール）と、八戸の工業化はこの4工場に加え、松尾鉱山の硫黄の貯蔵並びに積み出し岸壁が存在しました。資源型、臨海型でスタートしたわけです。

昭和17年当時に、国から工業の振興地域という指定を受け、戦後、昭

和25年に国土総合開発法、昭和37年に国立高専を誘致、昭和39年の新産業都市の指定と続き、その時も資源型の臨海型でありました。経過については素材型産業から知識集約型流通産業へ移行したわけですが、なんせ、陸・海・空の交通インフラが整わない状況の中、行われて来ました。

古戸顧問

新産業都市に昭和39年に指定されたというのが、八戸の現在があるというか非常に飛躍できた大本だと思えますよね。

私も、三菱製紙さんが第1号として誘致された時には、本当に現場で駆けずり回ってお世話になったわけですが、次の八戸製錬さんが来られるとかで、八戸の作業員のレベルが上がった。今までは、町工場的な考え方しかなかったのが大手企業の進出でかなりレベルが上がりましたね。何故かという、例えばヘルメットの着用とか、安全靴の着用、安全ベルトの着用など、今から考えれば当たり前のことをそれまで殆どしてませんからね。一番怒られたのは、溶接機の電撃防止器でした。それまでは普通の仕事では付けたことが無かったですからね。

そういう風に私らの考え方も、ぐっと変わって、技術・技能の面、設備の面でも大きく変化して来ましたね。私の東北建機でも大型の精度の高い機械を入れたことによって仕事がある。するとそれだけでは間に合わない、もう1台、もう1台入れようと今は4台から5台揃っていますけれど、それだけニーズに応えられるようになって行きましたね。

町の自転車屋が「オラは自転車だけ売って行く」と言っていた人が、「オートバイに切り換えた」、次に「オートバイから四輪自動車に切り換えた」ことのように、時代の波に置いて行かれないようにすることが大事だと思いますね。

誘致企業がどんどん入って来たら、大手さんに応えられるような地元の体制を取って、もちろん自分の体力にあったことしか出来ないわけですが、努力をして大手の誘致企業さんについて行くべきだと思います。非常にありがたい誘致企業が張り付いたお蔭で私どもも恩恵を受けたと思います。

田中会長

八戸鉄工協同組合は、大手企業さんの進出によって、色々なニーズに応えることで成長して来たのかなと思います。うちもお客さんの要望に対応出来るような設備投資を、機械の大型化などで対応して来ているものですから、大手企業さんの進出で地元の技術はかなり押し上げられているなと思います。有難い事です。

首都圏企業との受発注交流商談会を、21あおもり産業総合支援セン



八戸鉄工協同組合施工の開運橋



八戸鉄工協同組合施工の河原木第1歩道橋



大型横中ぐり盤

ターの主催で毎年開催していましたが、以前は殆ど八戸地区の業者しか居なかったんですね。

今では、青森、岩手、秋田三県の合同商談会を東京で行っていますが、顔ぶれもやっぱり変わって来たんです。

特に素材産業の事業所は相変わらず八戸なんですが、弘前航空電子さん、キャノンさん、いわゆる電機や精密機械加工業が、弘前を中心にした津軽地方で事業を展開しています。

キャノンさんの仕事をしている会社なんか今、500~600名の従業員を有する企業が出ていますよ。そういう意味じゃ、八戸はある分野には力があるんでしょうけれども、それ以外の分野では、逆に水をあけられた状況になっているのは間違いない。電機の部品加工や先端産業に関しては、完全に水をあけられてしまっている傾向があります。

これからは、鉄工連合会、各企業、団地組合などもそうですけれども、いわゆるお客さんの多様化にどうやって対応していくのか。八戸も東北真空技術さんが来てから変わったんですね。お客さんの製品に対応するための機械を導入して、今ではかなりの鉄工業者が手伝いをしています。

今年の受発注交流商談会の時も八戸の業者が、もうぐっと減ってきたんです。弘前だけではなく、比較的電機を中心とした精密加工の工場は、県内各地に散らばっています。田舎館村だとか、十和田とかあちこちにあるんですね。素材型、エネルギー型の企業の対応は地元である八戸が一番強いと思うんですけども。

それ以外の分野、県や市が、いま力を入れようとしている自動車関連分野への進出、もう一つは炭素繊維（カーボン）を使った航空分野ですね。こういうものに対応する為には、頭を切り換えなきゃ行けない。八戸はこれまで、新産業都市を起点にして、地元の素材メーカーを中心に、大手企業の手伝いをしながら力を付けてきましたが、今後はある意味、別の分野の取り組みをどうやって行くか、ということです。電機は遅れをとってもう難しいかなと。ただ航空分野や自動車の分野はまだまだ地元としてやり方によっては対応できるかなと思っています。その辺がテーマになってくるかと思っています。



Q9 司会

最後に顧問であるお三方から、これからの鉄工業界に期待することを、ご意見番としてご意見を頂きたいのですが。

中里顧問

今の日本の経済情勢は、日本の技術を中国や韓国といった世界に提供

したことで、ブーメランのように苦しんでいるというのが実態です。そういう場合に、独自の製品を作れと言われてもなかなか容易じゃない。しかし、努力もしなければならない。

かといって、大企業に依存して行く八戸圏域内だけでは限られたエリアになってしまうでしょう。

むつ小川原開発、六ヶ所～東通、大間ということで、将来、東海道メガロポリスのように、新産都市八戸から下北半島までの太平洋メガロポリスを形成されるように願っておりますが、今後、鉄工業界としての受注機会は必ず出るでしょう。

従って、自らの開発努力と同時に、既存の可能性のある企業立地や、漁業関係、水産と工業との結び付けを図るなど、大きなポテンシャル、可能性を持った八戸の鉄工業界の役割を果たして行かなければならない大変大事な仕事だと認識しております。

それには、対応する鉄工業界全体としての努力、また、個々の企業努力に尽きるんじゃないでしょうか。立体的な目から見て、全体的な目から見て、鉄工連合会や個々の企業の技術的な問題や経営的な問題など、第一線で努力しなければならないでしょう。

混迷を極め、先行き不透明な現在だからこそ、今一度、歴史を振り返り、八戸の先人達がいかに知恵を結集し、どのように苦難を乗り越え、今日があるのか。歴史に学び、道を開くことも大事なのではないのでしょうか。

田村顧問

業界としては、八戸に行ったら何かがあると、八戸に行けばこれがありますよというのが鉄工業界の本当の考え方だった。

会社の開発事業とか補助金があって色々やったわけだ。八戸に行ったら「これがありますよ」と、地元大手は伸びて行ったんですからね。

一皮むけば、切り身だとどうしてもダメ。でも、よく何十年もやったなど私は誰からも褒められた事が無いけれども、自分では自分を褒めていますよ。一生を業界のために尽くしたつもり。意見があればなんぼでも聞きます。

力のある人は、地元の為に、あるいは八戸のために青森のために、礼を尽くして何かを残す方法を考える。これだけが私の本当の願いであります。いっぱいね、色々あったんですよ。世の中ってのは、変わって来るじゃないですか。時代が変わった方向に切り換えるだけの頭がないとダメだろうと思いますね。

あと、我々業界の人間だけで物事を考えても、なかなか売れないですよ。本気で売れる物を考えないと。実際に、コンクリートで出来た建物



八戸大橋（夢の大橋）





の屋上の余熱を遮断するため、木や草を屋上に植えるのを考えたんです。県も特許費用の50%を負担すると言うので、特許を取得し、現在も持っているんですが、なかなか売れない。

資金力があるか、開発力があるか、そこにかかってくる。すなわちイコール販売力だと言うことですよ。世の中に出て、これが欲しいというものがあれば必ず売れる訳ですが、この辺がなかなか難しい。

古戸顧問

今の世の中は、一つの製品を作って特許を取れば当たったと言うけれども、それが売れ始めた時には、次のことを考えると言うんですよ。10年程前の話ですが、多摩川精機さんは開発費に相当経費を向けていると、話していました。

今、田村さんがお話された八戸で何かこれという目玉商品が、というのは理想です。でもそれにはかなり技術開発力が必要ですし、このことに何千万、何億かけてもそれが成功するかどうか分からない。そうすると資金力がなかなか伴わない。中小企業が取り組むには非常に難しいんですよ。日刊工業新聞社の竹下豊美（故人）八戸支局長に「景気が良い時、利益がある時に何かを考えるべき」と言われました。

その時はその仕事をするために、もう精一杯頑張って、仕事を断るぐらい仕事があった時もある訳ですから、そっちまで手が廻らない。一気にガタッと落ちると、お金の面でも従業員に給料を払えない、ボーナスも払えない状況で、研究開発に力を入れるというのは、我々中小企業は難しい。

私も、この道50年携わった経験からすると、まあ何でもいいんです。忙しければ。走りまわって、仕事が出来ればそれにこしたことはない。開発も出来ればいいが、なかなか頭脳と懐の方がついて行かない。現状で行くと、国や県・市町村、地元にある仕事は、全て地元でこなせるように、やってきたことですがけれども、とにかく大手にやっていた物件も「地元でやらせて欲しい」とお願いして、橋梁でも建物でも何でも他に漏れないようにやること。

それと、三菱製紙さん、八戸製錬さんであれ、誘致企業さんに対し、地元で出来るものは「地元で下さい」とお願いしなければなりません。

また、技能者の養成、設備投資にも目を向けないといけない。目に見えるところの最大限の努力をして県や国・市町村に対しては、政治力に頼るところはお願いしなくちゃいけないし、それをまず、継続的に行うこと。

はっきりいって、平成23年2月に完成した八戸ポータルミュージアム（はっち）や、昨年度完成した八戸市是川縄文館。ああいうのは20年前だ



八戸ポータルミュージアム はっち

とおそらく大手ゼネコンでした。それを市長さんをはじめ、ご関係の皆様方のご配慮によって地元が発注していただいた。これは大変有難い事です。

平成26年操業予定のLNG輸入基地が、ポートアイランドに建設されます。ああいうのも商工会議所が窓口になり、業者の推薦をいただいている訳ですから、業界としては最大のチャンスなんです。

また、鉄工連の会長に私が就任した際、会員数は50社程度でしたが「数は力なり」ということで役員の皆様にご紹介いただくなど、会員増強に力を注ぎました。今では87会員（オブザーバー3組合含む）となりましたが、会員が減るということは寂しいし、会の衰退にも繋がるのではないかと思います。



Q10 司会

最後に、田中会長から鉄工連合会の抱負をもう一度お願いします。

田中会長

私は結束力だと思います。いろんな手段を使い、共同受注などしていますけれども、根本的には業界の仲間が結束してないとダメなんです。お蔭様で鉄工業界は、非常に結束のある業界です。それが、根底を支えているのではという気がするんです。

現実、むつ小川原油備蓄さんや日本原燃さんの発注形態や発注量の変化により、協同組合の体質も変わらざるを得ない状況で、受注形態は少し変化して来ています。単独の企業の陳情や営業活動では限界があり、行政や進出企業側も動きにくい面があります。しかし、地方のため、業界のためであれば、何とかしたいというのは行政にも理解されています。

一昔前と行政サイドの考え方も変わって来ており、最近では地元にも少しでも経済波及効果を落とさなければいけないと認識されつつあります。行政や諸機関にお願いをするにしても業界がまとまっていけないと出来ない。他の業界から見ると、何であんなに上手く行くのかなというくらいまとまっていると思いますが、それは長い間の信頼関係があるからなんです。

ある人に、鉄工業界はまとめられるけど、そちらの業界の方どうなのと聞くと全くまとめられないと。うちはある程度の話し合いでまとまるんですよね。これは長い間の実績とか、信頼関係があるからまとまる。これを失くすと恐らく何も出来ない気がします。そういう意味では、技術のレベルアップとか色々な難問があるのは当然ですが、やはり業界としてまとまっていけないと話が進まないし、それ以上の進歩がない。むしろ



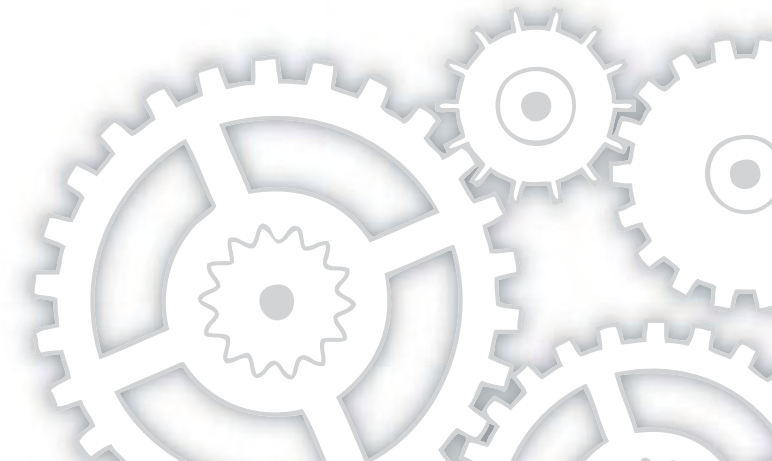


足を引っ張り合うと、横から持って行かれる可能性が高い。

今後も八戸の鉄工業界、八戸鉄工連合会として、業界がまとまる事が一番大事なんです。

司会 本日は、中里顧問、田村顧問、古戸顧問、田中会長にはお忙しい中ご出席を賜り有難うございました。3人の顧問の方々からは、八戸鉄工業界の貴重なお話や数々のエピソードをお聞きすることが出来ました。又、鉄工業界の今後の進路に関して示唆にとんだご意見をお伺いすることが出来ました。田中会長からは、先人達が築き上げた鉄工業界の今後に関して力強い抱負をいただきました。いずれも今後の私たちの進むべき方向性を指し示すものと思います。

今日は、私の拙い司会にもかかわらず、ご出席の諸先輩方より沢山のお話を頂戴することが出来ました。深く感謝申し上げまして座談会を終了させていただきます。有難うございました。



創立50周年記念事業

〔パークゴルフ大会〕

平成16年からスタートした秋の恒例行事である会員親睦パークゴルフ大会。

第7回目の大会は、創立50周年記念行事の一環として、平成22年10月17日に八戸美保野パークゴルフクラブで開催された。

爽やかな秋晴れのもと、13チーム（4名で1チームを編成し52名）が参加し、男女の部並びに子供の部のほか、今回新設された団体の部を合わせた4つの部門によりスコアが競われた。

プレー終了後には、参加者一同がジンギスカン料理に舌鼓を打ちながら、親睦を深めたほか、表彰式で

は、田中鉄工所チームが団体優勝の栄冠を勝ち取るなど、会場は普段の仕事を忘れ、終始和やかな雰囲気のまま盛況裡に事業を終了した。



〔ボウリング大会〕

平成23年3月11日に開催予定であった創立50周年記念ボウリング大会は、30チーム（3名で1チームを編成し90名）がエントリーし、準備作業がなされていたものの、開催日当日に発生した東日本大震災の影響により、ボウリング大会は中止となった。

東北地方と関東地方の太平洋沿岸部に壊滅的な被害をもたらした大震災は、八戸市でも市内全域が停電となったほか、浜市川並びに鮫地区に押し寄せた大津波により、沿岸部を中心に住家の全壊及び半壊棟数は1,158件（八戸市及びおいらせ町他／青森県災害対策本部8月1日発表）に及んだほか、河原木地区をはじめとした当会会員事業所の中にも大規模な被害が発生した。



しかしながら、ボウリング大会を心待ちにしていた会員事業所の声に応える形で、同年6月17日、ゆりの木ボウルにおいて、創立50周年記念ボウリング大会が開催された。30チームが参加し競われた団体優勝では、女性3名で編成された東北三吉工業チームが見事に優勝し、“女性”の強さを見せつける結果となるなど、会場は大いに盛り上がりを見せた。

〔創立50周年記念誌「八戸鉄工の歩み」〕

昭和36年の八戸鉄工連合会設立から現在までの活動の軌跡を中心に、関係団体である八戸鉄工協同組合、八戸鉄工団地協同組合、協同組合八戸金属工業センター等をはじめ、関連企業までを掲載した「八戸鉄工の歩み」を発刊。

表紙のデザインは、設立当時の鉄工3業種、鋳物、船用内燃機、鉄骨製缶を表している。



〔八戸消防署新庁舎の完成に伴う「纏」並びに「年表図」の寄贈〕

平成23年12月、田向地区に完成予定の八戸消防署新庁舎は、鉄筋コンクリート造りの地上5階建て（延べ床面積約5,586平方メートル）、1～2階に八戸消防署、3～5階には消防本部が入居予定。

この新庁舎完成に伴い、鉄工連合会では創立50周年記念事業の一環として、大正時代後期の纏原型と複製版をそれぞれウインドケース入り（高さ約255cm×横幅約180cm）にしたものを、庁舎1階正門エントランスホールに、八戸地方の藩政時代からの消防の組織及び災害等の歴史について掲載した年表パネル図（高さ約90cm×横幅約900cm）を5階展示コーナーに至る通路部分に寄贈することとした。

この纏の標識部は、明治44年に新築した第4部屯所の棟付近に提示された標識をデザイン化して作成したものと推察され、金馬簾^{キンバレン}5条は現場功勞により、朱馬簾^{シュバレン}1条は昭和10年無火災表彰により、青森県知事より使用が認許されたものとされている。

また、八戸消防署との歴史を振りかえれば、昭和13年、後の当連合会初代会長となる故田村義三郎氏が、日本で最初の水槽付消防ポンプ車を製作したことや、タンク車と補給車を連携させる消火戦術「ペ

アー戦術」（平成23年現在でも全国の多くの消防本部でこの作戦を実施）を考案するなど、鉄工と消防のゆかりも残されている。

展示に際し、「八戸鉄工連合会創立50周年記念」による寄贈として刻印されたプレートと合わせて展示される。



八戸消防署に寄贈する纏とショーケース

〔 功 勞 者 〕

八戸鉄工連合会創立50周年にあたり、長年ご尽力いただいた方々に感謝状及び記念品を贈呈した。

中 里 信 男 氏

役員在籍46年 会 長（22年／昭和40年～昭和61年）
顧 問（24年／昭和62年～現在）

田 村 幸 男 氏

役員在籍46年 理 事（8年／昭和40年～昭和47年）
副会長（14年／昭和48年～昭和61年）
会 長（17年／昭和62年～平成15年）
顧 問（7年／平成16年～現在）

岩 館 昭 雄 氏

役員在籍11年 監 事（11年／昭和56年～平成3年）

塚 原 寛 氏

役員在籍12年 監 事（12年／昭和58年～平成6年）

古 戸 良 一 氏

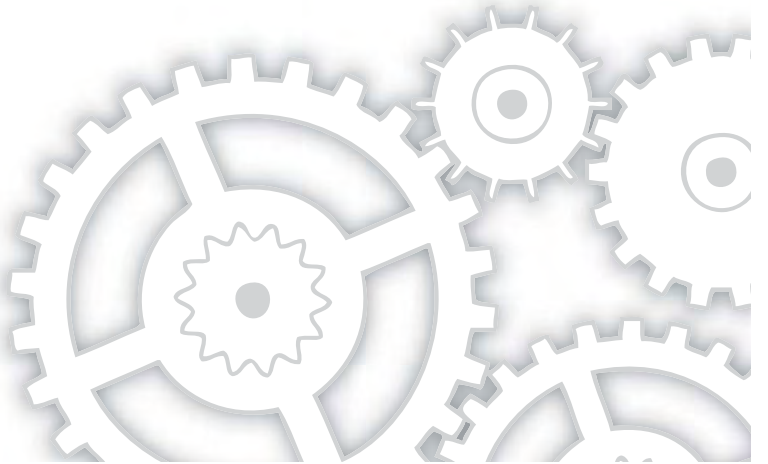
役員在籍24年 理 事（11年／昭和62年～平成6年、平成13年～15年）
副会長（6年／平成7年～平成14年）
会 長（6年／平成15年～平成21年）
顧 問（1年／平成22年～現在）

越 村 幸 男 氏

役員在籍9年 理 事（3年／平成4年～平成6年）
副会長（6年／平成7年～平成12年）

阿 部 重 雄 氏

役員在籍9年 監 事（9年／平成7年～平成15年）



東日本大震災被害状況

平成23年（2011年）3月11日午後2時46分頃、三陸沖（北緯38.0度、東経142.9度）を震源地として発生した東日本大震災は、日本における観測史上最大のマグニチュード9.0を記録し、震源域は岩手県沖から茨城県までの南北約500km、東西約200kmの広範囲にわたる未曾有の大震災となった。この地震による大津波により発生した大津波が、東北地方から関東地方の太平洋沿岸に襲来し、八戸市をはじめ岩手県沖から千葉県までの太平洋沿岸部を中心に壊滅的な被害をもたらした。

9月11日現在、死者は15,782人、重軽傷者は5,932人、行方不明者は4,986人となっており、国内で起きた自然災害で、死者・行方不明者の合計が1万人を超えたのは戦後初めてとなった。



(1) 地震に関する状況／八戸市

① 地震に関する情報

1) 震源に関する情報

発生日時 平成23年3月11日(金) 14:46頃
震源地 三陸沖（北緯38.0度、東経142.9度）
震源の深さ 約10km
規模 マグニチュード9.0

2) 震度に関する情報（市内の最大）

本震 震度5強（南郷区）
最大の余震 4月7日(木) 23:32頃
震度5強（南郷区）

3) 津波に関する情報（青森県太平洋沿岸）

3月11日 14:49 津波警報（1m）発表
3月11日 15:14 大津波警報（3m）へ切り替え
3月11日 15:22 第1波 -0.8m



- 3月11日 16:57 最大波4.2m以上 5/27気象庁発表
(6.2m:痕跡から推定、4/5気象庁発表)
- 3月12日 20:20 大津波から津波警報(高いところで2m)へ切り替え
- 4月7日 23:34 津波注意報(0.5m)発表
- 4月8日 00:55 津波注意報解除

② 対応状況

- 沿岸部の住民に避難指示 3月11日 15:05
・対象世帯 12,859世帯 ・対象人員 29,857人
- 避難所25か所の開設指示 3月11日 15:05
- 防災無線(15:05~)、消防関係車両による広報
- 避難者への毛布・食糧などの配布
- 自衛隊へ支援要請し、炊き出しや海洋探査船「ちきゅう」からの救出など
- 避難所での健康相談 3月11日~
- 災害ボランティアセンター設置 3月14日 15:00~ 八戸市総合福祉会館
- 災害義援金受付口座開設 3月16日~
- 避難所巡回相談(3月22日~24日)り災証明書、市営住宅等一時入居の相談
- 避難世帯応援チーム結成(支援期間3月30日~4月30日)
- 災害見舞金及び生活必需品給付の申請受付(受付期間4月12日~)
- 米など食料品給付の申請受付(受付期間4月19日~5月2日)

③ 避難所及び避難者

- 最大避難所数 69箇所(3月12日00時00分現在)
- 最大避難者数 9,257名()
- 最終避難所数 3箇所(4月30日06時00分)
午後2時で全て閉鎖
- 最終避難者数 10名()
- 避難指示等発表状況

- 3月11日 15:05 避難所開設、避難指示
- 3月13日 18:02 避難指示解除
- 3月14日 10:46 避難勧告
(11:15 久慈港 潮位-50cm
海上保安部より)
- 3月14日 12:30 避難指示解除
(11:16 避難指示へ切り替え)
- 4月7日 23:52 避難勧告
- 4月8日 00:55 避難勧告解除



【写真提供/デーリー東北新聞社】

④ 八戸市の主な被害状況等（平成23年8月24日17：00現在）

被害区分	被害の状況
1) 人的被害	○ 死亡1名 ○ 行方不明者1名 ○ 重傷10名 ○ 軽傷12名 うち重傷4名、軽傷1名は、4月7日の余震による負傷者。 岩手県内での八戸市民の人的被害 ○ 死者4名 ○ 行方不明者1名
2) 建物被害	○ 全壊 249棟 ○ 大規模半壊 183棟 ○ 半壊 615棟
3) 観光関係施設	○ マリエントで海水汲み上げポンプ水没のため使用不可等 ○ 蕪島周辺でトイレ水没、プレハブ売店流出 など ○ 白浜海水浴場施設（トイレ、監視棟）シャッター、窓ガラス破損 など ○ 種差海岸遊歩道 遊歩道の一部損傷及び案内版破損 など
4) 商工関係	○ 八戸港国際物流ターミナル 事務所2階部分の崩落 など ○ 八戸駅前連絡通路 ユートリー及び八戸駅舎との接合部分の破損等 ○ 八戸地域地場産業振興センター 内壁面及び窓ガラス等破損
5) 農林関係	○ 市川地区の水田、畑の浸水、いちご等栽培用パイプハウス全壊 ○ 八戸苺生産組合の建物被害 など
6) 水産関係	○ 第1魚市場、第2魚市場、第3魚市場、卸売場 卸売業者詰所全壊等 ・第3魚市場で津波浸水約2m ○ A棟、B棟 大型タンカー岸壁乗り上げ、魚体搬送設備、製氷設備破損等 ○ 水産会館 1階各室 全損 ○ 一種漁港（白浜ほか）作業小屋全壊、漁船破損・流出 など ○ 漁船 中型いか釣り漁船 岸壁打ち上げ（6隻）等 ○ 水産加工場等施設の1階部分全損 など ○ 市川船溜り 漁協施設全損、漁船流出 など
7) 福祉関係	○ 新湊はますか保育園（3/25再開）、浜市川保育園（3/22再開）津波により浸水 ○ しみず保育園ほか3保育園 トイレ壁タイルにひび等 ○ 老人いこいの家海浜荘 1m20cm浸水
8) 建設関係	○ 館鼻汚水中継ポンプ場 津波によるポンプ場建物・設備の損傷 ○ 市川町字下揚地先水路 延長L=350m、厚さ30cm約770㎡土砂堆積 など ○ 市道桔梗野長者久保線陥没 L=7.0m W6.0m 沈下量=42cm（応急復旧済） ○ 市道61路線 ごみ流出堆積（うち市道白浜海水浴場線通行止め）等 ○ 八太郎北防波堤先端部を中心に損壊 など
9) 体育施設関係	○ 長根公園 パイピングリンク破損、体育館の階段モルタル落下等 ○ 南部山健康運動センター 体育館天井パネル落下等
10) 文教関係施設	○ 八戸小学校ほか39小学校 外壁剥離・落下等 ○ 第一中学校ほか16中学校 EXJ破損等 ○ 小中野公民館ほか9公民館 床ひび割れ、天井はがれ等 ○ 給食センター 北地区ほか3給食センター 調理場天井の一部剥離・落下等 ○ 八戸市公会堂 音響反射板昇降用マシン・ガイドレール破損等 ○ 八戸市公民館 外壁ひび割れ、タイル剥落等
11) ライフライン	○ 東北電力（地震直後から市内全域停電） ・3月12日夜 市内順次復旧（市庁3/12 22：15復旧） ・4月6日15：00 市内全域復旧 ・4月7日23：32 市内全域停電（余震により） ・4月8日15：34 市内全域復旧 ○ 八戸ガス 3月12日13：00以降大口需要先（市営住宅等）12件で供給停止 3月14日00：30都市ガス供給開始 ○ 水道 南郷区島守地区 水源地取水停止（復旧済） ○ バス 市営バス、南部バスともに通常運行 ○ 鉄道 青い森鉄道（8/24）【青森～八戸】通常ダイヤ（全路線通常運行） J R 八戸線（8/24）【八戸～階上】臨時ダイヤで運行 （8/24）【階上～種市】8/8から臨時ダイヤで運行再開 （8/24）【種市～久慈】運転見合わせ（2012年度の運行再開を目指す） （久慈～種市代行バス上り5本、下り4本） 東北新幹線（8/24）【東京～新青森】4/29から臨時ダイヤで運行（9/23から通常ダイヤで運行再開予定） ○ 高速道路 【八戸道】【東北自動車道】ともに通行規制なし
12) 公共施設	○ 市庁本館 天井材、壁材の一部剥離・落下（主に4～5階）等 ○ 防災無線 津波浸水により一部放送不可 ○ 南郷区役所 庁舎天井照明落下破損等 ○ 八戸市斎場 電気温水器配管破裂等 ○ まつりんぐ広場おまつり広場 路面段差延べ11m

東日本大震災における 八戸商工会議所会員事業所への被害調査報告

【平成23年6月21日現在】

- 調査機関 : 八戸商工会議所
 調査目的 : 八戸商工会議所会員事業所を対象とする東日本大震災の被害状況調査
 調査対象 : 八戸商工会議所会員事業所 3,882件
 調査期間 : 平成23年3月25日(金)～平成23年6月21日(火)
 調査方法 : 東日本大震災に伴う会員事業所被害調査票並びに
 事業所訪問による聞き取り調査及び窓口相談からヒアリング

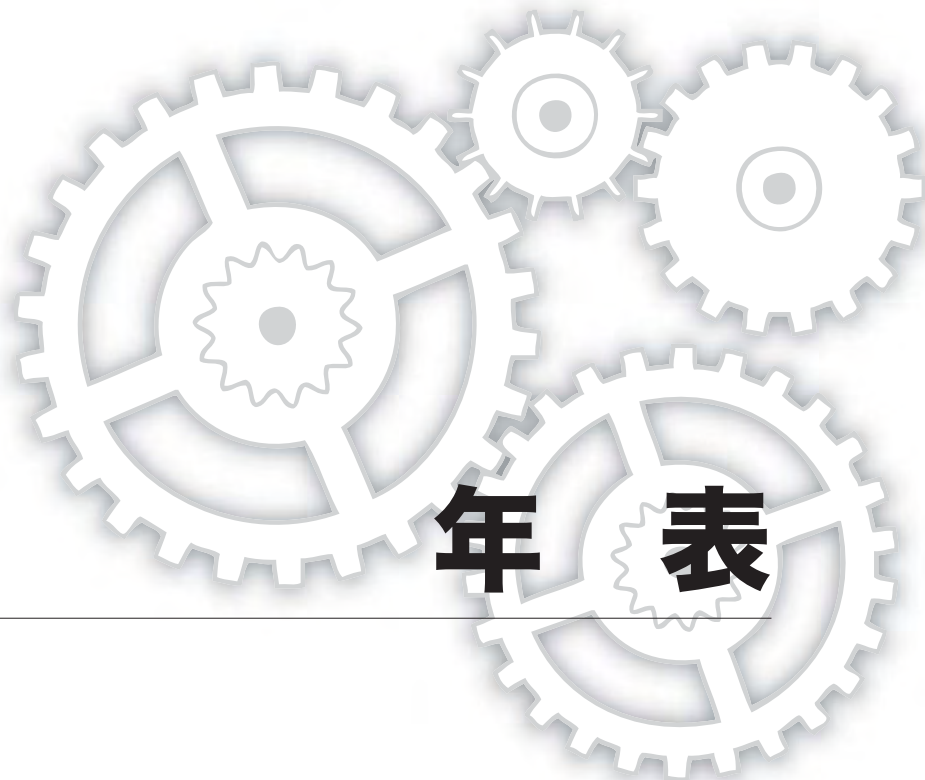
回答事業所数	1,362 社	回収率	35.1%
--------	---------	-----	-------

◆回答事業所、業種分類

項目	回答件数	構成比
製 造 業	191	14.0%
サ ー ビ ス 業	396	29.1%
倉 庫 業	11	0.8%
建 設 業	233	17.1%
運 送 業	79	5.8%
卸 売 業	180	13.2%
水 産 加 工 業	69	5.1%
漁 業	9	0.7%
小 売 業	162	11.9%
そ の 他	32	2.3%
回答合計	1,362	100.0%

◆被害金額

項目	直接被害額(万円)	間接被害額(万円)	被害額合計(万円)
製 造 業 (191)	2,916,457	65,648	2,982,104
サ ー ビ ス 業 (396)	414,578	118,618	533,196
倉 庫 業 (11)	251,438	0	251,438
建 設 業 (233)	207,730	36,567	244,296
運 送 業 (79)	600,914	73,176	674,090
卸 売 業 (180)	245,546	51,704	297,251
水 産 加 工 業 (69)	804,599	46,150	850,749
漁 業 (9)	185,000	0	185,000
小 売 業 (162)	99,834	25,576	125,409
そ の 他 (32)	63,950	323	64,273
合 計	5,790,045	417,761	6,207,806



年表

年	月	八戸鉄工関連の出来事	月	一般社会のできごと
大正年間 (1912～ 1926)		大正8年八戸湊造船株式会社(出町甫社長)が設立、造船・船具販売、鉄工業を営む。個人企業として大正7年八戸鉄工所創業、大正10年日の出セメント操業 大正12年1月1日付の新聞広告等によると、十一日町のタービン水車、製粉製米機製造、機械修理の橋本鉄工場(橋本亀吉主任)、建築用、橋梁用金物、和洋錨製作の三浦鉄工場(三浦栄次郎場主)の2社が掲載されている		
昭和元年 (1926)	1	松方五郎氏、岩手県九戸郡久慈地方の砂鉄鉍採掘に着手		
昭和2年 (1927)	6	久慈製鉄所火入れ式	3	中国に国民政府ができる
昭和4年 (1929)	4	個人企業として湊川鉄工所開業	5 10	小中野町、湊町、鮫町との合併成り市制を施行 世界恐慌が始まる
昭和5年 (1930)	3	八戸火力発電所完工式	1	ロンドン軍縮会議に出席
昭和6年 (1931)	2	八戸商工会設立	9	満州事変おこる
昭和7年 (1932)	7	大原鑄造工業所創業	3	満州国ができる
昭和8年 (1933)	4 10	高崎鉄工所(高崎甚太郎氏)設立 青森県南部でアルミニウム鉍発見	3	国際連盟を脱退
昭和9年 (1934)	2	鮫港埋立地に大阪合同水産会社がフィッシュミール工場建設		
昭和10年 (1935)	7	八戸造船鉄工組合創立、組合長 夏堀源三郎氏、専務理事 熊谷義雄氏により工場設立に着手することになる		
昭和11年 (1936)	8 12	八戸鉄工機械工業組合を設立。発起人は牛田盛重、高橋治作、田村練太郎、加藤富三郎の4氏 八戸鉄工機械工業組合26日付で商工省設立認可。理事長 牛田盛重氏、専務理事 高橋治作氏	2	2・26事件がおこる
昭和12年 (1937)	3	青森県主催の金属工業品講習会が開かれる	11 12	日独伊防共協定が結ばれる 日中戦争が始まる
昭和13年 (1938)	1 4 5 8 11	八戸鉄工機械工業組合で幹部の独断運営を不満とし8名が脱退 湊川鉄工所(加藤富三郎氏)で東京の村田源太郎商店に英式旋盤6台を製作納入 八戸鉄工機械工業組合、軍需品を大量受注 三八鉄工品工業組合創立総会を開催。参加は八戸、三戸、五戸の鍛冶屋と煎餅型屋78名。理事長 宮本由蔵氏、専務理事 中居岩蔵氏 八戸鋼業所地鎮祭を小中野町字左比代本で行う	4	国家総動員法が成立
昭和14年 (1939)	5 9 10 12	八戸鋼業所火入式を行うが翌日爆発事故発生 日東化学工業八戸工場落成式 日本砂鉄地鎮祭。敷地18万4,800㎡、工事費700万円、10万tの砂鉄原料から年400tのパナジウムを生産。残滓7～8tは海線鉄の原料として使用 八戸鉄工機械工業組合の共同施設工場(鑄物、機械仕上、鍛造、製缶)が完成	9	第2次世界大戦始まる
昭和15年 (1940)	3 6 8	軍需、豊漁、豊作と好景気に加え大手工場立地で人手不足。市営焼場付近の土地は数年前1反歩100円内外であったが今では1坪7円から12円になる。「これでは工場誘致も難しくなる」と当時の新聞は報じている 中外鉍業八戸電化工場建設開始 八戸鉄工機械工業組合青年学級開校式 大東機械製作所設立 東北アルコール工業八戸工場創設		
昭和16年 (1941)	5 12	八戸港第1期修築工事竣工 八戸商工会議所事務所完成	4 12	日ソ中立条約を結ぶ 太平洋戦争が始まる
昭和17年 (1942)	12	八戸臨海地造成事業が決定		

年 表

年	月	八戸鉄工関連の出来事	月	一般社会のできごと
昭和18年 (1943)	4	小中野の東北造船で計画造船戦時標準型の第1船、第2船竣工	8	イタリアが降伏
	5	八戸港造船株式会社創設		
昭和19年 (1944)	4	八戸市立工業学校開校 湊川鉄工所でフライス盤製造を始め2年間で30台を製作		
		合同酒精が東北アルコール工業を合併し、八戸工場として生産開始		
昭和22年 (1947)	2	八戸商工会議所の鉄工業振興懇談会開催	3	6・3・3制新教育実施 農地改革が行われる
昭和23年 (1948)	2	鉄工業振興懇談会開催		
	9	東北鉄工所創設		
昭和24年 (1949)	1	青森県最初の企業診断として八戸で東北鉄工所、大原鑄造、東洋鑄造の3社の企業診断を実施	4	北大西洋条約機構が成立
			6	中小企業等協同組合法公布
	11	大東機械製作所増資、ゲーゼルエンジン工場完成	10	中華人民共和国建国
昭和26年 (1951)			11	湯川秀樹博士がノーベル物理学賞受賞
	2	八戸船用内燃機関製作修理業者16社連名で、今後の取り引きを現金にすること、支払わず工場を転々とする船主は取り引きを差しひかえる、との需要家向け新聞広告を行う	6	日米安全保障条約を結ぶ
	4	日本高周波鋼業八戸工場創設	9	サンフランシスコ講和会議が開かれる 民間放送開始
昭和27年 (1952)	3	八戸鑄造工業協同組合設立、参加5社、理事長 大原一雄氏		
	8	砂鉄工業振興協議会開催		
	11	青森県主催の鑄造工業技術講習会開催		
	12	東北砂鉄鋼業八戸製錬所開設		
昭和28年 (1953)	6	八戸鑄物工業産地診断と技術講演会、実施指導など開催	7	朝鮮戦争の休戦協定が成立
		県、市、大手工場による砂鉄工業振興策懇談会開催	8	テレビ放送開始
昭和29年 (1954)	4	青森県主催の砂鉄工業振興対策会議開催	3	アメリカがビキニで水爆実験をする
	5	八戸商工会議所工業部会副部会長に高橋治作氏、同部会金属工業委員会委員長に高崎甚太郎氏、副委員長に田畑一氏、田中喜一氏、村上由蔵氏を選任	7	自衛隊が発足
昭和30年 (1955)	3	青森県知事に対し八戸商工会議所が工業試験場、水産試験場の八戸市設置を陳情	2	日本生産性本部設立
	6	県、市、商工会議所共催で鑄物映画上映会と技術講習会を開く		
	12	八戸鑄造工業協同組合、漁業船主へのコゲつき6,000万円に手を焼く		
昭和31年 (1956)	5	八戸に火力発電所の設置決定	12	ソ連と国交を回復(日ソ共同宣言) 国際連合に加盟
	6	八戸市議会で来八中の白杵鉄工 田中徹男社長に八戸進出を要請		
	8	日曹製鋼八戸工場の建設着手		
	9	八戸火力発電所起工式		
	11	八戸ガス操業開始		
昭和32年 (1957)	2	商工中金の八戸支所設置を総裁に陳情	1	南極昭和基地の設営
		八戸総合振興会結成	10	ソ連が人工衛星を打ち上げる
		切削技術講習会開催		
	4	日曹製鋼八戸工場操業開始		
	10	八戸鑄物工業産地診断実施		
昭和33年 (1958)	1	八戸市、八戸商工会議所、青森県信用保証協会は33年の地場産業振興業種として鑄物工業を決める	1	アメリカが人工衛星を打ち上げる
	2	八戸鑄物工業振興協議会(会長 田畑一氏)設立。参加15社	10	国連安保理事会非常任理事国となる
		市、会議所、業界代表による砂鉄鑄物懇談会発足		
	4	八戸商工会議所で八戸工業高校に鑄物試験設備の設置を要望		
	6	八戸鋼業の砂鉄、丸棒一貫生産工場完成 八戸火力発電所1号機(出力75,000KW)運転開始		
	9	鑄物技術講習会開催		
11	八戸鑄物協同組合(理事長 田畑一氏)設立。参加14社 川口地区鑄物工場視察			

年	月	八戸鉄工関連の出来事	月	一般社会のできごと	
昭和34年 (1959)	1	祐川鑄造工業所、炉を新式に更新	1	ソ連が月ロケットを打ちあげる	
	2	八戸商工会議所工業部会に内燃機専門部会を組織、部会長 牛田雄也氏、副部会長 船木仁三郎氏選任、八戸舶用品機械工業会会長名で産地診断の申入れを決める	4	皇太子殿下ご成婚	
	3	八戸商工会議所で県知事に金属材料試験場の八戸設置を陳情			
	4	船用内燃機工業産地診断打合せ 大原鑄造工業所、炉を新式に更新			
	6	大坂鑄造所でディーゼル漁船用クランクケースベッドを製造			
	8	八戸内燃機工業産地診断実施			
	9	東洋鑄造工業、炉を新式に更新 鑄造技術講習会、船用内燃機技術講習会開催			
	10	八戸商工会議所で東北開発に2次、3次の工業化を陳情			
	11	八戸従業員育成会結成 八戸船用内燃機工業振興協議会(会長 牛田雄也氏)設立			
	昭和35年 (1960)	4	東北砂鉄鋼業八戸製鋼所操業開始 田畑鑄造工業、溶解炉を更新	5	チリ地震津波来襲、三陸沿岸に被害大 フジ製糖、六戸に工場設置正式決定
		5	大坂鑄造所、溶解炉を更新	6	日米安全保障条約が改定される
7		八戸地区機械工業産地診断および中間報告会開催	7	県知事に山崎岩男氏再選	
8		八戸鉄工業振興協議会(会長 田中喜一氏)設立、参加59社	8	大湊・田名部市が“むつ市”に市名変更 (全国初のひらがな市名)	
9		田畑鑄造工業、青森県の研究指定工場の指定を受ける	9	カラーテレビ放送開始	
10		八戸地区機械工業産地診断報告会を開催 東新鋼業八戸工場完成			
12		東北鉄工所でプレーナー試作1号完成 八戸鉄工業振興協議会で第1回の集団求人面接試験実施、求人23社 180名に対し応募者108名、採用決定93名、初任給は中卒4,500円、高卒 7,400円以上	12	特急「はつかり」ディーゼル化(青森～上野間)	
昭和36年 (1961)	1	八戸鉄工業振興協議会集団求人採用決定者、父兄と工場視察、懇談会開催 祐川鑄造工業所で従業員宿舎兼倉庫を建造	1	青森県庁落成式	
	2	八戸鉄工連合会組織発足決定。青森県金属材料試験所が36～38年度事業として開設することに決定したため、その受益者代表会議が市庁で開かれ、その席で鑄物、内燃機、鉄工の各協議会が一本化される	4	ソ連で人間衛星船を打上げる 八戸港1万トン岸壁完工	
	3	八戸鉄工連合会(会長 田畑一氏)発足 切削技術講習会 切削技術と超硬工具講習会開催	5	八戸市白銀で大火(住宅など1,000棟以上焼く)	
	8	八戸鉄工連合会第1回機械見習工研修会開催	8	県の高専誘致期成同盟会の結成式(津軽地区と南部地区で争う)	
	9	日東金属鉱山八戸製錬所着工	10	八戸市長に岩岡徳兵衛氏が3選	
	10	八戸鉄工業労務管理研究会(会長 沼一郎氏)発足 八戸地区機械金属工業(鑄物、内燃機、鉄工)の総合産地診断実施 青森県金属材料試験所管理棟着工	11	是川遺跡出土品が重要文化財に指定	
	11	機械金属部門共同受注視察団を三菱重工に派遣			
	12	八戸鉄工連合会として第1回集団求人面接試験実施			
	昭和37年 (1962)	1	青森県金属材料試験所小中野に仮事務所開設	1	第17回国体スケート競技会が開催
		2	鑄物、機械共同受注研究会を開く	2	青森労災病院が開院
		4	八戸商工会議所工業部会に鉄工専門部会を設置、部会長 東北鉄工所、副部会長 古川鉄工、沢内電機工業、祐川鑄造工業所を選任 八戸市中小企業集団化及び共同施設設置促進条例を公布	9	NHK八戸放送局 教育テレビの放送を開始
		5	第2回鉄工見習工員研修会開催 日東石膏ボード工場起工式	10	国立八戸工業高等専門学校の誘致決定
6		日東金属鉱山八戸製錬所完成			
7		八戸鉄工協同組合設立総会開催(理事長 田中喜一氏)、出資金151万円、組合員数32名			
9		八戸鉄工連合会第1回運動会を二中校庭で開く			

年	月	八戸鉄工関連の出来事	月	一般社会のできごと	
昭和38年 (1963)	1	沼館に青森県金属材料試験所庁舎完成(4月から業務開始)	2	山崎県知事突然の病气辞任	
	2	日東化学工業希望退職者募集	3	県知事に竹内俊吉氏初当選	
	4	国立八戸工業高等専門学校開校			
	5	八戸鉄工連合会会長に田村義三郎氏選任 鉄工県連組織設立打合会を青森で開催	9	旭ヶ丘住宅団地完工	
	6	機械金属工業研修会	10	原子力研究所原子力動力炉による発電に成功	
	7	閣議で八戸地区の新産業都市指定が内定	11	日米間のテレビ宇宙中継実験成功 ケネディ米大統領暗殺される	
	9	八戸鉄工連合会第1回野球大会開催、優勝は西浦工業所 東北砂鉄製鉄工場完成			
	10	八戸ガスのナフサガスプラント完成 磐城セメントが住友セメントに社名変更 吉田シャーリング工場完成			
	11	八戸鉄工連合会で労務管理近代化対策推進計画をまとめ年次別到達目標を定める 東邦アセチレン八戸工場完成			
	12	八戸鉄工連合会に労務管理近代化推進委員会と労務対策委員会設置。 昭和39年3月卒の初任給を中卒で日給300円、同住込み月給4,000円～4,500円と決める 日本文明シャッター八戸工場完成			
	昭和39年 (1964)	1	東北建機工業所10キロタイプ鋳鉄弁発売	4	青函トンネル着工 名神高速自動車道路全通 是川考古館開館
		2	北日本特殊鋼八戸工場試運転開始 青森県新産業都市建設事業団発足		
3		八戸地区新産業都市正式指定			
5		八戸鉄工連合会集団求人募集200名に対し決定したのは40名にとどまる			
6		八戸鉄工協同組合理事長に中里信男氏、副理事長 田村義三郎氏、沼田吉雄氏を選任 八戸鉄工連合会会長に中里信男氏、副会長に田畑一氏、船木仁三郎氏、高砂善男氏を選任	8	青函トンネル本州側調査坑、三厩で着工、修ばつ式	
7		八戸鉄工連合会に労務対策(委員長 船木仁三郎氏)、教育訓練(同 楳本勝美氏)、金融対策(同 田畑一氏)、定着対策(同 小森卯之助氏)、福利厚生(同 加藤清衛氏)、共同受注対策(同 田村義三郎氏)の6委員会設置	9	八戸第二工業港起工式	
8		八戸鉄工連合会で8ミリのモノクロ、鉄工八戸のPR映画製作に着手、費用10万円 三菱製紙八戸進出で青森県と覚書交換	10	東海道新幹線開通 東京オリンピック開催	
9		八戸鉄工協同組合事務所、小中野北5-18に完成 日東金属鉬山八戸製錬所閉鎖	11	佐藤内閣発足 青森空港開港式	
11		八戸地区新産業都市建設基本計画まとまる 八戸鉄工協同組合、八戸酸溶会と酸素の共同購入を契約 八戸鉄工連合会でPR誌「鉄工はちのへ」を印刷			
12		中外鉬業八戸電化工場閉鎖			
昭和40年 (1965)		1	日曹製鋼八戸工場フェロマンガンを生産開始	2	ベトナム戦争勃発
		2	青森県営八戸工業用水道建設事務所開設 船木鉄工所で小型船専用船巻揚機完成発売		
	3	八戸鉄工連合会で事業内共同職業訓練所設置を決定 八戸自動車整備団地土地造成工事着手	7	木材輸入特定港に指定	
	4	三菱製紙八戸工場建設工事に着手 むつ製鉄建設断念を閣議で決定 八戸鉄工協同組合総会で八戸鉄工償還組合の組織化の検討、共同宿舍用地の確保など事業計画を決める 八戸鉄工協同組合、商工中金青森支店との取引開始	8	常陸宮ご夫妻、田代平で開催された第7回国立公園大会にご出席 八戸～苫小牧間に貨物輸送航路開設	
	6	八戸鉄工建設株式会社設立、代表取締役にも中里信男氏を選任(業務開始7月1日) 八戸鉄工連合会会長に小森卯之助氏を選任するが、約1ヵ月で辞任。会長に中里信男氏を選任すると同時に役員任期を1年を2年に変更	10	朝永振一郎ノーベル物理学賞受賞	
	8	八戸鉄工連合会共同職業訓練所開所	11	市長選挙で中村拓道氏初当選 東北本線、青森～盛岡間の電化工事くわ入れ式	
	9	八戸火力発電所増設(250,000KW)工事着工	12	日韓基本条約を結ぶ	

年	月	八戸鉄工関連の出来事	月	一般社会のできごと	
昭和40年 (1965)	10	八戸自動車整備団地一部操業開始 八戸鉄工建設トラッククレーン第1号車購入			
	11	八戸鉄工連合会60事業所の労務診断実施			
	12	八戸鉄工連合会は鉄工関連の仕事の急増から集団化への参加者を募集、33社が応募			
昭和41年 (1966)	1	八戸鉄工連合会従業員および家族慰安芸能大会 八戸鉄工連合会で集団化用地として三菱製紙以南に132,000㎡、鉄鋼造船所用地66,000㎡、共同宿舍用地、共同職業訓練所用地確保などを八戸市長に陳情	1	三沢市の大火で800世帯2,500人が被災	
	4	八戸鉄工協同組合総会を開催。任期満了に伴う役員改選では、理事長に中里信男氏、副理事長 高砂善男氏、工藤良生氏を選任し、集団化研究・共同宿舍建設など事業計画を定める	3	八戸市で第1回公害防止対策懇親会開催 青森県専用臨湊鉄道完工 NHK総合教育テレビがカラー放送開始	
	6	八戸鉄工連合会会員大会 鉄工団地計画、参加企業を22社に縮小する	6	青森県八戸工業用水道開業	
	7	八戸鉄工協同組合、鉄工団地建設を決める			
	8	八戸鉄工会館の建設に着手 八戸製錬の八戸進出決定 八戸鉄工連合会第1回釣り大会開催			
	9	青森県議会に鉄工団地用地売り渡しを請願			
	11	八戸鉄工団地協同組合設立総会開催。理事長に中里信男氏、副理事長に高砂善男氏、工藤良生氏選任 三菱製紙八戸工場一部操業開始 土屋鉄工所行き詰まる			
	昭和42年 (1967)	1	八戸鉄工協同組合、鉄工会館に移転 八戸鉄工団地計画診断	1	通産省は八戸共同製錬所の設立許可
		2	青森県鉄工組合連合会設立。会長に外崎成三氏選任 八戸鉄工団地用地、青森県との話し合いまとまり第2臨海部66,000㎡内定	2	県知事に竹内俊吉氏再選
		4	八戸鉄工連合会第1回永年勤続従業員表彰式 八戸鉄工会館完成披露 八戸鉄工会館に八戸鉄工建設が移転	3	フジ製糖・青森工場完全閉鎖発表
		5	八戸鉄工建設 中里信男社長退任に伴い新社長に田畑一氏が選任 八戸鉄工協同組合総会を開催し、理事長に田中喜一氏、副理事長に田村幸男氏、安ヶ平重吉氏選任	4	新産誘致企業第1号、三菱製紙八戸工場落成 中里信男氏八戸市議会議員に当選
6		八戸鉄工団地用地64,166㎡正式決定 青森県知事に八戸鉄工団地協同組合の確定工場集団化計画書提出	6	イスラエル、アラブ諸国と武力衝突 馬淵川一級河川に指定 八戸製錬所の起工式	
7			7	日航八戸～札幌間定期航路を再開	
昭和43年 (1968)	1	八戸鉄工団地協同組合と青森県新産業都市建設事業団で鉄工団地建設用地の売買契約。面積62,519㎡、金額1億7,268万8,000円	11	大湊港が原子力船母港に決定 竹内知事は県議会全員協議会で原子力船開港設置に同意する旨を正式表明	
	2	八戸鉄工協同組合4部会を設置し 鋳物(委員長 祐川実氏)、船用(同 菅原喜四郎氏)、鉄骨製缶(同 三浦賢策氏)、機械(同 田村幸男氏)を選任 鉄工従業員用の共同宿舍用地として沼館の市有地2,259㎡の払い下げ決定	1	県は八戸工業港拡充で漁業補償が解決せず白銀地帯の造成断念	
	3	八戸工業高等専門学校第1回卒業生133名(女子8名)。就職希望104名(女子5名)中、地元就職は8名(女子2名)のみ 八戸鋳物業界の一本化工作始まる 鋳物業界一本化で第1回会合を開き賛否のアンケート調査実施を決定 鋳物業界一本化で一本化推進委員会設置を決め、八戸鋳物協同組合、八戸鋳造工業協同組合、両協組未加入グループ各2名と八戸商工会議所1名のオブザーバーで構成する	5	十勝沖地震、県下をおそう。津波来襲、被害額170億	
	4	日東化学工業八戸工場でも鉄鋼造船所建設で船主の意向調査に着手 田村義三郎氏勲六等瑞宝章受章	6	小笠原諸島が日本に復帰する むつ市の原子力船母港の建設工事スタート 大型百貨店「丸光」「緑屋」が開店	
	5	八戸鉄工団地参加13社の建設診断実施 十勝沖地震発生で土地造成中の八戸鉄工団地建設用地も20cm地盤沈下する	7	県くみあい飼料八戸工場落成式	
	7	44年春学卒の八戸鉄工連合会集団求人初任給決定。中卒16,500円(前年比増額3,500円)、職業訓練校卒18,000円(同3,000円)、高卒21,000円(同4,000円)、工業高校卒22,000円(同4,000円)	10	東北本線複線電化開業 国鉄八戸線の高架化推進承認	
			11	(協)八戸総合卸センター設立	
			12	川端康成氏がノーベル文学賞受賞	

年	月	八戸鉄工関連の出来事	月	一般社会のできごと
昭和43年 (1968)	8	大原鑄造工業所木型倉庫火災 鉄工連従業員用共同宿舍起工式 八戸鉄工団地の中小企業構造改善事業計画、通産大臣より認可 八戸鉄工協同組合船用部会(12社)で集団化を決め、八戸船用工業会(会長 小森卯之助氏、13社)を発展的解散		
	9	八戸鑄物業界一本化工作一部の協力が得られず中断を決定 八戸鉄工団地起工式		
	10	八戸商工会館建設用地決定 角弘スチール加工センター建設に着手(完成44年4月)		
	11	西浦工業創立20周年記念パーティー開催 鉄鋼造船所建設のため熊谷義雄代議士に白杵鉄工所へのあつ旋を八戸鉄工連合会として申し入れする		
昭和44年 (1969)	1	鉄鋼造船所建設で白杵鉄工所関係者八戸の現地視察、関係者と打合せ 青森県鉄工組合連合会、会員拡大、中小企業組合組織化の検討に着手	5	東名高速自動車道全通
	2	八戸製錬八戸製錬所操業開始 日本高周波鋼業八戸工場製品分析室など焼失	7	人類が月面におりたつ(アメリカ) 市制施行40周年(市民憲章制定)
	3	軽米鉄工所、東北建機工業の団地工場完成 八戸造船重工設立総会(社名をのちに北日本造船に変更4月7日登記)を開催し、社長 中里信男氏、会長 中島石蔵氏を選任 八戸鉄工団地協同組合事務所完成	8	甲子園全国高校野球夏の大会の決勝で三沢高校が松山商業に再試合で惜敗
	4	鉄工連従業員共同宿舍「鉄工みどり寮」落成式 牛田盛重(雄也)氏死去	11	秋山阜二郎氏八戸市長に初当選 丸美屋デパートが正式に廃業(18年間の歴史を閉じる)
	5	八戸鉄工協同組合総会で理事長に高砂善男氏、副理事長に安ヶ平重吉氏、三浦賢策氏、田村幸男氏選任 八戸市水道部の協力で八戸鑄鉄管協会(会長 祐川実氏)設立。会員は東北鉄工所、東北建機工業、大原鑄造工業所、共和工機、祐川鑄造工業所 八戸鉄工建設で八戸鉄工団地隣接地約2,800㎡を買収 三浦鉄工工場完成	12	長根公園スピード・スケートリンク(パイピング)完成
	6	高橋製作所団地工場完成		
	7	八戸鉄工協同組合、共同事業として中古機械の委託販売で設備更新の促進を図る 八戸鉄工連労働災害防止対策協議会設立総会開催。会長 梶本勝美氏、参加70事業所、従業員総数1,752名 東北鉄工所経営行詰る		
	8	十和田鉄工事業協同組合設立		
	9	青森県鉄工連協同組合設立総会開催。理事長に中里信男氏、副理事長に榊修吾氏、高砂善男氏、種市正吉氏を選任 安ヶ平鉄工団地工場完成		
	10	八戸機械製作所団地工場完成		
	12	橋本巖鉄工所、西浦工業、高砂鉄工所の団地工場完成		
	昭和45年 (1970)	1	八戸鉄工団地共同加工工場完成 八戸鉄工連合会で鋼材の共同仕入れのため鋼材販売会社構想の検討開始 住友セメント八戸工場レポールキルン増設工事完了 青森県鉄工鑄物工業組合(理事長 田畑一氏)設立。県内21社中17社参加	1
2		日本高周波鋼業八戸工場で鑄物の生産開始	3	日本万国博覧会開催(大阪) 商工中金の八戸誘致運動始まる
3		八戸金属設立総会開催。会長 中里信男氏、社長 三浦賢策氏選任 北日本造船で新造第1号の第18喜勢丸進水	7	原子力船「むつ」大湊母港に入港
5		青森県鉄工連協同組合総会で青森市に事務所、倉庫の建設を決める	9	塩町で国道45号線八戸バイパス工事着工式
7		東建ビル完成 八戸鉄工団地落成式	10	八戸前沖のイカ・サバ漁協の紛争でイカ漁船員300人が市庁に座り込み(水産庁が調停に乗り出す)
8		丸紅飯田八戸第2臨海工業地帯に進出決定		
9		八戸鉄工団地協同組合に安全委員会設置 青森県鉄工鑄物工業組合の構造改善事業進まず3社脱退、14社となる	12	八戸商工会館完成、落成式 八戸臨海鉄道が営業を開始
10		青森県中小企業団体中央会で八戸駐在職員を配置		
11		東北建機工業鑄造工場火災		
12		筑後機電、上村鉄工所経営行詰る		

年	月	八戸鉄工関連の出来事	月	一般社会のできごと
昭和46年 (1971)	1	船木仁三郎氏死去	1	県知事に竹内俊吉氏 3 選
	2	三浦栄次郎氏死去	2	八戸駅が本八戸駅と改称される
	3	八戸地区銑鉄鋳物工業業界診断勧告出る	3	むつ小川原開発株式会社が発足
	5	八戸鉄工団地協同組合 中里信男理事長が全国工業団地協同組合連合会理事に就任	4	中里信男氏県議会議員に当選
	6	青森県鉄工連協同組合、青森市浦町に990㎡を1,019万7,000円で買収	5	国鉄・尻内駅が八戸駅と改称される
		八戸鉄工協同組合総会で理事長に安ヶ平重吉氏選任	8	協同組合八戸総合卸センター起工式 ドルショックおこる 植物輸入特定港に指定される
	9	青森県鉄工連協同組合で組合員倒産により組合が背負う負債に対する利子補給を要望	9	八戸第二工業港開港
		八戸鉄工協同組合で青森県議会に鉄骨工事の分離発注を請願。青森、弘前の各協組でも引き続き請願する 内燃機関連業界の集団化計画具体化し始める		尻内に県公害センターが発足（県内各地で住民運動が活発になる）
	10	青森県、集団化前提で八戸内燃機業界の予備調査実施		東北新幹線太平洋回り誘致期成同盟会を作り誘致合戦再熱
	11	第29回全国中小企業大会で八戸鉄工協同組合が優良団体として表彰される		県合同庁舎完成
	12	青森県議会（議長 寺下岩蔵氏）6月の鉄骨工事の分離発注請願を不採択、陳情書に変更して再提出する		
		八戸鉄工連合会ボーリング大会開催 工藤シャーリング倒産		
昭和47年 (1972)	1	青森県鉄工連協同組合、青森市の用地を売却処分する	2	冬季オリンピック札幌大会開催
	2	高橋勘治郎氏死去	5	沖縄が日本に返還される
	3	八戸内燃機工業協業組合設立総会開催。理事長 古川金吾氏、専務理事に小野寺罔夫氏選任	6	八戸工業大学が開学式
		八戸鉄工建設洗車場が沼館にオープン	7	市民プール完成
	4	高砂鉄工所代表取締役沼田吉雄氏、三浦賢策氏選任	10	国鉄八戸線高架着工記念式を行なう
		北日本造船で地元受注新造第1号の第38浜善丸進水		
	5	八戸鉄工団地協同組合、八戸内燃機工業協業組合などで東京に共同の営業拠点開設を検討		
		八戸内燃機工業協業組合で水島鉄工センターなど視察 三永製鉄八戸工場電炉を停止 商工中金八戸事務所開設 全国鉄構工業連合会設立		
	7	八戸鉄工団地協同組合 高砂善雄副理事長が退任し、三浦賢策氏が就任		
		八戸鉄工連合会の48年新規学卒者集団求人初任給決定。中卒29,500円（前年比2,000円増）、職業訓練校卒33,000円（同2,200円増）、高卒36,500円（2,500円増） 八戸鉄工団地協同組合が安全優良団体として青森労働基準局長表彰を受ける		
	8	市川工業団地完成し、分譲受付を開始		
八戸商工会議所、青森県鉄工連協同組合、八戸鉄工協同組合など6団体で八戸専修職業訓練校に機械、鉄骨製缶、鋳造の3課を設置するよう青森県に陳情 八戸市で桔梗野工業団地造成計画の検討開始				
9	八戸内燃機工業協業組合の協業化計画（事業年度48～49年度）まとまる。総事業費約1億1,560万円、参加7社			
	八戸鉄工連合会第10回野球大会開催、東北建機工業優勝			
10	高橋製作所団地工場に機械工場建設			
11	八戸内燃機工業協業組合総会で理事長に小野寺罔夫氏選任			
11	東京鉄鋼の八戸進出決定			
	八戸鉄工協同組合創立10周年記念式典開催			
昭和48年 (1973)	2	共和工機など6社の鋳物構造改善事業は3社が脱退、空中分解	1	ベトナム戦争の停戦協定が成立
	4	八戸内燃機工業協業組合用地として2,520㎡を1,425万6,000円で青森県と売買契約する	2	円変動相場制へ移行
4	青森県金属材料試験所が青森県機械金属試験所と改称	3	馬淵大橋（国道45号線バイパス）開通	
	八戸鉄工所団地工場増設工事完成	4	八戸～苫小牧間カーフェリー就航	
	全国工場団地協同組合連合会東北北海道ブロック協議会総会を八戸で開く			

年	月	八戸鉄工関連の出来事	月	一般社会のできごと	
昭和48年 (1973)	5	八戸鉄工協同組合総会で理事長に田村幸男氏、副理事長に祐川実氏、小野寺罔夫氏を選任 八戸水産加工団地協同組合設立	7	八戸シルバーランドオープン	
	6	八戸鉄工連合会総会で顧問制決定 青森県鉄工連協同組合で全国鉄構工業連合会参加を決定	10	第4次中東戦争、石油ショックおこる 市長に秋山卓二郎氏再選	
	7	東北鉄構協議会設立 八戸内燃機工業協業組合工場着工 古川寅蔵氏海事功労で運輸大臣表彰を受ける 産業人物故者慰霊聖観音像除幕式			
	9	八戸下請振興協会設立(会長に中里信男氏選任)			
	11	八戸内燃機工業協業組合共同工場完成(事務所は10月完成)			
	昭和49年 (1974)	2	青森県鉄工連協同組合で鋼材不足、異常高騰のため工事単価のスライド制を県、市町村に要望	1	八戸小学校が全焼
3		八戸金属の鋼板加工センター完成 東京鉄鋼八戸工場起工式	4	八戸港特定港湾に指定	
4		八戸中小企業協同組合設立	5	八戸港開港35周年記念式典	
6		青森県鉄工連協同組合でトラッククレーン8t、10tの処分を決定 国鉄八戸線高架工事開始	9	原子力船「むつ」放射線漏れ事故	
7		八戸鉄工団地協同組合で情報交換などのためプラント系6社で金曜会を組織 八戸鉄工団地協同組合安全委員会委員長鈴木永治氏が安全功労で青森労働基準局長表彰を受ける 小森卯之助氏海事功労で運輸大臣表彰を受ける	11	フォード米大統領来日	
10		青森県中小企業振興公社発足			
11		青森県鉄工連協同組合、青森県中小企業振興公社が下請振興で懇談会開催 八戸鉄工団地協同組合が共同福祉施設運営で労働大臣表彰を受ける 斉藤商事本社完成 青森県新産業都市センター完成			
12		青森県鉄工連協同組合、中小企業救済特別融資枠を確保、利用希望を受付ける			
昭和50年 (1975)		2	青森県鉄工連協同組合で青森県に対し不況対策として公共工事の繰り上げ発注、橋梁工事の地元発注などを陳情	2	県知事に竹内俊吉氏4選
		3	八戸鉄工連合会創立15周年記念従業員および家族慰安大会開催(2日、体育館) 八戸地区大手工場の減産続く	3	山陽新幹線全線開通 市営第3漁市場完成
		5	八戸鉄工協同組合に共同受注委員会を設置 東北建機工業団地工場に全面移転	5	八戸市公会堂開館
		6	八戸鉄工協同組合で官公需適格組合認可を仙台通産局に申請 八戸鋼業全従業員に解雇通告	7	沖縄海洋博覧会開催 市は官民一体の大きな野犬退治を行なう。69頭捕獲
	7	鉄工青年経営者6人による勉強会目的の八戸青進会結成			
	8	祐川鑄造工業所の鑄物工場火災 花巻で東北鉄構協議会、全国鉄構工業連合会共催による不況突破大会開催 三菱製紙八戸工場増設抄紙機完成			
	9	安ヶ平鉄工で鉄パイプ製の稲穂架を製造			
	11	県の建設業許可を得て八戸鉄工協同組合、再び仙台通産局に官公需適格組合の認可を申請			
	昭和51年 (1976)	1	八戸鉄工団地協同組合は昭和50年度中小企業雇用管理近代化対策モデル集団の指定を受け、体育館建設など近代化計画を青森県に提出	2	ロッキード事件おこる
3		日本高周波鋼業八戸工場で解雇27名を含む80名の配転交渉を労組と始める 八戸鉄工協同組合の官公需適格組合が認可され、大型工事受注対策本部(本部長 田村幸男氏)、共同受注委員会(委員長 祐川実氏)が組織される	7	はちのへハイツが完成	
			9	周恩来中国首相、毛沢東主席死去 八戸大橋が開通(白銀～八太郎地区を陸上部で結ぶ)	

年	月	八戸鉄工関連の出来事	月	一般社会のできごと
昭和51年 (1976)	5	高砂鉄工所倒産 八戸内燃機工業協業組合の新潟鉄工サービスステーション決定	10	青和銀行と弘前相互銀行が合併し“みちのく銀行”としてスタート
	8	八戸鉄工建設洗車場の排水処理施設完成	12	福田内閣発足
	9	八戸鉄工協同組合の官公需適格組合第1号として青森県工業用水道管理事務所の仕事約40万円決定		
	10	八戸内燃機工業協業組合の機械工場完成 小森卯之助氏死去		
	12	八戸機械製作所で簡易ハウス発売		
昭和52年 (1977)	2	八戸鉄工連合会で技術開発懇談会を開催	1	第32回冬季スケート国体が常陸宮ご夫妻を迎え開幕(名称は“あすなる国体”、同一県内で冬季・夏季・秋季国体の開催は史上初)
	4	八戸鉄工協同組合技術開発委員会(委員長 小野寺罔夫氏)発足、新製品開発事業スタート。参加事業所1口10万円の開発運営資金を出す、25社計350万円が集まる 国鉄八戸線高架完成し開通	4	国鉄八戸線高架開通
	5	青森県鉄工連協同組合で適正単価受注のため受注対策委員会(委員長 高橋弘一氏)を組織 八戸鉄工協同組合で副理事長3人制として阿部甚一氏を選任	5	第二工業港5万トン岸壁完成
	6	八戸鉄工協同組合技術開発委員会で機械部品洗浄機を開発	7	十三日町・十六日町の再開発商業ビルの核店舗がイトーヨーカ堂と発表
	7	青森県鉄工連協同組合で自主資格認定制度事業に着手 八戸鉄工協同組合事務局職員の資金不正流用など発覚。職員の依願退職を受け事務局長に藤田弘氏を採用	8	八太郎大橋開通
	8	住友セメント八戸工場閉鎖、現地法人化を同社労組に説明	10	八戸市長に秋山阜二郎氏3選
	8	祐川鑄造工業所有機自硬性砂処理プラント設置	11	中央卸売市場開設
	9	青森県、八戸市、大手工場、産業団体など八戸商工会議所で工業振興懇談会を開く		
	10	八戸鉄工連合会で安全功労事業所表彰規定をつくる 八戸鉄工団地など地元鉄工業界と三井金属エンジニアリングのジョイントベンチャー構想出る 東北砂鉄鋼業八戸製鋼所閉鎖		
	11	八戸鉄工協同組合で再建のため特別委員会(委員長 祐川実氏)を設置、具体策の検討に着手 青森県鉄工連協同組合第1回目の自主資格認定工場決定 商工中金八戸出張所移転 橋本(十)鉄工所倒産 磐城産業自主廃業		
	12	八戸鉄工協同組合技術開発委員会で青森市に消雪プラントを設置、実験を開始		
	昭和53年 (1978)	1	八戸鉄工協同組合再建計画スタート	8
4		中小企業倒産防止共済制度スタート 西浦工業自主廃業に伴う債権者会議開かれる 八戸鉄工連労働災害防止対策協議会で第1回安全優良事業所表彰	9	原子力船「むつ」が4年ぶり離岸試運転へ
5		八戸鉄工協同組合で特別賦課金負担をめぐり11社脱退。倒産、自主廃業を含め14社減となり組合員55社となる 八戸鉄工協同組合初の橋梁工事として風張橋の受注決定	10	八戸スカイビル着工 八戸市総合健診センター開業
6		青森県機械金属試験所増改築工事に着手	11	八戸市が特定不況地域に内定
8		八戸鉄工団地の共同福祉施設着工	12	第2次オイルショック 大平内閣発足
10		八戸鉄工協同組合活路開拓調査指導事業実施組合の指定を受け橋梁部門への進出についての調査研究に着手 八戸内燃機工業協業組合で円筒研削盤導入 北東機械興業新社屋完成、社名をほくとうに変更 工業開発指導員、八戸を視察 八戸セメントNSP化工事に着手 三浦鉄工建設秋田工場完成		
12		八戸鉄工協同組合活路開拓調査委員会発足 青森県機械金属試験所完成		

年	月	八戸鉄工関連の出来事	月	一般社会のできごと
昭和54年 (1979)	1	八戸鉄工団地の八戸共同福祉センター完成。祝賀会を兼ね八戸鉄工連 合会新年会開催	2	「えんぶり」国の重要無形民俗文化財に指定
	2	八戸鉄工協同組合技術顧問に八戸工業大学助教授 杉田修一氏を委嘱 八戸鉄工連合会20周年記念従業員家族慰安会開催		新県知事に北村正哉氏当選
		八戸内燃機工業協業組合で青森に事務所開設	3	スリーマイル島原発事故
	3	日商は八戸商工会議所にも倒産防止相談室の開設を決める 溶接検査のため放射線検査機の導入事業所増加する	5	市制50周年記念式典（市民の木イチイ、 市民の鳥ウミネコ制定）
	4	八戸鉄工団地協同組合の金曜会に団地外から3社が加入する 八戸鉄工協同組合技術開発委員会で研究中の降雪報知器注目される 青森県機械金属試験所協議会設立。会長に中里信男氏を選任 共和工機創立15周年パーティー開催	6	八戸～室蘭間カーフェリー就航開始 東京サミット開催
	5	日本溶接協会青森県支部、八戸鉄工団地内の八戸共同福祉センター内 に移転 八戸鉄工団地協同組合の金曜会に2社加入9社となる 八戸鉄工連合会総会で安全功労事業所として2社を表彰	11	根城大橋開通
	6	八戸自動車整備工業協同組合で名称を八戸自動車整備団地協同組合 に変更 青森県中小企業診断協会会長に中里信男氏選任される 橋本巖鉄工所行詰り小野寺内燃機工業所が事業継承		
	7	八戸内燃機工業協業組合鯨ヶ沢出張所開設 橋本友吉氏死去		
	8	八戸鉄工協同組合が全国中小企業団体中央会の官公需業種別受注対 策事業指導対象組合の指定を受ける		
	9	共和工機行き詰まる		
	10	八戸鉄工連合会で桔梗野工業団地分譲説明会を開く 通産省で石油国家備蓄基地第1号としてむつ小川原を決定発表		
	11	八戸鉄工協同組合施工の是川橋（風張橋）完成 破産した八戸鋼業北沼工場が八洋鋼業で再出発 むつ小川原石油国家備蓄基地土地造成の起工式		
12	八戸地区造船業と関連業界診断の報告書まとまる 青森県鉄工連協同組合で青森県議会にむつ小川原石油国家備蓄基地 関連工事の地元優先発注を陳情 船木鉄工所行き詰まり小野寺内燃機工業が事業承継 古川寅蔵氏死去			
昭和55年 (1980)	1	八戸鉄工連労働災害防止対策協議会会長に田島幸明（重雄）氏を選任 高橋製作所で団地工場に全面移転 菅原鉄工所が社名を菅原ディーゼルに変更 八戸鉄工協同組合の出資金増資して1,022万円となる	4	イトーヨーカ堂八戸店オープン 八戸植物公園開園
	2	八戸鉄工協同組合むつ小川原開発工事共同受注委員会（委員長 相内 新造氏）を設置 青森県鉄工連協同組合で六ヶ所村平沼にむつ小川原対策用地として 3,200㎡を1,312万円で取得する	9	イラン・イラク戦争おこる
	3	八戸商工会議所にむつ小川原開発対策協議会設立	11	みちのく有料道路完成 市庁新館（現在の本館）完成
	4	八戸鉄工協同組合で桔梗野工業団地進出希望調査、15社で47,190㎡の 希望まとまる 青森県鉄工連協同組合で八戸鉄工協同組合を受注窓口としたむつ小川 原開発工事の共同受注組織を確立、関係方面へのタンク建設工事への 陳情開始 八戸鉄工協同組合技術開発委員会の降雪報知器試作品完成		
	5	八戸鉄工協同組合で桔梗野工業団地移転希望組合員の組織化による 集団化の方向を決める		
	6	協同組合八戸金属工業センター設立発起人会 協同組合八戸金属工業センター設立総会開催。理事長 祐川実氏（参加22社） 造船関連の4組合で中小造船関連業種協調型の構造改善事業実施を 決める。8月に運輸大臣認可となる。		

年	月	八戸鉄工関連の出来事	月	一般社会のできごと
昭和55年 (1980)	7	青森県議会で通産省などに溶接技術資格の一本化を陳情 三浦鉄工建設重量物加工工場完成 有馬三己氏死去		
	8	むつ小川原石油国家備蓄基地A工区のタンクメーカー6社から八戸鉄工協同組合に地元で可能な分野につき発注要綱が示され両者合意 新建設工業倒産で地元業界にも影響出る		
	9	高橋製作所製缶工場増設完成 トーマンなどの八戸穀物飼料基地建設で関係者、青森県と進出調印		
	10	桔梗野金属工業協業組合設立総会開催、理事長 祐川実氏（参加は鋳物関連5社）		
	11	協同組合八戸金属工業センターで建設、総務、金融の3委員会設置 商工中金八戸出張所支店に昇格		
	12	むつ小川原石油国家備蓄基地B工区タンクメーカー決定 青森県官公需適格組合協議会設立		
昭和56年 (1981)	1	八戸鉄工団地協同組合に青年部発足 八戸鉄工協同組合、むつ小川原石油国家備蓄基地A工区1次工事3億7,980万円で受注決定 青森県銑鉄鋳物工業組合解散 東北金属検査業務を開始	4	八戸大学開学
	2	桔梗野金属工業協業組合の高度化計画本診断 協同組合八戸金属工業センター集団化計画本診断 八戸鉄工協同組合、むつ小川原石油国家備蓄基地A工区2次工事3億8,400万円の受注決定 弘前金属工業センターで名称を弘前金属工業団地協同組合に変更	9	東北縦貫自動車道(一戸～八戸間)着工
	3	八戸鉄工連労働災害防止対策協議会で危険予知訓練を実施 協同組合八戸金属工業センターで集団化計画確定	10	市長に秋山卓二郎氏4選
	4	八戸石灰鋳業社名を住金鋳業に変更 八戸穀物飼料基地起工式 中小造船関連協調型構造改善事業のうち八戸造船事業協同組合のぎ装岸壁完成 日本高周波鋼業は八戸工場を分離独立させ高周波鋳造の発足を決定 東京鉄鋼八戸工場で圧延工場建設に着手	12	福井謙一教授がノーベル化学賞受賞
	5	協同組合八戸金属工業センターと桔梗野金属工業協業組合の合同起工式 八戸鉄工協同組合、むつ小川原石油国家備蓄基地B工区10億5,768万円、C工区14億3,850万円の受注決定		
	6	八戸企業団地協同組合設立		
	7	八戸鉄工協同組合活路開拓調査指導事業実施組合の指定を受け溶融亜鉛メッキ部門への進出について調査研究に着手 青森県鉄工連協同組合十和田での総会後、むつ小川原石油国家備蓄基地建設現場視察会を実施		
	8	八戸鉄工協同組合が中小企業倒産防止共済制度加入促進貢献団体として中小企業事業団から感謝状を受ける 協同組合八戸金属工業センター組合会館と移転第1号の米内鉄工完成		
	9	青森県中小企業団体中央会創立25周年記念式典で優良組合として八戸鉄工協同組合が表彰される		
	11	桔梗野金属工業協業組合建設工事完了、祝賀会開催		
	12	青森県鉄工連協同組合のむつ小川原開発工事共同受注対策委員会に配管その他受注委員会を設置 八戸鉄工所団地工場増設工事完成 協同組合八戸金属工業センター組合員の米内鉄工、内山鉄工、光洋鉄工の工場完成		
	昭和57年 (1982)	1	八戸鉄工協同組合活路開拓調査指導事業で溶融亜鉛メッキの事業化は将来性ありとの結論がでる	1
2		八戸鉄工協同組合創立20周年記念行事実行委員会第1回委員会開催。委員長 小野寺罔夫氏 八戸鉄工協同組合の官公需適格組合引続き認可される	2	更上閣が閉館 八戸テレビ放送設立
3		共同出資の北日本鍍金株式会社設立総会を開催し、代表取締役阿部甚一氏を選任	3	フォークランド紛争おこる(英国-アルゼンチン)

年	月	八戸鉄工関連の出来事	月	一般社会のできごと	
昭和57年 (1982)	4	全国鉄構工業連合会の認定工場が建設大臣認定となる	6	東北新幹線が開通(大宮～盛岡)	
	5	八戸鉄工協同組合、八戸商工会議所、青森県中小企業振興公社でサントリー本社に青森工場の建設工事地元発注を要請 活路開拓ビジョン実現化事業実施決定	10	八戸市斎場完成	
	6	青森県鉄工連協同組合総会席上で、鋼構造物建設工事資格の大臣認定書を伝達する	11	上越新幹線が開通 八太郎地区に飼料穀物コンビナート完成	
	7	中里信男氏の「中小企業経営の手引き」出版記念祝賀会開催 種市鉄工所(青森市)自主廃業決定		国鉄津軽海峡線起工式(青函トンネル)	
	8	八戸内燃機工業協業組合で北日本機械金属工業協業組合に名称変更を決定 青森鉄工業協同組合事務所を青森市大字原別字下海原19-1に移転			
	9	八戸鉄工協同組合で定例会をかねて、むつ小川原石油国家備蓄基地視察会開催 八戸機械製作所代表取締役役に亀山哲氏就任 大山鉄工所行詰まる			
	10	第1回活路開拓ビジョン実現化事業委員会開催 北日本鍍金起工式 田村義三郎氏死去			
		同年に協同組合八戸金属工業センター組合員の中道鉄工所、日昭工業、船越エンジニア工業、高砂重工の工場完成			
	12	八戸鉄工協同組合で八戸商工会議所、青森県中小企業振興公社の協力を得て石油基地建設後のメンテナンス実態調査を実施			
	昭和58年 (1983)	2	八戸鉄工協同組合20周年式典、鉄工連従業員・家族慰安会「角川博ショー」を開催	2	県知事に北村正武氏再選
		5	八戸鉄工協同組合通常総会役員改選において、理事長に田村幸男氏、副理事長に祐川実氏、小野寺罔夫氏選任	7	八戸市博物館開館
		7	八戸鉄工協同組合で2部会発足、鉄骨製缶部会(部会長 田中五郎氏)、機械部会(部会長 小野寺罔夫氏)	8	むつ小川原石油備蓄基地オイルイン開始
10		空席となっていた八戸鉄工団地協同組合副理事長に田村幸男氏が就任	9	むつ市閩根浜漁協、原船「むつ」新母港に漁業補償協定に調印	
11		八戸鉄工協同組合で、福井県敦賀原子力発電所の視察会を実施 中小企業基本法20周年に際し、八戸鉄工協同組合が優良組合として中小企業長官より表彰を受ける	11	大韓航空機撃墜事件	
昭和59年 (1984)	2	八戸鉄工連合会従業員・家族慰安会を開催	12	青森陸運事務所八戸支所開所「八戸」ナンバー誕生	
	4	むつ小川原メンテナンスを設立(むつ小川原石油備蓄基地のメンテナンス業務を担当)	5	新井田インドアリンク完成 新図書館開館	
	5	八戸鉄工協同組合通常総会 特定地域総合振興事業を決議(新商品開発事業イワシ魚体整列機の開発)	7	ロサンゼルスオリンピック開催 電事連、核燃料サイクル3施設の六ヶ所村立地を正式決定	
	7	八戸鉄工連合会第18回魚釣り大会開催			
	9	八戸鉄工連合会第22回野球大会を開催し八戸鉄工所優勝	12	国道45号線八戸北バイパス開通(暫定2車線)	
	12	田中五郎氏、青森県卓越技能者表彰受章祝賀会開催			
昭和60年 (1985)	2	八戸鉄工協同組合橋梁部会発足(部会長 三浦賢策氏)	3	つくば科学万博開催 八太郎トンネル完成で臨港道路全通 青函トンネル本坑貫通	
	4	八戸鉄工連合会従業員家族慰安会を開催			
	5	八戸銅板加工センター、前田鉄工営設、青森金属が倒産。多額のこげつきが発生する 八戸金属工業センター祐川実理事長辞任に伴い田島重雄氏が理事長に就任 八戸鉄工団地協同組合中里信男理事長が全国工場団地協同組合連合会常任理事に就任	4	NTT、JT発足 核燃5者協定書に調印、六ヶ所村に立地正式決定	
		八戸鉄工協同組合通常総会を開催し、理事長 田村幸男氏、副理事長 小野寺罔夫氏、田島重雄氏選任 田畑鑄造工業廃業	5	県新産事業団、桔梗野工業団地の地盤沈下で分譲用地を買い戻すハブニング 大間原子力発電所ATR実証炉計画決定	
	8	出川留蔵氏死去	9	根城ニュータウンの造成事業スタート	
	9	三晶鉄工所行詰まる		八戸地域高度技術振興センター設立	
	10	青森県中小企業団体中央会創立30周年記念式典で優良組合として八戸鉄工協同組合が表彰される	10	八戸水産会館完成 市長に秋山卓二郎氏5選	
	11	八戸鉄工協同組合臨時総会にて、貸付限度額の見直し(大幅減額)を決議(貸付金最高限度額は1,500万円まで)	12	六ヶ所村のむつ小川原国家石油備蓄基地完成	

年	月	八戸鉄工関連の出来事	月	一般社会のできごと
昭和61年 (1986)	1	八戸鉄工協同組合理事会開催、核燃サイクル施設建設への取り組みを決議	4	チェルノブイリ原発事故
	5	八戸鉄工団地協同組合新商品開発事業に取り組む 桔梗野工業団地の地盤沈下が深刻化する	5	和田寛食料(株)倒産
	7	小野寺罔夫氏海事功労で運輸大臣表彰を受ける	7	東北自動車道青森まで開通
	8	八戸鉄工連合会第24回野球大会開催	8	核燃用地造成起工式、核燃サイクル施設事業スタート
	10	八戸鉄工協同組合機械技術人材養成セミナーを開催	9	社会党委員長に土井たか子氏就任
昭和62年 (1987)	1	福田鉄工所行詰まる	2	県知事に北村正武氏3選
	3	共立化工機行詰まる 八戸鉄工建設社長 田畑一氏辞任に伴い、新社長に阿部甚一氏を就任	4	国鉄民営化なる JR
	5	八戸鉄工協同組合通常総会にて、理事長 田村幸男氏、副理事長 小野寺罔夫氏、田島重雄氏選任 北日本機械金属協業組合解散を決定	8	八戸市東体育館完成
	6	フランス原子力施設調査団が、ラ・アーグ再処理工場他視察	10	館鼻トンネル貫通
	10	八戸金属工業センター地盤沈下に係わる5社の工場移転工事	11	竹下内閣発足
	昭和63年 (1988)	7	青函博覧会が開催される(青森市、アスパム周辺)	1
8		六ヶ所村、ウラン濃縮工場に国の事業許可	3	青函トンネルの津軽海峡線開業(青函連絡船が80年の歴史に幕閉じる)
10		浅瀬石川ダムが完成となる。	7	青函トンネル開通記念博覧会開幕
平成元年 (1989)	1	八戸鉄工協同組合、出資金を1,500万円に増資	9	ソウルオリンピック開催
	3	八戸鉄工連合会従業員家族慰安会開催	11	米大統領にブッシュ当選 ポर्टアイランドの埋め立て許可
	5	八戸鉄工協同組合第27回通常総会を開催し、理事長 田村幸男氏、副理事長 小野寺罔夫氏、田島重雄氏、阿部甚一氏を選任、総務委員会設置(委員長 熊谷金哉氏)	1	昭和三十九年天皇崩御
	7	八戸鉄工連第27回野球大会開催、優勝八戸高等技術専門学校	4	消費税法施行
	9	中小企業等協同組合法施行40周年を記念して、八戸鉄工協同組合が優良組合として中小企業庁長官表彰を受ける。	3	八戸港開港50周年記念式典
	11	八戸市長選挙に於いて中里信男氏初当選 八戸鉄工団地協同組合 中里信男理事長、八戸市長当選により退任し、田村幸男理事長、副理事長に古戸良一氏を選任	5	市制施行60周年記念式典
平成2年 (1990)	12	八戸鉄工協同組合理事会にて、田村幸男理事長辞任、新理事長に田島重雄氏、副理事長に越村幸男氏を選任 中里信男新市長を囲む会員懇談会開催	9	東北縦貫自動車道八戸線が全通
	4	田中五郎氏、勲七等青色桐葉章受章	10	水産科学館「マリエント」完成
	5	八戸鉄工連合会第16回従業員家族慰安会 八戸鉄工団地協同組合 田村幸男理事長が全国工場団地協同組合連合会常任理事に就任 八戸鉄工協同組合第28回通常総会開催、中小企業人材確保推進事業等を承認	1	天皇家次男礼宮文仁親王、紀子様ご成婚(秋篠宮家を創設)
	6	村上工業所廃業	2	八戸市卸売場完成
	11	東洋重工業新工場落成披露パーティー開催	3	原船「むつ」出力上昇試験を再開16年ぶりに臨界達成
平成3年 (1991)	2	高砂善男氏死去	7	八戸商工会議所創立50周年式典
	5	八戸鉄工協同組合総会にて、理事長 田島重雄氏、副理事長 阿部甚一氏、越村幸男氏を選任	8	イラク軍がクウェートを侵攻
	6	日本溶接協会青森県支部創立30周年式典	11	八戸ショッピングセンターオープン(ラピア)
	7	田畑一氏死去	12	整備新幹線盛岡～青森間が平成3年度着工が正式決定
	10	八戸金属工業センター組合共同駐車場用地取得及び、工場の増設	1	中東湾岸戦争、多国籍軍イラクを攻撃
	11	田村幸男氏青森県褒章を受賞	2	県知事に北村正武氏4選
			7	ロシア共和国大統領にエリツィン当選
			9	大型の台風19号でリンゴ被害発生
			11	農林水産大臣に田名部匡省氏が就任 全国初の頭脳団地八戸ハイテクパーク完工

年	月	八戸鉄工関連の出来事	月	一般社会のできごと
平成4年 (1992)	1	八戸鉄工連合会新年会員大会及び若松寿治氏勲七等青色桐葉章、田村幸男氏青森県褒章受章祝賀会を開催	3	六ヶ所ウラン濃縮工場が本格操業開始
	4	青森県鋼販会が発足	7	バルセロナオリンピック開催
	5	北日本鍍金社長 阿部甚一氏辞任に伴い新社長に目澤啓介氏が就任	8	風張遺跡で日本最古のコメ出土
	7	八戸鉄工連合会第30回野球大会開催、東北真空技術優勝 日本原燃サービスと日本原燃産業が合併して日本原燃を設立、青森市に本社を移転	10	八戸インテリジェントプラザ完成
	10	八戸鉄工協同組合で部会を再編成し、鉄骨部会（部会長 古戸良一氏）と製缶部会（部会長 越村幸男氏）が発足 三浦建設工業本社工場（移転）完成祝賀会 八戸機械工業会が設立し、会長に小野寺罔夫氏を選任	11	アメリカ大統領にクリントン当選
平成5年 (1993)	1	八戸鉄工連合会新年祝賀会を開催し、田畑三郎氏、原田慶一氏が勲七等青色桐葉章、岩館昭雄氏の青森県卓越技能者知事表彰受章を祝う	1	釧路沖地震発生、八戸震度5
	3	八戸鉄工協同組合創立30周年記念式典、祝賀会を開催する	5	八戸港が東北初の外貨定期航路に
	5	八戸鉄工協同組合総会にて、理事長 田島重雄氏、副理事長 阿部甚一氏、越村幸男氏を選任 八戸鉄工団地協同組合 三浦賢策副理事長が退任し越村幸男副理事長が就任	7	米国ワシントン州フェデラルウェイ市と姉妹都市に調印
	6	八戸工業高等専門学校産業技術振興会（会長 吉田昌平氏）設立	10	中里信男氏八戸市長に再選される
	8	八戸北インター工業団地集団化準備会（座長 小野寺罔夫氏）発足	11	コンテナ船国際定期航路開設協定締結
平成6年 (1994)	1	船越朗氏死去	12	白神山地が世界自然遺産に登録
	4	むつ小川原メンテナンス創立10周年 田中五郎氏死去	1	八戸で積雪55cm、昭和12年観測開始以来の記録
	7	八戸鉄工団地協同組合に組合会館建設検討委員会を設置	8	東北初の東南アジアコンテナ定期航路開設
	10	八戸鉄工連合会第32回野球大会が秋晴れのもと長根野球場で開催され日本文明シャッターが優勝	10	史跡根城の広場完成
			12	東北新幹線・盛岡～八戸間のフル規格化着工決定 三陸はるか沖地震発生。八戸でマグニチュード7.5、震度6、死者2人、負傷者720人、被害件数10,385人、被害総額421億円
平成7年 (1995)	2	八戸鉄工連合会によるボウリング大会をワヤマボウルにて開催、競技終了後は、林みどり氏（林料理学園長）による講話及び表彰式を開催	2	県知事に木村守男氏初当選
	5	八戸鉄工協同組合総会において、理事長 田島重雄氏、副理事長 越村幸男氏、古戸良一氏を選任 八戸鉄工建設代表取締役 阿部甚一氏辞任に伴い、新代表取締役に阿部重雄氏就任	5	新幹線盛岡～八戸間フル規格建設着工
	6	八戸鉄工連合会総会を開催し、田村幸男会長を再任、副会長は田島重雄氏、三浦賢策氏、越村幸男氏、古戸良一氏を選任。業界の発展に尽力した小野寺罔夫氏、塚原寛氏、阿部甚一氏、神達也氏の労を讃え表彰	6	原子力船「むつ」26年の歴史に幕
			8	国務大臣環境庁長官に大島理森氏が就任
平成8年 (1996)	1	八戸鉄工連合会新年祝賀会を開催し、岩館昭雄氏の黄綬褒章受章を祝う	11	八戸港と米国タコマ港が経済貿易協定締結
	2	三浦賢策氏死去		
	10	第34回野球大会が秋晴れのもと長根野球場で開催され松本鉄工所が日本文明シャッターを6対4で振り切り初優勝	1	大型店主導による初の「元旦営業」始まる
	11	田島重雄氏労働大臣表彰受賞、工藤清一氏黄綬褒章受章	3	八戸港が国の輸入促進地域（FAZ）に指定
平成9年 (1997)	1	八戸鉄工連合会新年祝賀会を開催し、田島重雄氏の労働大臣表彰受賞並びに工藤清一氏の黄綬褒章を祝う	7	県が東通原発の着工を始まる 八戸貿易センター設立
	5	八戸鉄工団地協同組合 田村幸男理事長が全国工場団地協同組合連合会副会長に就任 八戸鉄工協同組合常総会において役員改選を行い、理事長 越村幸男氏、副理事長 古戸良一氏、熊谷金哉氏を選任	11	秋山阜二郎元市長名誉市民に
	7	八戸鉄工連合会第18回従業員家族慰安会を開催。約700名参加のもと、ものまね歌謡ショー等開催 八戸鉄工団地協同組合の創立30周年記念式典が挙行される	3	中国コンテナ定期航路開設
	9	田島重雄氏死去 八戸金属工業センター 田島重雄理事長辞任に伴い越村幸男氏が理事長に就任	4	ポートアイランド1期工事と連絡橋（シーガルブリッジ）供用開始
	11	八戸鉄工連合会第35回野球大会が行われ、決勝戦では松本鐵工所と東北真空技術が対戦。4対2で松本鐵工所が2年連続優勝を果たす	6	風張遺跡出土器、国の重要文化財に指定
	12	軽米鐵工所廃業	7	インターネットプロバイダー会社「(株)ハイネット」設立
			9	新市民病院完成
		10	中里信男氏八戸市長に3選	

年	月	八戸鉄工関連の出来事	月	一般社会のできごと
平成10年 (1998)	5	八戸鉄工連合会総会において、田村幸男会長を再任、副会長を三名とし古戸良一氏、越村幸男氏を再任、新たに小野寺泰博氏を選任し、労働災害防止対策協議会会長には吉田誠一氏が選任	2	市庁舎別館落成
		八戸鉄工協同組合総会において役員改選を行い、理事長 越村幸男氏、副理事長 田島幹二氏、田中勝行氏、三浦隆宏氏を選任	3	沼館地区第1期商業施設「ピアドゥ」オープン
	8	安ヶ平重吉氏死去	8	八戸港FAZの拠点施設。八戸港貿易センター、八戸港国際物流ターミナル完成
平成11年 (1999)	10	八戸鉄工連合会第36回野球大会が開催され松本鐵工所と船越エンジニア工業による決勝戦は延長戦の末、3対2で松本鐵工所が3連覇を果たす	10	八戸港に韓国コンテナ定期航路開設
	5	八戸鉄工団地協同組合定時総会において越村幸男副理事長退任、田中健二氏が副理事長に就任	1	県知事に木村守男氏再選
		八戸鉄工協同組合常総会において役員改選を行い、理事長 越村幸男氏、副理事長 古戸良一氏、熊谷金哉氏、田島幹二氏を選任	3	コミュニティ放送BeFMの開局
平成12年 (2000)	6	八戸鉄工連合会並びに八戸機械工業会と共催による工業系学校との懇談会を開催	4	本県初の東通原発、東北電力1号機着工
	10	第37回野球大会が行われ、決勝戦では松本鐵工所と住吉工業が対戦。14対4で松本鐵工所が4連覇を達成	4	ワダカン食品工業が破産
		第38回野球大会が行われ、松本鐵工所が5連覇を達成	9	横浜港と結ぶ内航コンテナ定期航路開設
平成13年 (2001)	11	八戸鉄工協同組合で東北新幹線八戸駅舎鉄骨工事受注に成功	10	八戸・久慈自動車道八戸南環状道路着工
		小野寺罔夫氏死去	12	八戸港水揚げ21年ぶり日本一
	5	八戸鉄工連合会定時総会において、田村幸男会長を再任、副会長には小野寺泰博氏を再任、新たに田島幹二氏、田中勝行氏を選任したほか、新理事には田中健二氏を選任。席上、中里信男八戸市長に対し、八戸駅舎整備基金の寄付金200万円を贈呈	7	八戸港とマニラ港との姉妹港提携調印
平成14年 (2002)	10	八戸鉄工連合会第39回野球大会が行われ、決勝戦では3対1のアルバック東北リードで迎えた最終回に松本鐵工所が逆転し6連覇を達成	9	八戸市・階上町・福地村・青森南郷の4農協が合併「八戸広域農協」発足
		八戸災害防止研究会設立30周年記念式典が行われる	11	三内丸山遺跡が国の特別史跡に指定
	12	鉄工関連団体共催による中里信男氏感謝と慰労の集いが行われる	4	八戸港多目的ターミナル完成
平成15年 (2003)	2	八戸鉄工連合会ボウリング大会が開催され、14チーム参加の結果、団体の部は三浦建設工業が優勝	10	県内大手スーパー「亀屋みなみチェーン」が民事再生法の適用を申請して倒産。負債額は240億円で県内最大の大型倒産
	5	八戸金属工業センター 越村幸男理事長辞任に伴い、船越純一氏が理事長に就任		八戸市長に中村寿文氏初当選
	9	八戸機械製作所倒産	3	田子町と岩手県二戸市にまたがる産業廃棄物が67万平方メートルと国内最大規模であることが明らかに
平成15年 (2003)	10	東洋重工業が廃業	5	JR東日本は東北新幹線の八戸駅開業日を12月1日に決定。愛称は「はやて」
		八戸鉄工連合会第40回野球大会が行われ5チームが参加し、松本鐵工所が優勝。7連覇を達成し有終の美を飾る。この大会をもって野球大会は閉幕	7	ITER(国際熱核融合実験炉)の国内候補が六ヶ所村とすることを閣議決定
	11	中里信男氏勲三等瑞宝章を受章	7	東北縦貫自動車道八戸ジャンクション～八戸北インターチェンジ間が開通
平成15年 (2003)	1	八戸市・八戸商工会議所主催により、中里信男前八戸市長の叙勲受章(勲三等瑞宝章)を讃える祝賀会が開催される	8	八戸漁連とはちのへ漁協が民事再生法を申請
	2	八戸鉄工連合会ボウリング大会が開催され、20チーム参加の結果、団体の部は八戸鉄工所が優勝	9	農林水産大臣に大島理森氏が就任
	4	祐川鑄造工業所行き詰まる	11	屋台村みろく横丁開業
平成15年 (2003)	5	下斗米鉄工建設行き詰まる	12	東北新幹線八戸駅開業
	5	八戸鉄工建設新社長に押田進武氏就任	1	八戸屋台村「みろく横丁」全面オープン、固定式では日本一の規模
		北日本鍍金新社長に古戸良一氏就任	2	第5回青森アジア冬季大会が開幕
平成15年 (2003)	10	八戸鉄工協同組合総会において、理事長 越村幸男氏、副理事長 田島幹二氏、田中勝行氏、三浦隆宏氏を再任	4	イトーヨーカドー八戸店閉店
	10	青森原燃メンテナンス受注推進協議会が発足し会長に田村幸男氏を選任	4	八戸地域合併法定協議会発足
	11	祐川実氏死去	6	八戸港、リサイクルポートに正式決定
平成15年 (2003)			6	木村守男前知事辞職に伴う知事選で三村申吾氏が初当選
			10	世増ダム竣工
				総合静脈物流拠点港(リサイクルポート)指定

年	月	八戸鉄工関連の出来事	月	一般社会のできごと
平成16年 (2004)	2	八戸鉄工連合会ボウリング大会が開催され、19チームが参加し、団体の部は三浦建設工業が優勝	2	八戸三社大祭の山車行事が国重要無形民俗文化財に指定
	4	むつ小川原メンテナンス創立20周年		
	5	八戸鉄工協同組合総会において、越村幸男氏が任期途中で辞任届けを提出。新理事長に田島幹二氏を選任し、副理事長に三浦隆宏氏、田中勝行氏、田中健二氏を選任 八戸鉄工連合会定時総会において任期満了に伴う役員改選を行い、田村幸男会長を顧問に、新会長に古戸良一氏を選任、副会長は3名を再任。労働災害防止対策協議会会長には小野寺泰博氏を選任 八戸機械工業会総会において会長に小野寺泰博氏が就任	8	アテネオリンピック、レスリング競技で伊調姉妹がメダル獲得
	11	八戸鉄工連合会野球大会に代わるレクリエーション事業として、第1回パークゴルフ大会が行われた	10	八戸市・南郷村と合併調印
平成17年 (2005)	1	八戸鉄工連労働災害防止対策協議会による労働安全大会が開催され、「じん肺予防の徹底」を呼びかける	1	東通原発1号機が臨界、東通村に「原子の灯」ともる
	2	八戸鉄工連合会ボウリング大会が開催され、16チームが参加の結果、団体の部は八戸鉄工所が優勝	3	八戸・久慈自動車道「八戸南環状線」暫定開通
	5	八戸鉄工連合会定時総会において、前会長で田村幸男顧問に感謝状と記念品を贈呈		八戸市と南郷村が合併し「新生・八戸市」に
	10	八戸鉄工連合会パークゴルフ大会が行われ、秋晴れのもと多くの参加者により親睦交流が図られる	10	小林真氏八戸市長に初当選
平成18年 (2006)	2	八戸鉄工連合会ボウリング大会が開催され、団体の部は八戸鉄工所が2年連続優勝	12	東通原発1号機が営業運転開始
	10	八戸鉄工連合会パークゴルフ大会が行われ、秋晴れのもと多くの参加者により親睦交流が図られた	4	史跡根城の広場が日本の100名城に認定
	11	田村幸男氏旭日双光章を受章	7	「循環型都市」を宣言
	12	八戸商工会議所主催により田村幸男氏の叙勲褒章受章を讃える祝賀会が開催された		
平成19年 (2007)	1	八戸鉄工連合会新年祝賀会を開催し、田村幸男顧問の叙勲褒章受章を讃える	4	グレットタワーみなとオープン
	2	八戸鉄工連合会ボウリング大会が開催され、21チームが参加し、団体の部は八戸鉄工所が3年連続優勝	6	八戸・久慈自動車道「八戸南道路」開通知事選で三村申吾氏再選
	3	米内鉄工行き詰まる	10	株式会社まちづくり八戸発足
	5	八戸鉄工連労働災害防止対策協議会が中央労働災害防止協会のたんぼほ計画の補助を受け3ヶ年の関連事業を開始		郵政民営化で県内362店舗が業務開始
	10	八戸鉄工連合会パークゴルフ大会が行われ、多くの参加者により親睦交流が図られた 三浦建設工業創業90周年記念式典・祝賀会開かれる		東京の不動産会社が旧長崎屋ビルを取得
11	八戸鉄工協同組合創立45年親睦ゴルフ大会を開催 中里信男氏八戸市名誉市民、越村幸男氏八戸市功労者表彰を受ける	11	大平洋金属で電気炉爆発3人死亡	
平成20年 (2008)	1	八戸市・八戸商工会議所主催による中里信男氏名誉市民受賞を祝う会が開催される	5	八戸信用金庫と十和田信用金庫が合併して新生「八戸信用金庫」が発足
	2	八戸鉄工連合会ボウリング大会が開催され、30チームが参加し、団体の部は東北三吉工業が優勝		北京パラリンピック代表に男子の東選手と女子の坂本選手が選ばれる
	5	八戸金属工業センター総会において理事長に小川洋成氏就任 八戸鉄工協同組合総会において、理事長 田島幹二氏、副理事長 田中勝行氏、三浦隆宏氏を再任		大間原発が本格着工
	10	八戸鉄工連合会パークゴルフ大会が行われ、53名の参加者のもと親睦交流が図られた	6	南郷文化ホール完成
平成21年 (2009)	2	八戸鉄工連合会ボウリング大会が開催され、団体の部は八戸鉄工所が優勝	8	北京オリンピックレスリング競技で伊調姉妹がメダル獲得
	4	むつ小川原メンテナンス創立25周年	10	八戸拠点のアイスホッケーチーム設立
	5	熊谷金哉氏死去		
	10	パークゴルフ大会が行われ、49名が参加し親睦交流が図られた	1	坂牛地区の導水管から漏水、八戸・三戸・南部・階上・五戸・おいらせ・六戸、7市町が断水
	11	北日本鍍金新社長 富田章二氏就任 神達也氏死去		アンデス電気が破たん 第64回国民体育大会冬季大会スケート・アイスホッケー競技会開催
			3	八戸市民病院を暫定拠点とするドクターヘリが運航をスタート

年	月	八戸鉄工関連の出来事	月	一般社会のできごと
平成21年 (2009)			4	シンフォニープラザ沼館オープン 市中心市街地地域観光交流施設着工 観光庁は八戸など八市町を広域観光圏に認定
			5	八戸市市制施行80周年記念式典
			6	八戸港に就航する内航フィーダーコンテナ定期航路について京浜3港（東京港・横浜港・川崎港）と協定
			7	合掌土偶が国宝に正式に決定
			10	八戸市長に小林真氏再選
			11	八戸・あおり・下北の3信金の合併により青い森信用金庫が発足
平成22年 (2010)	1	田中喜一氏死去	1	新日本石油と県、八戸市は八戸港LNG基地立地協定書に調印
	3	八戸鉄工連合会ボウリング大会が開催され、初出場した共同シャーリングが優勝	3	チリ大地震で本県など太平洋各地に大津波警報。八戸で91cmの津波を観測
	5	八戸鉄工連合会総会において、古戸良一氏を顧問に、田中健二氏を新会長に選任。 八戸鉄工団地協同組合総会にて田村幸男理事長が退任し、田中健二副理事長が理事長に、副理事長に上柿富久夫氏再任、新副理事長に安ヶ平征司氏が就任		第66回国民体育大会冬季大会スケート・アイスホッケー競技会を八戸主会場で開催決定 ハサップ対応型魚市場着工
	6	北日本鍍金新社長に大志民稔氏が就任	5	都市計画道路3・4・12号沼館～百石線の沼館大橋が開通
	7	八戸鉄工連合会創立50周年記念事業実施に向け、実行委員会を設置し、検討を始める	6	東北新幹線の全線開業日を12月4日、新型新幹線の愛称は「はやぶさ」と発表する
	10	八戸鉄工連合会創立50周年記念大会としてパークゴルフ大会が行われ、多くの参加者らがプレイを楽しむ	6	北インター工業団地にスズキが納車整備施設センターの建設着工
			7	八戸市中心街（番町）に定住促進マンション着工
平成23年 (2011)	3	八戸鉄工連合会創立50周年記念ボウリング大会開催日当日に東日本大震災が発生し、ボウリング大会は中止	8	八戸・青森両港が国土交通省から重点港湾に選定される
	6	延期された八戸鉄工連合会創立50周年記念ボウリング大会は30チームの参加により開催される	12	東北新幹線全線開業
	10	八戸鉄工連合会創立50周年記念式典・祝賀会が開催され、中里信男顧問等への功労賞贈呈のほか、記念事業の一環として、八戸消防署へ大正後期の纏と年表図が寄贈される 八戸鉄工連合会創立50周年記念誌「八戸鉄工の歩み」発刊される	2	八戸ポータルミュージアムはっち開館
			3	東日本大震災が発生。M9.0の国内過去最大の大地震となり、八戸市内でも沿岸部を中心に深刻な被害
			7	八戸市埋蔵文化センター是川縄文館開館



**八戸鉄工連合会
会員事業所名簿**

有限会社 赤坂鉄工所

所在地 〒031-0833 青森県八戸市大字大久保字町道12-1

電話 0178-33-3911 FAX 0178-33-3917

資本金 1,000万円 従業員数 6名

代表者 設立
代表取締役 赤坂 貴博 昭和56年1月17日

事業内容
建築鉄骨・製缶・施設工事・諸機械製作修理
ステンレス工事・ステンレス製作金物

E-mail yu-akatetsu@yellow.plala.or.jp

株式会社 浅利研究所



所在地 〒031-0812 青森県八戸市湊町大沢46-10

電話 0178-33-8920 FAX 0178-34-6776

資本金 1,000万円 従業員数 19名

代表者 設立
代表取締役 浅利 研 昭和50年4月1日

事業内容
○機械開発部(所在地:八戸市北インター工業団地三丁目2-84)
電話 0178-51-2323 FAX 0178-51-2324
自動・省力機械の企画設計製作、コンベアー等の搬送機的设计製作、及び部品の精密加工
○釣具部(所在地:八戸市新湊一丁目11-3)
電話 0178-33-0358
いか釣具の製造・販売

E-mail asarimec@jomon.ne.jp

株式会社 有馬動熱工業所



所在地 〒031-0801 青森県八戸市江陽一丁目29-12

電話 0178-43-1614 FAX 0178-43-1613

資本金 1,000万円 従業員数 18名

代表者 設立
代表取締役社長 家口 和夫 昭和35年6月

事業内容
ボイラー総合サービス(設置、メンテナンス、薬品販売等)、配管設置(一般、サニタリー他)、タンク等製造、食品冷却機(販売・メンテナンス等)、その他
八戸の地にてボイラーの総合メンテナンスを始め51年、確かな技術で、特に熱水、蒸気関係の設備、配管についての配置設計、設置、保守からその後のメンテナンスまで得意としております。

URL <http://www.arimadounetsu.co.jp/>
E-mail arima001@deluxe.ocn.ne.jp

アルバック東北株式会社

所在地 〒039-2245 青森県八戸市北インター工業団地六丁目1-16

電話 0178-28-7693 FAX 0178-28-7965

資本金 4億9,800万円 従業員数 585名

代表者 設立
代表取締役社長 小野 信一 昭和62年1月5日

事業内容
ディスプレイ・電子部品製造装置、半導体製造装置、一般産業用真空機器、太陽電池向け製造装置、薄膜用電子材料(スパッタリングターゲット)、高機能材料の製造

URL <http://www.ulvac-tohoku.com>
E-mail ホームページよりお送り下さい。

株式会社 稲村鉄工所



所在地 〒039-0201 青森県三戸郡田子町大字田子字下田子下モ平30

電話 0179-32-3640 FAX 0179-32-4550

資本金 1,000万円 従業員数 8名

代表者 設立
代表取締役 稲村 康夫 昭和25年10月1日

事業内容
弊社では付加価値のある製品加工を目指して鉄骨製品は大小を問わず手掛けております。短納期のもの、加工量の多い工事、Hグレード仕様にも対応可能です。機械加工品、部品を含む製品も手掛け、油圧装置を用いた機械設備として組立調整まで実施致しております。

URL <http://www.inamura-tekkousho.com/>
E-mail y.inamura.co@taupe.plala.or.jp

有限会社 岩館鉄工

所在地 〒031-0802 青森県八戸市小中野四丁目1-18

電話 0178-28-3522 FAX 0178-29-3767

資本金 800万円 従業員数 8名

代表者 設立
代表取締役 岩館 一弘 昭和43年8月1日

事業内容
各種 鋼構造物製作、取付工事

E-mail iwadatetekkou@nifty.com

岩谷組 有限会社

所在地	〒039-1101 青森県八戸市大字尻内町渡ノ葉27-1		
電話	0178-27-0617	FAX	0178-27-0516
資本金	500万円	従業員数	30名
代表者	設立		
代表取締役	岩谷 浩	昭和43年1月1日	
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・とび、土工、工事業（足場工事一式、土木工事一式） ・鋼構造物工事業（鉄骨工事一式、橋梁架設工事） ・機械器具、設置工事業（重量機械運搬据付、各種プラント工事） ・クレーンリース業 ・産業廃棄物中間処理業（コンクリート、アスファルトくず） 		
E-mail iwayas@jomon.ne.jp			

株式会社 植松商会 八戸営業所



所在地	〒039-1121 青森県八戸市卸センター2丁目6-26		
電話	0178-28-6711	FAX	0178-28-6713
資本金	101,755万円	従業員数	91名
代表者	設立		
代表取締役社長	植松誠一郎	昭和30年6月9日	
事業内容	<p>お客様（各種工場）に工具や機械を提供する「直需機械工具商社」です。マニシングセンター・旋盤等の工作機械をはじめとし、ドリルやノギス等の工具、モーターや油・空圧機器等の産機、ベアリングやチェーン等の伝導機器を提供しています。また、最近では特に需要の高い環境関連機器も多数取り揃えています。</p> <p>八戸営業所所長 村岡幸雄 本社／〒984-8680 宮城県仙台市若林区卸町三丁目7-5 TEL.022-232-5171 FAX.022-284-3801 URL http://www.uem-net.co.jp</p>		

有限会社 栄進工業



所在地	〒039-2241 青森県八戸市大字市川町字くご谷地64-3		
電話	0178-20-1100	FAX	0178-20-3355
資本金	300万円	従業員数	32名
代表者	設立		
代表取締役	櫻井 研司	昭和58年5月1日	
事業内容	<p>管工事業、鋼構造物工事業、機械器具設置工事業、土木工事業、建築工事業、大工工事業、とび、土工工事業、石工事業、屋根工事業、タイル・れんが・ブロック工事業、ほ装工事業、しゅんせつ工事業、内装仕上工事業、水道施設工事業</p>		
URL http://www.eisin.info E-mail sakura-e@eisin.info			

エムエス工業株式会社



所在地	〒039-2246 青森県八戸市桔梗野工業団地二丁目8-15		
電話	0178-28-8141	FAX	0178-28-8024
資本金	1,000万円	従業員数	75名
代表者	設立		
代表取締役	河村 俊一	昭和45年10月14日	
事業内容	<p>各種制御盤製造は、それぞれの工場の設備や使用機械により仕様様異なり、それぞれに対応した盤を作成するために、制御回路の設計から製造まで一連の技術をトータルに提供しております。</p> <p>省力化機械製造は、省人化、省力化するための機械をお客様の敷地や設備機器の配置、仕様に合わせて機械の設計を行い、今までに培った経験と創造力が如何なく発揮され、確かな技術力で製造にあたります。また、既存の機械の改造、改良も行います。</p>		
URL http://www.mskogyo.co.jp/ E-mail h-ogasawara@mskogyo.co.jp			

オーツ力鉄鋼販売株式会社 八戸支店

所在地	〒039-2246 青森県八戸市桔梗野工業団地三丁目1-60		
電話	0178-20-1911	FAX	0178-20-1915
資本金	30,000万円	従業員数	55名
代表者	設立		
代表取締役社長	嶋津 邦夫	昭和57年4月1日	
事業内容	一般鋼材、土木建材製品販売、建設用仮設鋼材リース		
八戸支店支店長 武石 喜隆 本社／〒103-0005 東京都中央区日本橋久松町9-9 SCI日本橋ビル TEL.03-3664-6691 FAX.03-3664-6693			

有限会社 小笠原鉄工所

所在地	〒031-0841 青森県八戸市大字鮫町字鮫90-10		
電話	0178-33-3548	FAX	0178-34-6676
資本金	500万円	従業員数	6名
代表者	設立		
代表取締役社長	小笠原良一	昭和51年7月1日	
事業内容	各種金属の熔接、熔断、鍛造、製函、配管工事一式、及び船舶機装工事全般、それらに附帯する一切の事業		

株式会社 角弘 八戸支店



所在地	〒039-1121 青森県八戸市卸センター二丁目9-28		
電話	0178-28-4111	FAX	0178-28-9418
資本金	37,800万円	従業員数	350名
代表者	設立		
代表取締役社長	小田桐健蔵	明治16年8月16日	
事業内容	鉄鋼、建設資材、建設工事、生活用品、燃料 卸売り及小売業		

本社／〒030-8543 青森県青森市新町二丁目5-1
TEL.017-723-2222 FAX.017-723-2224

URL <http://www.kakuhiro.co.jp>

株式会社 カネコ商会 八戸営業所



所在地	〒039-1168 青森県八戸市八太郎六丁目5-26		
電話	0178-28-0630	FAX	0178-28-0752
資本金	1,000万円	従業員数	19名
代表者	設立		
代表取締役	荒 利隆	昭和53年9月	
事業内容	産業用高圧ガス、一般家庭用LPガス、灯油など ガスを中心とした、産業用機械、溶接棒など		

本社／〒951-8011 新潟県新潟市中央区入船町五丁目3935
TEL.025-223-6551 FAX.025-223-6579

URL <http://www.kaneko-s.co.jp>
E-mail hachinohe@kaneko-s.co.jp

河内屋金物株式会社 鋼板センター

所在地	〒039-1121 青森県八戸市卸センター二丁目8-31		
電話	0178-28-2775	FAX	0178-20-1412
資本金	9,000万円	従業員数	30名
代表者	設立		
代表取締役	橋本八右衛門	昭和10年3月	
事業内容	〔本社〕鋼材、鉄鋼二次製品、板ガラス、サッシ、金属建材、機械工具、住設機器等の卸売 鋼構造物工事、板金工事、ガラス工事、建具工事 〔鋼板センター〕鋼板加工（プラズマ切断、ガス熔断、シャーリング、孔明、ショット、開先、溶接H形鋼製造）		

URL <http://kawachiya-kanamono.com/>
E-mail kawak01@hi-net.ne.jp

株式会社 河村鉄工所

所在地	〒031-0801 青森県八戸市江陽四丁目12-11		
電話	0178-22-4124	FAX	0178-22-4125
資本金	1,000万円	従業員数	11名
代表者	設立		
代表取締役	河村 正之	昭和38年6月24日	
事業内容	建設工事、配管工事、機械メンテナンス、造船及び船舶機装 前記に付帯する一切の業務		

E-mail kawamura.tekko@river.ocn.ne.jp

北日本機械金属株式会社



所在地	〒031-0071 青森県八戸市沼館四丁目7-37		
電話	0178-73-7361	FAX	0178-43-1053
資本金	3,000万円	従業員数	47名
代表者	設立		
代表取締役	小野寺泰博	昭和37年3月1日	

事業内容
当社は金属精密加工による各種機械部品の製作や、船舶、陸用エンジンメンテナンスをお客様にお届けしております。「北日本機械金属で製作した部品、手掛けたメンテナンスは安心して使用しております。」とのお客様のお言葉に感謝し、さらに満足して頂けるよう、社員一同一丸となって頑張っております。
各種精密部品の機械加工（液晶装置、油圧機械、医療機器、モーター等の各種部品）、陸船用エンジンメンテナンス及びパーツ販売

URL <http://www.kitanihon-k.co.jp> E-mail honsya@kitanihon-k.co.jp

北日本鍍金株式会社



所在地	〒039-1161 青森県八戸市大字河原木字北沼1-102		
電話	0178-28-0567	FAX	0178-28-1118
資本金	9,600万円	従業員数	21名
代表者	設立		
代表取締役	大志民 稔	昭和57年3月15日	

事業内容
溶融亜鉛めっき（認証番号：TC0207112、規格番号：JIS H8641 2007）、電気めっき（亜鉛・ニッケル・装飾クロム・半田・無電解ニッケル）、黒染、電解研磨、ステンレス酸洗、ステンレス化学研磨

E-mail protec@hi-net.ne.jp

株式会社 共同シャーリング

所在地 〒030-0071 青森県八戸市沼館三丁目3-33
 電話 0178-43-8951 FAX 0178-43-8944
 資本金 1,600万円 従業員数 20名
 代表者 設立
 代表取締役 高峯 左一 昭和60年10月1日
 事業内容
 鋼板加工業
 鋼板の裁断・ガス溶断・プラズマ切断
 折曲げ・削孔・開先取り・ショット加工

URL <http://www.kdsr.co.jp/kaisyaannai.html>
 E-mail sktkt@kdsr.co.jp

共立工業株式会社



所在地 〒039-1201 青森県三戸郡階上町大字道仏字耳ヶ吠1-1
 電話 0178-88-5050 FAX 0178-88-4852
 資本金 1,000万円 従業員数 23名
 代表者 設立
 代表取締役 吉田 勝俊 昭和23年5月
 事業内容
 建築鉄骨工事(国土交通大臣 認定番号 TFBM-110124)
 建築金物工事

E-mail kyouritu@hkg.0dn.ne.jp

有限会社 久保沢工業



所在地 〒031-0803 青森県八戸市諏訪三丁目1-5
 電話 0178-44-5180 FAX 0178-45-2800
 資本金 500万円 従業員数 25名
 代表者 設立
 代表取締役 久保沢勇吉 平成元年10月2日
 事業内容
 青森県知事許可(般-18)第12824号
 製缶・配管・プラント工事
 溶接工事一式

E-mail k.k-89@htv-net.ne.jp

軽鐵加工株式会社

所在地 〒039-2246 青森県八戸市桔梗野工業団地三丁目6-35
 電話 0178-20-2281 FAX 0178-20-2240
 資本金 1,000万円 従業員数 0名
 代表者 設立
 代表取締役 川崎 洋子 昭和60年4月1日
 事業内容
 NCBW-150V アマダビームワーカー 2台
 HFA-400 アマダ自動バンドソー 1台
 H250D アマダバンドソー 1台
 3PH-700 3軸ドリル自動穴開機 1台
 平鋼、等辺山形鋼、不等辺山形鋼、溝形鋼、H形鋼、軽量形鋼、
 角パイプ、穴開け、切断賃加工業

有限会社 光洋鉄工



所在地 〒039-2246 青森県八戸市桔梗野工業団地二丁目8-26
 電話 0178-20-1315 FAX 0178-20-3251
 資本金 500万円 従業員数 27名
 代表者 設立
 代表取締役 小金平育男 昭和52年6月23日
 事業内容
 製缶、配管工事及び機械器具設置工事

E-mail kouyoutetukou@festa.ocn.ne.jp

有限会社 小貝工業所

所在地 〒031-0801 青森県八戸市江陽二丁目11-4
 電話 0178-43-5458 FAX 0178-43-5472
 資本金 5,000千円 従業員数 8名
 代表者 設立
 代表取締役 小貝 文雄 昭和42年6月
 事業内容

斉藤商事株式会社



所在地	〒031-0071 青森県八戸市沼館一丁目20-23		
電話	0178-43-3110	FAX	0178-45-3188
資本金	3,200万円	従業員数	21名
代表者	設立		
代表取締役	斉藤 裕康	昭和27年2月7日	
事業内容	鋼材部 一般鋼材 石油事業部 灯油・軽油・重油・潤滑油 ガス住設部 プロパンガス・ガス器具・冷暖房器具 衛生設備機器・上下水道用鉄蓋 運輸・保険部 第一種利用運送事業・各種損害保険 アクア事業部 アクアクララ（浄留水）		

佐々木塗料株式会社



所在地	〒039-1121 青森県八戸市卸センター一丁目8-8		
電話	0178-20-1021	FAX	0178-20-1796
資本金	1,000万円	従業員数	22名
代表者	設立		
代表取締役	佐々木泰宏	昭和26年6月1日	
事業内容	1. 時代が求める塗料・溶剤・防水材の販売 塗料…鉄骨用・プラント用・建物用・船舶用・自動車用・その他特殊用途用 防水材…シーリング材・塗膜防水剤・シート防水剤 2. 生産性と環境を考えた塗装関連機器・資材のご提案と販売 コンプレッサー、高圧洗浄器、発電機、塗装ブース、自動塗装装置、焼付乾燥設備、溶接機、研磨材、養生資材、看板資材 3. カラーシュミレーションによる建物の色彩提案		
URL	http://www.sasaki-toriyo.co.jp/		E-mail infol@sasaki-toriyo.co.jp

有限会社 サンニサン

所在地	〒039-1208 青森県三戸郡階上町大字角柄折字平11-107		
電話	0178-88-1399	FAX	0178-88-1390
資本金	300万円	従業員数	5名
代表者	設立		
代表取締役	佐藤 洋子	平成4年4月1日	
事業内容	医療、工業、厨房、車輛、装飾金属、工芸品、建築等のステンレス、チタン、アルミ、銅、真鍮等の加工製作・取付に厚労省認定・青森県卓越技能者が指示相談に応じます。		

URL <http://www15.ocn.ne.jp/~m323/>
E-mail m323@forest.ocn.ne.jp

有限会社 坂本工業所

所在地	〒031-0801 青森県八戸市江陽五丁目14-10		
電話	0178-44-1896	FAX	0178-46-4114
資本金	500万円	従業員数	5名
代表者	設立		
代表取締役	坂本三喜夫	昭和43年8月10日	
事業内容	プラント設置、修理等工事 一般建設業 青森県知事許可（般-20）第3000391号（管工事業 鋼構造物工事業 機械器具設置工事業）		

有限会社 差波工機

所在地	〒031-0012 青森県八戸市大字十日市字姥岩14		
電話	0178-96-2565	FAX	0178-96-4666
資本金	500万円	従業員数	7名
代表者	設立		
代表取締役	差波 武志	平成元年4月8日	
事業内容	鋼構造物工事業、青森県知事許可（般-18第12958号）		
E-mail	sasinami@agate.plala.or.jp		

株式会社 シマキユウ 八戸営業所



所在地	〒039-2241 青森県八戸市大字市川町字高森132		
電話	0178-52-3444	FAX	0178-52-6444
資本金	1億円	従業員数	197名
代表者	設立		
代表取締役社長	島田 隆昭	昭和11年11月1日	
事業内容	・産業用高圧ガス、ドライアイスの製造販売 ・溶接材料、産業機器、鋳造材料、環境医療機器 ・工具・ボルト・安全防災関係・管材関係 販売		

本社／〒940-8510 新潟県長岡市原町一丁目5-15
TEL.0258-24-2700 FAX.0258-24-2589

URL <http://www.shimakyu.com>

有限会社 島守鉄工所



所在地 〒031-0813 青森県八戸市新井田字塩入下1-1
 電話 0178-33-5321 FAX 0178-33-5320
 資本金 500万円 従業員数 7名
 代表者 設立
 代表取締役 島守 秀喜 昭和39年4月1日
 事業内容
 ミールプラント及び各種プラント製作据付工事
 水産機械、各種機械製作据付

有限会社 下沢工業所

所在地 〒039-2246 青森県八戸市桔梗野工業団地二丁目9-18
 電話 0178-20-1025 FAX 0178-20-1025
 資本金 540万円 従業員数 15名
 代表者 設立
 代表取締役社長 下沢 良信 昭和52年10月1日
 事業内容
 金属加工業（製缶）、電気・ガス溶接、配管工事

株式会社 菅原ディーゼル



所在地 〒031-0811 青森県八戸市新湊一丁目3-21
 電話 0178-35-2515 FAX 0178-35-2828
 資本金 1,000万円 従業員数 60名
 代表者 設立
 代表取締役社長 菅原 章夫 昭和55年1月5日
 事業内容
 常用非常用自家発電設備保守点検整備
 各種プラント用機器設置及びメンテナンス工事
 船用内燃機関整備、各種機械加工

E-mail sgwrde@theia.ocn.ne.jp

株式会社 住吉工業



所在地 〒039-1161 青森県八戸市大字河原木字北沼1-100
 電話 0178-28-3024 FAX 0178-28-9224
 資本金 4,500万円 従業員数 52名
 代表者 設立
 代表取締役社長 吉田 誠夫 昭和42年10月24日
 事業内容
 1. 熱延コイルのレベラーカット加工
 2. 鋼板のシャーリング、プラズマ・レーザー切断
 3. 折曲、孔明、ショット、開先等の鋼板の加工
 4. 溶接H形鋼の加工
 5. スタッド溶接

URL <http://www.sumi-yosi.co.jp/>
 E-mail eigyou@sumi-yosi.co.jp

有限会社 スリーアロー

所在地 〒031-0811 青森県八戸市新湊一丁目11-6
 電話 0178-34-6613 FAX 0178-34-6614
 資本金 300万円 従業員数 2名
 代表者 設立
 代表取締役 片桐 克巳 昭和53年10月1日
 事業内容
 船舶、陸上内燃機関溶接修理
 鋳物、鋳鋼、鋼合金、アルミ合金、ニッケル合金
 耐熱鋼、硬化断裂等、各種機械等の亀裂、破損、摩耗の溶接修理

有限会社 青和興業

所在地 〒039-2206 青森県上北郡おいらせ町松原二丁目132-58
 電話 0178-52-5157 FAX 0178-52-5159
 資本金 600万円 従業員数 14名
 代表者 設立
 中村 浩司 昭和54年2月13日
 事業内容
 機械据付とび工事、製缶・配管工事
 ステンレス研磨工事、機械加工工事
 鉄骨製作・建方工事、土木建築工事
 各種溶接工事、各種設計業務

E-mail mukuhime@lapis.plala.or.jp

株式会社 青和塗料



所在地 〒031-0071 青森県八戸市沼館四丁目7-15

電話 0178-43-2553 FAX 0178-43-2505

資本金 1,000万円 従業員数 13名

代表者 設立
代表取締役 寺地 忠夫 昭和53年6月1日

事業内容

塗料・塗装用具・塗装機器の販売
配色設計・塗装工事の管理、請負
FRP樹脂・接着剤・安全用品
清掃用品・カッティング・各種機器の修理 他

URL <http://www.seiwatoryo.com>
E-mail seiwatoryo@gol.com

株式会社 関向工業

所在地 〒039-1161 青森県八戸市大字河原木字八太郎山10-285

電話 0178-28-6414 FAX 0178-28-6435

資本金 1,000万円 従業員数 15名

代表者 設立
代表取締役 関向 隆 昭和60年7月23日

事業内容

一般プラント製品・据付工事・搬送機械工事(各種ベルトコンベヤ・バケットコンベヤ他)鋼構造物工事、各種槽類工事、配管工事
メンテナンス工事(ゴミ焼却場・水処理場・飼料プラント)

千陽工業有限会社

所在地 〒031-0816 青森県八戸市新井田西三丁目1-32

電話 0178-25-4775 FAX 0178-25-4775

資本金 500万円 従業員数 12名

代表者 設立
代表取締役 千田 成人 昭和63年4月18日

事業内容

1. 船舶建造及び修理、販売
2. 製缶、配管曲げ加工
3. アルミ等非鉄金属溶接、加工
4. 油圧管等酸洗い
5. 前各号に附帯する一切の事業

大設ガス化学株式会社



所在地 〒039-1165 青森県八戸市石堂四丁目4-14

電話 0178-20-2378 FAX 0178-20-3647

資本金 1,000万円 従業員数 6名

代表者 設立
代表取締役 瀧澤 設雄 昭和58年8月2日

事業内容

高压ガス販売

有限会社 第一プラント工業



所在地 〒031-0023 青森県八戸市大字是川字土間沢20-7

電話 0178-96-3339 FAX 0178-96-3340

資本金 800万円 従業員数 20名

代表者 設立
代表取締役 山岸 清人 昭和52年7月14日

事業内容

各種プラント設計・施工修理
建設機械修理・重軽量鉄骨工事・搬送機械(環境機械)

E-mail d1plant-kamei@kjc.biglobe.ne.jp

株式会社 高砂重工



所在地 〒039-2246 青森県八戸市桔梗野工業団地二丁目11-50

電話 0178-28-3341 FAX 0178-20-4138

資本金 1,000万円 従業員数 15名

代表者 設立
代表取締役 高砂 充宏 昭和23年8月15日

事業内容

官公庁のプラント工事及び修繕工事
(上下水道機械設備工事の設計製作据付工事)
碎石 砂利プラント、飼料 食品プラント、コンベヤ、タンク等
各種産業機器の設計・製作・据付及びメンテナンス

E-mail takajyu@extra.ocn.ne.jp

株式会社 高橋製作所



所在地 〒039-1161 青森県八戸市大字河原木字浜名谷地76-344
 電話 0178-28-3035 FAX 0178-28-3061
 資本金 5,000万円 従業員数 85名
 代表者 設立
 代表取締役社長 田中 健二 昭和21年5月18日
 事業内容
 各種クレーン 天井クレーン、橋形クレーン、ジブクレーン 他
 搬送機械 ベルトコンベヤー、スクリューコンベヤー、バケットエレベーター、エプロンコンベヤー、チェーンコンベヤー、ローラーコンベヤー 他
 各種産業機械 製鉄、非鉄、製紙、セメント、飼料、化学用産業機械
 鋼構造物 鋼製架台、鋼橋（橋梁、歩道橋）、鋼製煙突、槽類、高架水槽 他
 各種槽類 貯油タンク、貯水槽、サイロ、ストレージタンク、ホッパー 他
 その他 熱交換機、ドライヤー、破碎機
 配管工事 高温・高圧配管、ステンレス配管、その他各種配管
 据付工事 機械・鋼構造物、各種プラントの据付工事
 メンテナンス 上記営業品目の点検・メンテナンス
 URL <http://www.kk-takasei.jp/> E-mail soumu@kk-takasei.jp

有限会社 高森鉄工所



所在地 〒039-1211 青森県三戸郡階上町着前東二丁目6-3
 電話 0178-88-2687 FAX 0178-88-2688
 資本金 1,000万円 従業員数 3名
 代表者 設立
 代表取締役 高森 茂行 昭和56年2月12日
 事業内容
 製缶、配管（SS、SUS）、鉄骨工事
 プラント工事、タンク製作、各種機械製作据付工事
 E-mail takatetsu@ked.biglobe.ne.jp

橋工業株式会社 八戸営業所



所在地 〒031-0071 青森県八戸市沼館一丁目20-2
 電話 0178-38-6430 FAX 0178-38-6431
 資本金 1,800万円 従業員数 8名
 代表者 設立
 八戸営業所所長 古川 聡 昭和48年5月
 事業内容
 ・各種工業用パッキング材の販売
 ・各種配管資材の販売
 ・非鉄製品、鉄鋼製品の販売
 ・合成樹脂製品の販売
 ・機械機器、工具等の販売
 本社／〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町2-3-7
 TEL.03-3668-7771(代) FAX.03-3669-8893
 E-mail tachibna-hurukawa@aria.ocn.ne.jp

株式会社 田中鉄工所



所在地 〒039-1161 青森県八戸市大字河原木字浜名谷地76-30
 電話 0178-28-1660 FAX 0178-28-1860
 資本金 1,000万円 従業員数 25名
 代表者 設立
 代表取締役社長 田中 勝行 昭和43年11月8日
 事業内容
 各種配管工事（設計、配管工事）全般
 各種タンク（油、水、その他）設計製作、据付工事
 各種プラント設計、製作、据付工事
 各種溶接工事（鉄、非鉄金属）全般
 各種メンテナンス工事
 製缶工事全般
 重量物据付工事
 E-mail t-tekkou@hyper.ccn.ne.jp

株式会社 東酸 八戸営業所



所在地 〒039-2245 八戸市北インター工業団地一丁目8-11
 電話 0178-51-1300 FAX 0178-51-1333
 資本金 7,500万円 従業員数 120名
 代表者 設立
 代表取締役社長 葛西 信二 昭和23年1月6日
 事業内容
 産業向け商品 ・一般高圧ガス ・化学薬品 ・産業機械
 ・配管設備工事 ・容器検査
 一般向け商品 ・LPガス ・灯油 ・住宅設備機器 ・厨房
 ・家庭電化機器 ・宝飾品
 本社／〒030-0921 青森県青森市原別五丁目11-56
 TEL.017-736-2125 FAX.017-736-2194
 URL <http://www.kk-tosan.co.jp>
 E-mail hachinohe@kk-tosan.co.jp

東邦アセチレン株式会社 八戸事業所



所在地 〒039-2245 青森県八戸市北インター工業団地一丁目8-8
 電話 0178-21-2200 FAX 0178-21-2202
 資本金 22億6,100万円 従業員数 124名
 代表者 設立
 藤井 恒嗣 昭和23年9月8日
 事業内容
 当社は設立以来、東北・北陸・北海道・関東の各地域に事業の拠点を設けております。基幹産業を支える高圧ガス製造部門、一般家庭から先端産業にいたるエネルギー、器材を扱う商社部門を合わせ持つ幅広い事業地域を網羅しております。
 これからもそれぞれのフィールドを充実させるだけでなく、絶えず研究開発を進め、より一層の発展と新たな可能性へと挑戦し続けていきます。
 本社／〒103-0004 東京都中央区東日本橋二丁目4-10
 TEL.03-5687-5200 FAX.03-5687-8081
 URL <http://www.toho-ace.co.jp/>

東北エア・ウォーター株式会社 青森支店



所在地 〒039-1161 青森県八戸市河原木字蓮沼1

電話 0178-20-3101 FAX 0178-28-8056

資本金 10,000万円 従業員数 188名

代表者 設立
取締役社長 山本 博昭 昭和55年11月14日

事業内容

- ・各種産業ガス、医療ガス等の製造・販売
- ・各種産業関連機器、医療関連機器の販売
- ・作業工具・切削工具・安全保護具等の販売

本社／〒984-0002 宮城県仙台市若林区卸町東一丁目1-3
TEL.022-236-3030 FAX.022-236-3031

URL <http://www.awi.co.jp>

東北建機工業株式会社



所在地 〒039-1161 青森県八戸市大字河原木字北沼18-6

電話 0178-28-5551 FAX 0178-28-5554

資本金 3,000万円 従業員数 60名

代表者 設立
代表取締役 上柿富久夫 昭和31年9月

事業内容

精密機械加工部品から建築鉄骨等大型構造物まで、あらゆる分野に対応出来ます。特にSUS大型真空チャンバーは製缶溶接から大型機械による加工まで一貫した対応が出来ます。

主要生産品目○液晶装置用真空チャンバー等・一般機械加工一式

- クレーン、搬送機、圧力容器・設計、製作
- 橋梁、樋門水管橋・製作、据付 ○各種製缶、配管・製作、据付
- 一般産業機械、プラント・設計、製作
- 建築鉄骨等各種・鋼構造物設計、製作、据付

URL <http://www.to-ken.org> E-mail uegaki@to-ken.org

株式会社 東北鑄鋼

所在地 〒039-2246 青森県八戸市桔梗野工業団地二丁目11-25

電話 0178-20-1213 FAX 0178-28-4179

資本金 1,500万円 従業員数 34名

代表者 設立
代表取締役 工藤 清一 昭和45年10月15日

事業内容

普通鑄鋼、低合金鑄鋼品の製造

製造品 産業機械部品、建設機械部品、バルブ、船舶機装金物
歯車、車輪等素材

当社は県内唯一の鑄鋼メーカーとして模型コスト節減の手込め造型による短納期多品種の製品製造を得意としております。

E-mail chuko@r207.dj.com

東北三吉工業株式会社



所在地 〒039-1524 青森県三戸郡五戸町大字豊間内字地蔵平1-622

電話 0178-62-2545 FAX 0178-62-6054

資本金 3,000万円 従業員数 136名

代表者 設立
代表取締役 田沢 英治 昭和52年9月1日

事業内容

精密板金加工、ワイヤーカット超微細加工、大型製缶加工、真空装置生産ライン組立、液晶製造装置組立、溶接、塗装

URL <http://www.tomiy.com/>
E-mail miyoshi@tomiy.com

株式会社 トーショー

所在地 〒039-1121 青森県八戸市卸センター二丁目6-10

電話 0178-28-9455 FAX 0178-28-8257

資本金 3,200万円 従業員数 24名

代表者 設立
代表取締役社長 加藤 孝光 昭和51年4月1日

事業内容

事務機器・スチール家具・OA機器・事務用消耗品の販売

URL <http://www.tosho-jp.com>

株式会社 トーセン 八戸営業所



所在地 〒039-1161 青森県八戸市大字河原木字北沼1-127

電話 0178-28-1561 FAX 0178-28-2479

資本金 30,000万円 従業員数 198名

代表者 設立
代表取締役 高次 俊一 昭和23年2月

事業内容

当社はJFEグループの1社として東北6県に営業所・営業倉庫と関係会社、協力会社で限なくカバーし、建築・土木製品を主体に鋼材製品全般を取扱う鋼材専門特約店です。グループ各社の連携と協力を最大の武器に、お客様のご要望に即した品揃えと短納期で安定供給に努めてまいります。お客様のニーズにタイムリーに対応し誠実にサポートします。

本社／〒136-0071 東京都江東区亀戸6-47-5
TEL.03-5626-4411(代) FAX.03-5626-4422

有限会社 中里機械



所在地 〒031-0011 青森県八戸市大字田向字デントウ平20-12

電話 0178-96-3851 FAX 0178-96-3819

資本金 500万円 従業員数 6名

代表者 設立
代表取締役 中里 一秋 昭和58年12月23日

事業内容
農業機械・建設機械・自動車販売修理

株式会社 なかやま



所在地 〒031-0071 青森県八戸市沼館一丁目20-11

電話 0178-44-2017 FAX 0178-44-2026

資本金 従業員数 91名

代表者 設立
代表取締役 中山 芳雄 昭和48年3月28日

事業内容
営業品目○工作機械○溶接機器○プレス金型機械○油圧空圧機器○省力化機器
○安全保護具○伝導機器○作業工具○測定機器○工業資材○切削工具○建設機
械○物流管理機器○土木建設資材○研磨用品○木工機械○電動機器○建築金物
○化学製品○非鉄金属○建設業許可番号(般-63)11988号、建設機械リース・一般
工具修理・建設機械販売
営業所○八戸営業所TEL(0178)44-2017代○青森営業所TEL(017)728-3568代○
十和田営業所TEL(0176)23-1049○弘前営業所TEL(0172)26-0390○リース部八戸
TEL(0178)28-8817○機材センター TEL(0178)96-3663○リース部弘前TEL(0172)
26-0390○リース部青森TEL(017)764-3511○リース部十和田TEL(0176)20-2715
URL <http://www.k-nakayama.co.jp/> E-mail info@k-nakayama.co.jp

株式会社 ニッコーケン

所在地 〒039-1165 青森県八戸市石堂一丁目27-15

電話 0178-28-0730 FAX 0178-21-1345

資本金 3,000万円 従業員数 18名

代表者 設立
代表取締役 吉田 誠夫 昭和62年2月

事業内容
・CIW非破壊検査事業者
(社)日本溶接協会「WES8701:2007溶接構造物非破壊検査事業者等
の認定基準」C種 第194C09号 認定、建築鉄骨検査適格事業者 認定
・放射線透過検査(RT)・超音波探傷検査(UT)
・磁粉探傷検査(MT)・超音波厚さ測定(UTM)
・浸透探傷検査(PT)
・保安検査 タンク等の定期開放、各種プラント点検、計測、保守業務
・構造物調査診断、耐震、耐力度・構造物補強、補修工事

有限会社 ハシバ機工

所在地 〒039-2246 青森県八戸市桔梗野工業団地三丁目8-15

電話 0178-28-8704 FAX 0178-28-9155

資本金 500万円 従業員数 2名

代表者 設立
橋場 清 平成元年3月

事業内容

有限会社 八機工業

所在地 〒039-1212 青森県三戸郡階上町蒼前西七丁目9-139

電話 0178-80-1776 FAX 0178-88-6296

資本金 700万円 従業員数 30名

代表者 設立
代表取締役 板垣 竜也 昭和57年2月

事業内容
鋼構造物工事業
機械器具設置工事業

有限会社 八戸青電舎

所在地 〒031-0071 青森県八戸市沼館二丁目1-3

電話 0178-22-1862 FAX 0178-24-4469

資本金 300万円 従業員数 9名

代表者 設立
代表取締役 窪田 佳恭 昭和37年12月21日

事業内容
高圧ガス販売、神鋼溶接材料指定代理店
溶接機器及び工具販売

八戸鉄工建設株式会社



所在地	〒031-0071 青森県八戸市沼館一丁目6-17		
電話	0178-44-1711	FAX	0178-44-2761
資本金	2,000万円	従業員数	8名
代表者	設立		
代表取締役	押田 進武	昭和40年7月1日	
事業内容	建設揚重業…港湾荷役、高所建方、重量物機械据付、建築土木工事現場に於けるラフタークレーン(50トン吊～7トン吊)による諸工事		

E-mail tekken@jeans.ocn.ne.jp

株式会社 八戸鉄工所



所在地	〒039-1161 青森県八戸市大字河原木字北沼15-7		
電話	0178-28-3830	FAX	0178-28-9868
資本金	8,000万円	従業員数	55名
代表者	設立		
代表取締役社長	田村 嘉章	大正7年8月	
事業内容	《総合エンジニアリング》各種プラント・コンベア・クレーン設備等の設計・製作・据付、ステンレス他各種配管工事 《鋼構造物》建築鉄骨・橋梁・歩道橋・水門・鉄塔等の設計・製作・据付 《機械》各種機械加工・重電機器のメンテナンス 《総合建設工事・土木工事》工場・倉庫・事務所・一般住宅・体育館等 《商品販売・システムエンジニア》各種ポンプ・ボイラー、各種クレーン・消防設備防災機材・用品、上記のメンテナンス及び販売		

E-mail soumu@hattetu.jp

八戸ニチアス工事株式会社

所在地	〒039-2246 青森県八戸市桔梗野工業団地二丁目8-20		
電話	0178-28-6761	FAX	0178-28-9772
資本金	1,000万円	従業員数	45名
代表者	設立		
代表取締役	小川 洋成	昭和42年11月1日	
事業内容	原子力発電、火力発電所等に於ける、極低温から超高温まで		

のあらゆる温度領域を適切にカバーし省エネルギー時代の重要な技術課題である断熱工事の施行を通じ環境温度を制御しエネルギーロスを限りなく0に近づける極めて高度な技術力を必要とし、使用環境、用途、物性を精密に分析調査し、断熱性、耐熱性を踏まえた素材選択の調査分析が安全性、コスト計算の両面から実施される。またメンテナンス工期の短縮化なども念頭に置いた多面的なプランが計画される。

E-mail h-nitiasukk-1@ia5.itkeeper.ne.jp

有限会社 原田組鉄工

所在地	〒039-2246 青森県八戸市桔梗野工業団地二丁目5-15		
電話	0178-20-2768	FAX	0178-20-2706
資本金	1,000万円	従業員数	7名
代表者	設立		
代表取締役	原田 與一	昭和57年4月2日	
事業内容	製缶工事、管工事、鋼構造物設置工事		

製缶工事、管工事、鋼構造物設置工事

株式会社 ヒグチ



所在地	〒031-8558 青森県八戸市城下三丁目13-14		
電話	0178-43-4624	FAX	0178-43-4633
資本金	5,000万円	従業員数	28名
代表者	設立		
代表取締役	樋口 宜久	昭和46年9月20日	
事業内容	ボールト・ナットの製造並びに販売、機械工具の販売及び修理、鉄骨工事請負業、土木工事業、建築工事業、非鉄金属の製造及び加工、建設機械等のオイルクーラー(冷却装置)・各種自動車ラジエーターの販売及び修理、食料品及び日用雑貨品の販売、不動産賃貸業、一般廃棄物・産業廃棄物の収集運搬業、弱酸性次亜塩素酸水		

スーパー次亜水衛生管理システムの販売
上記に附帯する一切の事業

E-mail higuchi@jomon.ne.jp

有限会社 船木工業

所在地	〒039-1161 青森県八戸市大字河原木字浜名谷地76-478		
電話	0178-28-1859	FAX	0178-28-2689
資本金	1,000万円	従業員数	18名
代表者	設立 昭和42年6月1日		
代表取締役	船木 康行	(法人設立) 昭和63年1月20日	
事業内容	各種プラント製作、取付工事 各種タンク、配管工事、各種補修工事 鉄骨建築、金物製作、取付工事		

各種プラント製作、取付工事
各種タンク、配管工事、各種補修工事
鉄骨建築、金物製作、取付工事

船越エンジニア工業株式会社



所在地 〒039-2246 青森県八戸市桔梗野工業団地二丁目8-30

電話 0178-20-1011 FAX 0178-28-5109

資本金 3,200万円 従業員数 20名

代表者 設立
代表取締役 船越 純一 昭和50年4月16日

事業内容

当社は製造業等の増設、改造、設備工事及び補修工事を行っております。特に各種溶接免許をもち、主に配管工事を主力とします。

【営業品目】

◎各種クレーン	天井クレーン、橋型クレーン他
◎搬送機械	ベルトコンベアー、スクリューコンベアー他
◎各種槽類	各種タンク、サイロ、ホッパー他
◎各種配管、補修工事	熱交換機等その他

北辰工業株式会社



所在地 〒039-1161 青森県八戸市河原木字宇兵衛河原1-1

電話 0178-22-8026 FAX 0178-45-6129

資本金 1,000万円 従業員数 320名

代表者 設立
代表取締役 田島 幹士 昭和39年12月1日

事業内容

発・変電設備・原子力関連設備：調査・制作・据付・施工、各種産業設備：調査・制作・据付・施工、鋼構造物：制作・据付・施工、電気・制御・計装：調査・据付・施工、建築：一式施工、産業廃棄物等処理プラント：調査・制作・据付・施工、各種鋼材：曲げ加工

E-mail hokusin@aurora.ocn.ne.jp

株式会社 松本鐵工所 八戸事業所



所在地 〒039-2203 青森県上北郡おいらせ町一川目三丁目53-1

電話 0178-52-8150 FAX 0178-52-8115

資本金 5,000万円 従業員数 39名

代表者 設立
所長 石田 好 昭和23年4月12日

事業内容

- (1) 産業機械の設計、製作、据付、組立、補修
- (2) 機械及び部品の機械加工、製缶加工
- (3) 製紙機械据付、メンテナンス
- (4) 製紙機械各種ロール分解整備、組立、補修
- (5) 船舶修理、配管工事
- (6) 天井走行クレーン設計、製作、据付

URL <http://www.matsumoto-tekkosho.co.jp>

E-mail matsumoto-tekkosho@blue.ocn.ne.jp

株式会社 ブンメー 八戸支店



所在地 〒031-0071 青森県八戸市沼館二丁目10-15

電話 0178-44-2521 FAX 0178-44-1853

資本金 3,000万円 従業員数 55名

代表者 設立
代表取締役社長 川村 雄藏 昭和35年3月3日

事業内容

1. 各種ボルト類の販売
2. 建設資材、電動工具、工作機械、工具類の販売
3. 建設業（建築、とび土工、鋼構造物）
青森県知事（般-19）第300123号

URL <http://www.hi.net.ne.jp/miuragp/>

E-mail hachinohe001@bunme.jp

松倉工作所

所在地 〒039-1101 青森県八戸市尻内町字中崎5-13

電話 0178-27-0188 FAX 0178-27-0188

資本金 1,000万円 従業員数 3名

代表者 設立
代表取締役 松倉 辰美 昭和48年3月10日

事業内容

各種製缶、各種溶接、建築金物、鉄骨

丸八工機株式会社

所在地 〒031-0801 青森県八戸市江陽五丁目13-3

電話 0178-43-4651 FAX 0178-43-4653

資本金 2,000万円 従業員数 14名

代表者 設立
深見 太助 昭和37年5月1日

事業内容

伝動用品、各種棒鋼、機械工具

E-mail maru8@vanilla.ocn.ne.jp

有限会社 丸由工業



所在地	〒039-1164 青森県八戸市下長六丁目3-14		
電話	0178-28-3788	FAX	0178-28-3710
資本金	500万円	従業員数	20名
代表者	設立 渡辺 祐治 平成2年9月1日		
事業内容	鳶・土工工事 鉄骨建方・解体工事 足場架設工事 塗装工事 クレーン工事 重量物・機械取付工事 各種メンテナンス工事一式		
	E-mail tobi-maruyoshi@wave.plala.or.jp		

三井金属エンジニアリング株式会社 MESCO 東北支店

所在地	〒039-1161 青森県八戸市大字河原木字浜名谷地76		
電話	0178-28-2041	FAX	0178-28-5251
資本金	10億8,535万円	従業員数	31名
代表者	設立 代表取締役社長 柴田 啓 昭和39年2月		
事業内容	1. 各種プラントの総合エンジニアリング 2. 環境関連設備の設計、施工および環境アセスメント 3. 石油ガスプラントの改修およびメンテナンス（認定検査会社）		
東北支店支店長	久能木健二		
本社	〒130-8531 東京都墨田区錦糸3-2-1 TEL.03-5610-7832 FAX.03-5610-7861		
	URL http://www.mesco.co.jp E-mail ookubo_y@mesco.co.jp		

有限会社 美豊 八戸事業所

所在地	〒039-2245 青森県八戸市北インター工業団地五丁目3-20		
電話	0178-28-8393	FAX	0178-28-8414
資本金	300万円	従業員数	28名
代表者	設立 代表取締役 小松 正美 平成2年1月1日		
事業内容	省力設備の設備部品及び消耗部品 各種試作品 小径穴加工（0.05mm～）		
本社	〒015-0362 秋田県由利本荘市東鮎川字石垣52-19		
	E-mail mitoyo@hi-net.ne.jp		

三浦建設工業株式会社



所在地	〒031-0841 青森県八戸市大字鮫町字高森30-8		
電話	0178-35-2100	FAX	0178-35-2110
資本金	5,000万円	従業員数	80名
代表者	設立 代表取締役 川村 雄藏 昭和28年4月7日		
事業内容	○鋼構造物工事業（鉄骨・橋梁・鉄塔・水門工事） ○建築工事業、土木工事業、とび・土工工事業 ○機械器具設置工事業 ◇国土交通省大臣認定 Hグレード工場 認定番号TFB H-08 0322 ◇建設業許可 青森県知事許可 特定(鋼)(建)(土)(と)一般(機) 第12200号 ◇ISO9001：2008認証		
	URL http://www.hi-net.ne.jp/miuragp/ E-mail miura@miurakk.com		

三菱製紙エンジニアリング株式会社 (MPEC:エムペック)



所在地	〒039-1197 青森県八戸市大字河原木字青森谷地3		
電話	0178-29-2571	FAX	0178-29-2788
資本金	1億5,000万円	従業員数	270名
代表者	設立 代表取締役 竹内 明 昭和42年4月1日		
事業内容	①管工事業及び水道施設工事業 ②鋼構造物及び機械器具設置工事業 ③土木工事業及び建築工事業 ④電気工事業及び電気通信工事業 ⑤機械装置その他各種プラントの設計、製作、施工、販売、修理及び保全管理 ⑥機械装置その他各種プラントの設計技術者派遣及びコンサルタント業 ⑦労働者派遣事業 ⑧一級建築士事務所の経営 ⑨大工工事業及びとび、土木工事業 ⑩塗装工事業及び屋根工事業 ⑪舗装工事業及び浚渫工事業 ⑫熱絶縁工事業及び消防施設工事業		
	URL http://www.mpec-mpm.co.jp E-mail mpec@mpec-mpm.co.jp		

有限会社 元木鉄工所

所在地	〒031-0801 青森県八戸市江陽五丁目12-15		
電話	0178-22-0619	FAX	0178-22-0620
資本金	300万円	従業員数	13名
代表者	設立 代表取締役 元木鉄三郎 昭和50年6月1日		
事業内容	製缶工事・配管工事など		
	E-mail mototetu@hyper.ocn.ne.jp		

有限会社 百石鉄工

所在地	〒039-2206 青森県上北郡おいらせ町松原二丁目132-47		
電話	0178-52-7168	FAX	0178-52-7606
資本金	300万円	従業員数	7名
代表者	設立		
代表取締役	田中 光雄	昭和61年4月1日	
事業内容	鉄骨工事一式 製缶工事一式 配管工事一式 各種機械据付工事一式		

有限会社 山勝鉄工建設

所在地	〒039-1208 青森県三戸郡階上町角柄折字平11-72		
電話	0178-88-1606	FAX	0178-88-1606
資本金	1,000万円	従業員数	6名
代表者	設立		
代表取締役	畠山 定勝	平成14年9月1日	
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・機械装置フレーム組立・溶接、建築設計・施工 ・建築金物製作・修理（アパート外部階段、手摺の修理など） ・ホイスト式クレーンの製作・修理（3t未満） ・鋼構造物の設計・製作、アンカーフレーム据付（携帯電話用鉄塔） ・現場鉄工、テント倉庫 		

URL <http://homepage3.nifty.com/yamakatsu/>
E-mail yamakatsu-tk@nifty.com

やまと鑄造工業株式会社



所在地	〒039-1161 青森県八戸市大字河原木字北沼15-11		
電話	0178-28-9922	FAX	0178-28-0347
資本金	1,000万円	従業員数	23名
代表者	設立		
代表取締役	稲塚 良一	昭和36年5月5日	
事業内容	ダクタイル鑄鉄品・ねずみ鑄鉄品製造、都市景観鑄物、産業機械鑄物、工作機械鑄物、合金鑄物		

URL <http://www.yamatochuzo.com>
E-mail yamatochuzo@smile.ocn.ne.jp

株式会社 安ヶ平鉄工

所在地	〒039-1161 青森県八戸市大字河原木字北沼18-3		
電話	0178-28-1720	FAX	0178-28-2739
資本金	1,000万円	従業員数	11名
代表者	設立		
代表取締役	安ヶ平隆宏	昭和41年5月6日	
事業内容	SS、タンク架台、(亜鉛ドブメッキ) SUS、タンク、架台、階段、手摺、No1、#400仕上げ 鉄骨工事		

山田設備機工株式会社



所在地	〒031-0023 青森県八戸市大字是川字権現堂向15-1		
電話	0178-96-4341	FAX	0178-96-5696
資本金	2,000万円	従業員数	30名
代表者	設立		
代表取締役	山田 政信	昭和42年3月27日	
事業内容	上水・下水・し尿処理施設の設計及び施工		

URL <http://www.yamada-setsubi.com/>
E-mail yamada21@yamada-setsubi.com

株式会社 吉田産業 八戸支店



所在地	〒039-1121 八戸市卸センター二丁目3-30		
電話	0178-20-3111	FAX	0178-20-1805
資本金	従業員数		
代表者	設立		
常務取締役支店長	東山 勉	昭和23年12月3日	
事業内容	建設資材、環境資材、土木資材、住宅設備機器の販売及び施行、 気象情報の販売		

本社/〒031-8655 青森県八戸市大字廿三日町2
TEL.0178-47-8111 FAX.0178-47-8121

URL <http://www.yoshidasangyo.co.jp>
E-mail postmaster@yoshidasangyo.co.jp

有限会社 若松鉄工所

所在地	〒031-0801 青森県八戸市江陽四丁目6-21		
電話	0178-24-4054	FAX	0178-24-4060
資本金	300万円	従業員数	24名
代表者	設立		
代表取締役	若松 孝夫	昭和51年9月7日	
事業内容	各種製造プラント設計製作、保守工事、消耗部品加工製作。ディーゼルエンジン整備。各種操船機器製作。各種配管工事、高圧配管、鋼パイプ配管、塩ビ配管等。		

■オブザーバー

八戸鉄工協同組合



所在地	〒031-0071 青森県八戸市沼館一丁目6-17		
電話	0178-43-1502	FAX	0178-43-1503
出資金	1,678万円	職員数	2名
代表者	設立		
理事長	田島 幹二	昭和37年11月1日	
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ● 共同受注事業 ● 金融事業 ● 中小企業倒産防止共済事業 ● 福利厚生事業 ● 鋼構造物工事業 ● 火災共済代理業務 		

八戸鉄工団地協同組合



所在地	〒039-1161 青森県八戸市大字河原木字浜名谷地76-322		
電話	0178-28-3530	FAX	0178-28-8925
出資金	8,440万円	職員数	3名
代表者	設立		
代表理事	田中 健二	昭和41年12月19日	
事業内容	主な事業…1. 共同受電事業 2. 共同購買事業(石油・LPガス) 3. 金融事業 4. 共同福祉厚生事業 5. 共同駐車場事業 6. 共同出資会社 主な施設…1. 共同受電設備 2. 共同浴場 3. 共同駐車場 組合員11社…1. 株式会社高橋製作所 2. 東北建機工業株式会社 3. 株式会社安ヶ平鉄工 4. 株式会社八戸鉄工所 5. 北日本鍍金株式会社 6. やまと鑄造工業株式会社 7. 東北重工株式会社 8. 太洋石油株式会社 9. トヨタL&F青森株式会社 10. 北日本造船株式会社 11. ㈱KCMJ E-mail hmpark@hi-net.ne.jp		

協同組合 八戸金属工業センター

所在地	〒039-2246 青森県八戸市桔梗野工業団地二丁目9-30		
電話	0178-20-1974	FAX	0178-20-1997
出資金	3,685万円	職員数	2名
代表者	設立		
代表理事	小川 洋成	昭和55年8月1日	
事業内容	1. 団地造成管理事業 2. 共同受電管理事業 3. 共同金融事業 4. 共同駐車場事業		

E-mail k-senter@trust.ocn.ne.jp

編 集 後 記

昨年7月の役員会において、鉄工連50周年記念事業の一環として記念誌の発行が決まりました。まさかその編集委員長に私が任命されるとは思ってありませんでした。幸いにも編集委員に、鉄工連関連の各組合の事務局、会員事業所からは4名の方々に編集委員になっていただき、編集の取りまとめ役として商工会議所をお願いいたしました。

八戸の鉄工についてのまとまった資料は、八戸鉄工協同組合が創立20周年を記念して昭和58年2月に発行した「鉄工はちのへ史」、同組合が30周年記念事業として平成5年3月にまとめた「鉄工30年のあゆみ」があります。これらを元に、内容の深化と最近20年間の資料を充実させることに力を入れました。しかし携わっている者が全員素人ということもあり不備な点も多いことと思います。今後の資料保存の為に皆様へ充実・整理賜ればと思っております。

鉄工連の古い事柄あるいは今後の展望については、歴代の会長である中里さん、田村さん、古戸さんの3人の顧問と田中現会長にお忙しい中、座談会に出席していただき、貴重なお話や、数々のエピソードをお聞きすることが出来ました。

当初、50周年記念式典は5月20日に開催を予定しておりましたが、編集作業も終盤に差し掛かり佳境に入った3月11日「東日本大震災」が発生し、私どもの作業も開店休業という状況となりました。何とかこのたびの記念式典までに発行することが出来ましたが、各事業所における震災とその影響を詳細に取り込むことが出来ませんでした。又、原稿の一部については震災前のものをそのまま乗せており、ご迷惑をおかけすることとなっているかもしれません。

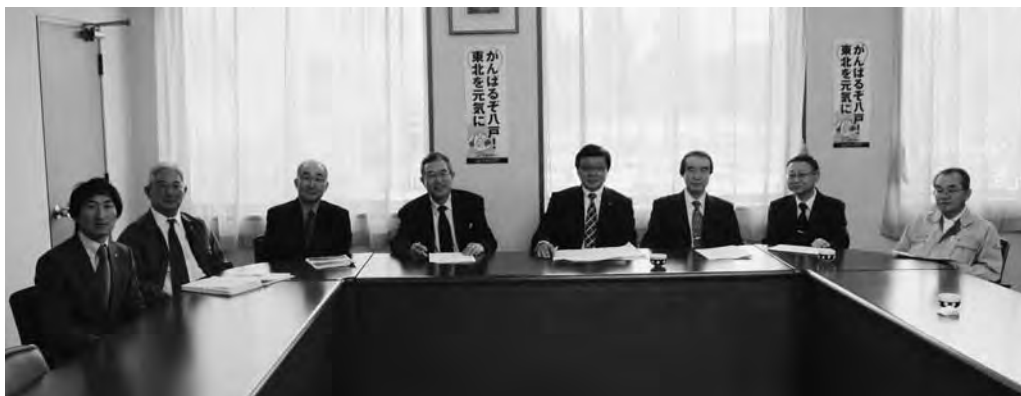
編集委員の皆様にはお仕事のかたわら特に大震災後のお忙しい中で貴重な時間を頂戴しましたし、特に資料のとりまとめをしていただいた事務局の竹ヶ原さんをはじめ商工会議所の皆様には多大なご苦勞とご協力をいただきました。この編集作業を通じて、諸先輩方をはじめ皆様方より貴重なお話を承ると共に、たくさんの貴重な資料をご提供いただきました。記念誌に携わっていただいた方々に深く感謝申し上げます。

私の父が鉄工協同組合の副理事長として、前述の「鉄工はちのへ史」の発行に20周年記念行事実行委員長としてかかわったことを聞きました。今回私が編集委員長として「八戸鉄工の歩み」に携わることが出来たことに不思議な感が致します。

多くの方々のお力によって完成することが出来ましたことに、改めて感謝と御礼を申し上げ編集後記と致します。

平成23年10月17日

小野寺 泰 博



八戸鉄工連合会 創立50周年記念誌編集委員会

委員長	小野寺 泰 博	北日本機械金属(株)代表取締役
委員	上 柿 富久夫	東北建機工業(株)代表取締役
〃	押 田 進 武	八戸鉄工建設(株)代表取締役
〃	大志民 稔	北日本鍍金(株)代表取締役
〃	田 中 喜久男	八戸鉄工(協)専務理事
〃	柳 町 邦 夫	八戸鉄工団地(協)事務局長
〃	高 松 良 悦	(協)八戸金属工業センター事務局長
〃	菊 地 彬 夫	北日本機械金属(株)常務取締役
事務局	竹ヶ原 靖 典	八戸商工会議所

創立50周年記念誌 八戸鉄工の歩み

平成23年10月17日 発行

発行 八戸鉄工連合会
〒031-8511 青森県八戸市堀端町2-3
(八戸商工会議所内)
TEL. 0178(43)5111 FAX. 0178(46)2810

協力 八戸商工会議所

印刷 株式会社 オダプリント
青森県八戸市北インター工業団地三丁目2-100
TEL. 0178(21)2711 FAX. 0178(21)2720

